

大熊町 住民意向調査 報告書

令和7年3月

復興庁
福島県
大熊町

大熊町 住民意向調査 報 告 書

目 次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 調査結果（主要項目）	5
2-1 世帯の属性・状況	7
2-1-1 現在の職業（就業形態）（問 3（1））	7
2-1-2 世帯人数（問 6・問 9）	7
2-1-3 現在の居住自治体（問 7）	8
2-1-4 震災発生当時の住居形態（問 5）	8
2-1-5 現在の住居形態（問 8）	9
2-2 調査結果	10
2-2-1 大熊町への帰町意向（問 12）	10
2-2-2 大熊町に戻ること考えた理由（問 13-1）	13
2-2-3 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること （問 13-2）	14
2-2-4 大熊町へ帰町する場合の家族構成（問 14-2）	15
2-2-5 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（問 15-2）	16
2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態 〔戻りたいと考えている方〕（問 15-3）	17
2-2-7 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（問 16-1）	18
2-2-8 大熊町に戻らないと決めている理由（問 18-1）	19
III 調査結果（全項目）	21
3-1 回答者の属性	23
3-1-1 性別	23
3-1-2 年齢	23
3-1-3 現在の職業（就業形態）	24
3-1-4 現在の業種	25

3-2	東日本大震災発生時の状況	26
3-2-1	震災発生当時の住まいの区域	26
3-2-2	震災発生当時の住まいの行政区	26
3-2-3	震災発生当時の住居形態	27
3-2-4	震災発生当時の世帯構成・人数	28
3-3	現在の状況	29
3-3-1	現在の居住自治体	29
3-3-2	現在の住居形態	30
3-3-3	現在の世帯構成・人数	31
3-4	この1年の大熊町内の活動	32
3-4-1	利用した町内の施設・サービス	32
3-4-2	参加した町内開催のイベント	34
3-5	将来の意向	35
3-5-1	大熊町への帰町意向	35
3-5-2	大熊町に戻ること考えた理由	39
3-5-3	大熊町での今後の生活において必要だと感じていること	41
3-5-4	大熊町への帰町時期	43
3-5-5	大熊町へ帰町する場合の家族構成	45
3-5-6	大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数	47
3-5-7	大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設	48
3-5-8	大熊町へ帰町した場合に必要なサービス	49
3-5-9	大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態	51
3-5-10	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への 居留意向	52
3-5-11	大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を 判断できない理由	55
3-5-12	大熊町への帰町を判断するために必要なこと	56
3-5-13	大熊町との「つながり」を保ちたいか	58
3-5-14	大熊町を訪れたい頻度	60
3-5-15	現時点で戻らないと決めている理由	62
3-5-16	帰町しない場合に今後の生活において必要な支援	65
3-5-17	帰町しない場合に居住を検討する自治体	66
3-5-18	帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	67
3-6	大熊町内での就労意向	68
3-6-1	大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向	68

3-7	「学び舎ゆめの森」の開校	70
3-7-1	「学び舎ゆめの森」への通園・通学の意向	70
3-7-2	「学び舎ゆめの森」で通園・通学をさせたい校種	70
3-7-3	預かり保育・学童保育の利用意向	71
3-8	不動産の取り扱い意向	72
3-8-1	大熊町内に保有している宅地・建物の利用意向	72
3-8-2	不動産利活用事業への登録	72
3-8-3	不動産利活用事業に登録していない理由	73
3-9	復興公営住宅	74
3-9-1	福島県営の復興公営住宅への入居意向	74
3-9-2	福島県営の復興公営住宅への入居を希望する時期	76
3-9-3	福島県営の復興公営住宅への入居を希望する市町村	76
3-10	情報入手	77
3-10-1	大熊町に関する情報の入手経路	77
3-10-2	大熊町役場からの情報提供の満足度	77
3-10-3	関心のある情報	78
3-11	持続可能なまちづくりへの取り組み	79
3-11-1	「大熊町ゼロカーボンビジョン」の認知度	79
3-11-2	持続可能なまちづくりへの取り組みへの意見	79
3-12	意見・要望	81
3-12-1	意見に係る記入内容の分類結果	82
3-12-2	生活について	83
3-12-3	震災発生前の居住地について	85
3-12-4	賠償について	87
3-12-5	帰還について	88
3-12-6	避難期間中及び将来の住宅について	90
3-12-7	除染について	91
3-12-8	復旧・復興について	92
3-12-9	原発の安全性について	93
3-12-10	原発事故に対する対応について	94
3-12-11	その他	95
IV	参考資料	97
4-1	使用調査票	99

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、東京電力福島第一原子力発電所の事故により避難生活を余儀なくされていた大熊町民の「帰町後の生活環境の改善」、「帰町に向けた諸施策の適切な実施に向けた取り組み」を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	大熊町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 5,128 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）、及びWEB調査
(4) 調査期間	令和6年9月30日（月）～令和6年10月20日（日）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、大熊町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,933 世帯（有効回収率 37.7%）

1-5 報告書の見方

- ・調査数（ n = Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・「その他」に内訳を記載している項目に関しては、個別の項目を合算して構成比を改めて算出している。従って、内訳の回答比率の合計が、グラフ記載の「その他」の回答比率と合致しない場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね30を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。
- ・Ⅱ調査結果（主要項目）の設問ごとのコメントについては、令和6年度について述べている。
（令和5年度の結果は、参考値として掲載）

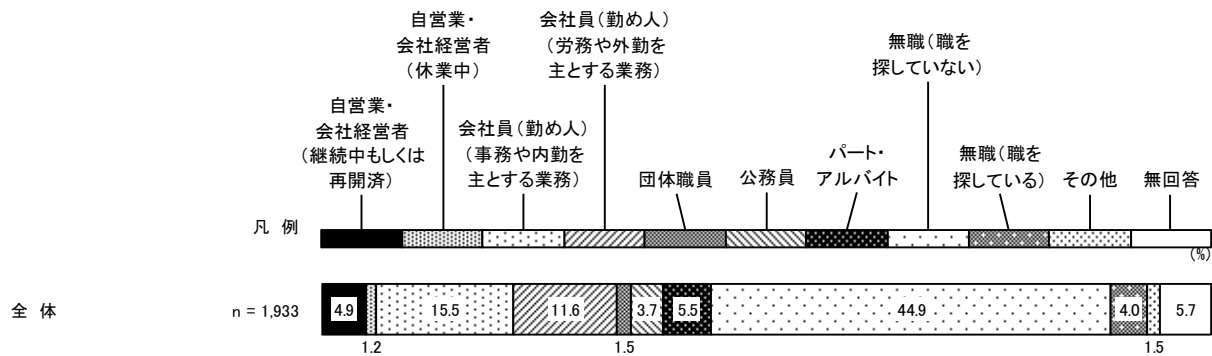
II 調査結果（主要項目）

2-1 世帯の属性・状況

2-1-1 現在の職業（就業形態）（問3（1））

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない）」以外では、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が15.5%と最も高く、次いで「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が11.6%となっている。

<図表2-1-1 現在の職業（就業形態）>

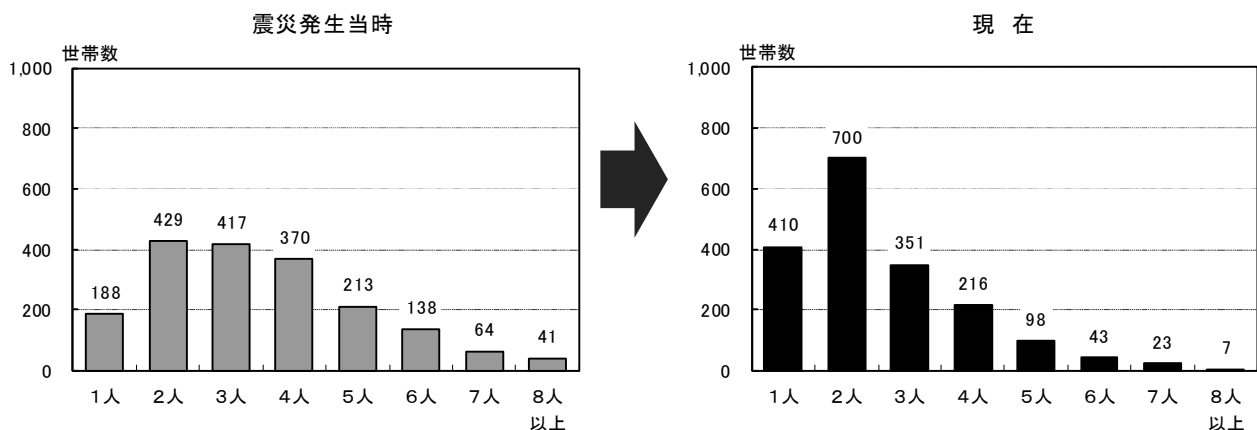


2-1-2 世帯人数（問6・問9）

世帯人数については、震災発生当時は「2人」が429世帯と最も多く、次いで「3人」が417世帯、「4人」が370世帯となっている。

現在の世帯人数は、「2人」が700世帯と最も多く、次いで「1人」が410世帯、「3人」が351世帯となっている。

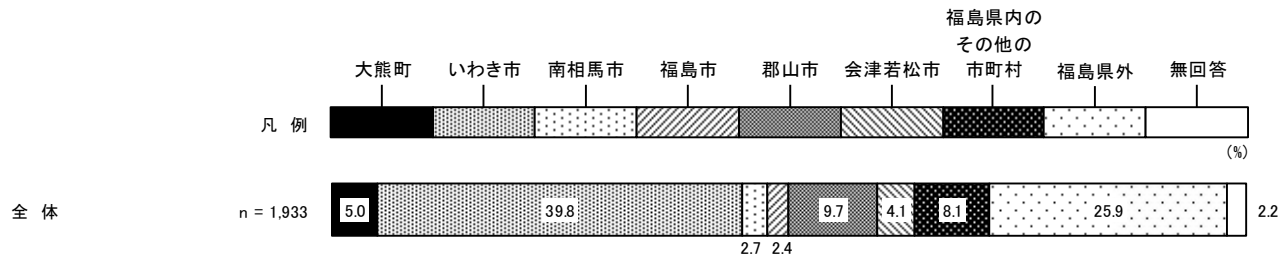
<図表2-1-2 世帯人数>



2-1-3 現在の居住自治体（問7）

現在の居住自治体については、「いわき市」が39.8%と最も高く、次いで「福島県外」が25.9%、「郡山市」が9.7%となっている。

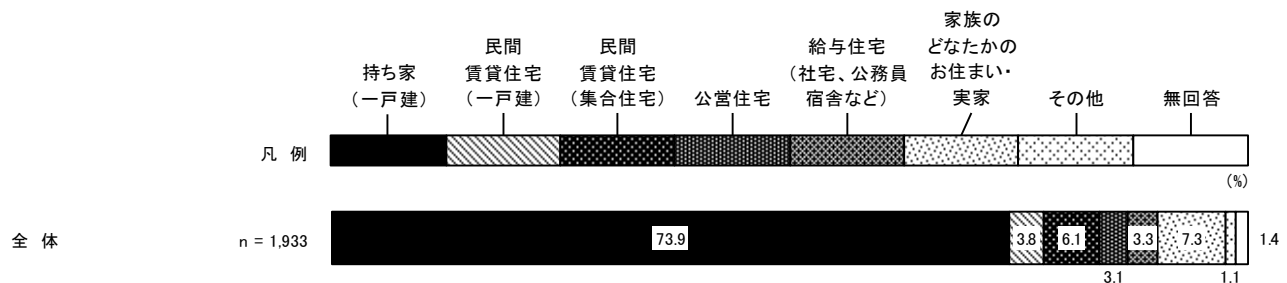
＜図表2-1-3 現在の居住自治体＞



2-1-4 震災発生当時の住居形態（問5）

震災発生当時の住居形態について、「持ち家（一戸建）」が73.9%と最も高く、次いで「家族のどなたかのお住まい・実家」が7.3%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が6.1%となっている。

＜図表2-1-4 震災発生当時の住居形態＞

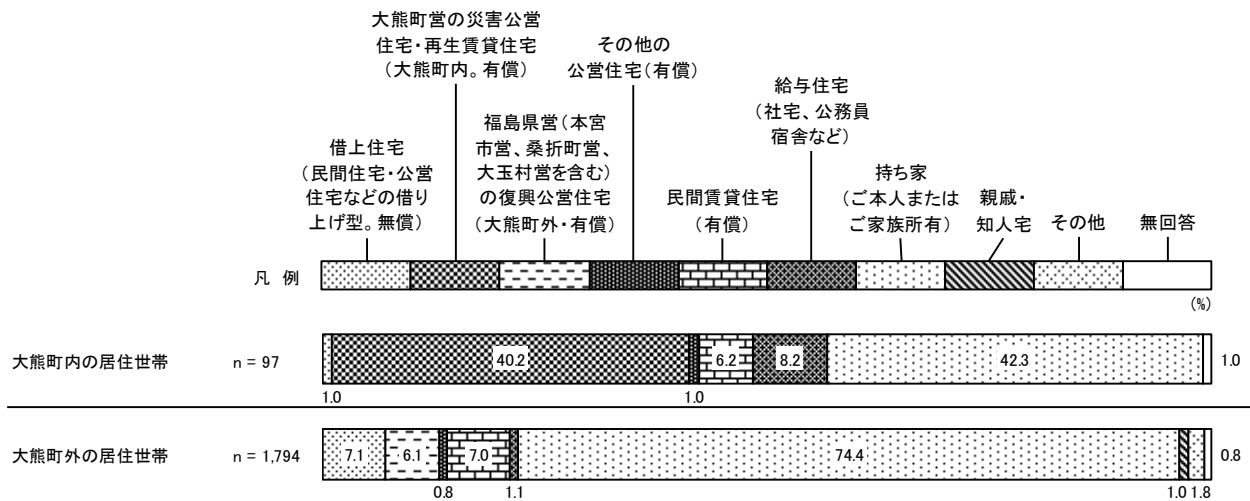


2-1-5 現在の住居形態（問8）

現在の住居形態について、大熊町内の居住世帯では「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が42.3%と最も高く、次いで「大熊町営の災害公営住宅・再生賃貸住宅（大熊町内。有償）」が40.2%、「給与住宅（社宅、公務員宿舎など）」が8.2%となっている。

大熊町外の居住世帯では「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が74.4%と最も高く、次いで「借上住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が7.1%、「民間賃貸住宅（有償）」が7.0%、「福島県営（本宮市営、桑折町営、大玉村営を含む）の復興公営住宅（大熊町外・有償）」が6.1%となっている。

<図表2-1-5 現在の住居形態（現在の居住地域別）>



2-2 調査結果

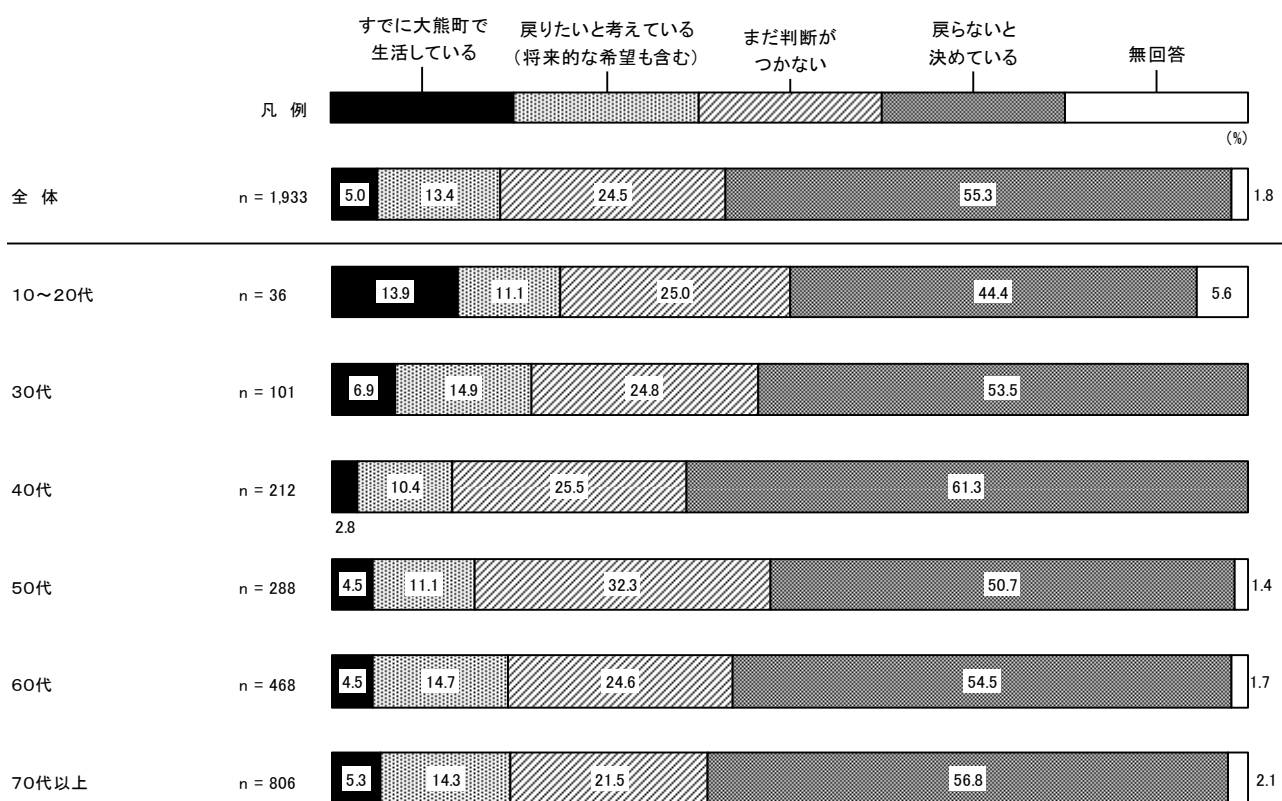
2-2-1 大熊町への帰町意向（問 12）

大熊町への帰町意向については、「すでに大熊町で生活している」（5.0%）、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」（13.4%）をあわせると、大熊町への帰町意向のある世帯は 18.4%となっている。

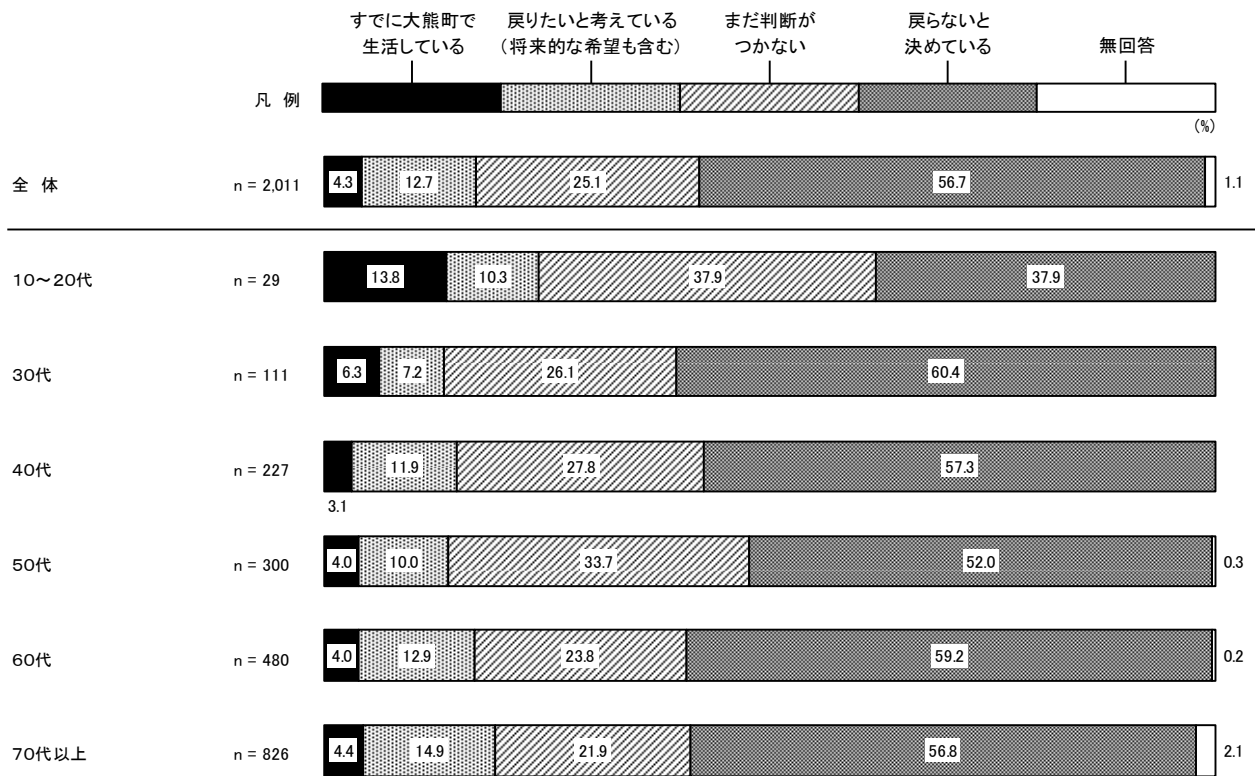
回答者の年齢別にみると、「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」をあわせた大熊町への帰町意向のある世帯は、回答者が 10～20代で 25.0%と高くなっている。「まだ判断がつかない」は 50代で 32.3%と高い。「戻らないと決めている」は 40代で 61.3%と高くなっている。

震災当時の居住地域別にみると、「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」をあわせた大熊町への帰町意向のある世帯について、大川原 2 では「すでに大熊町で生活している」が 33.3%と高く、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」をあわせた大熊町への帰町意向のある世帯は 4 割近い。また、野上 1、町、熊川では、「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」をあわせた大熊町への帰町意向 2 割台半ば～3 割台と高い。

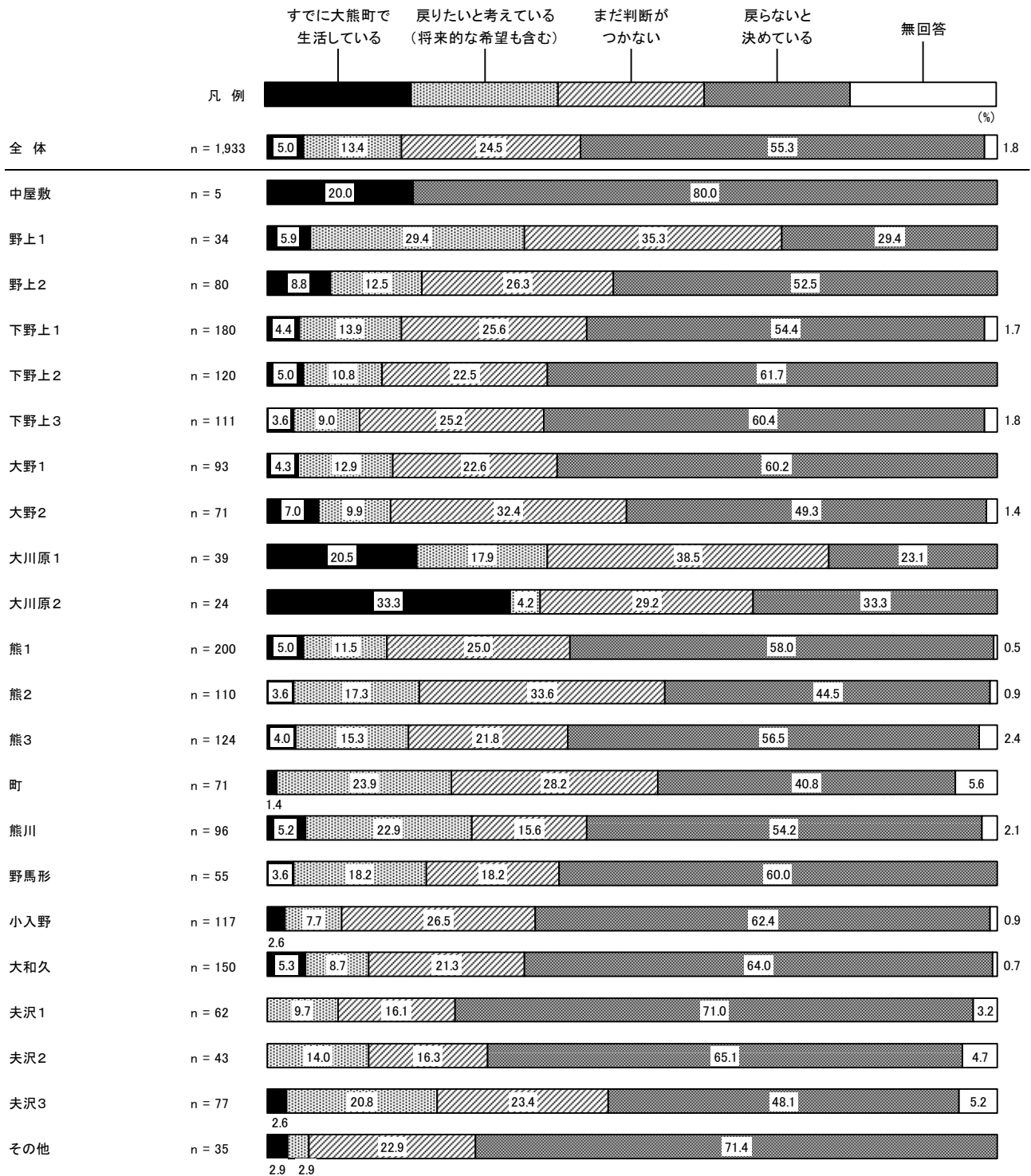
＜図表 2-2-1-1 大熊町への帰町意向：令和 6 年度（年齢別）＞



＜図表2-2-1-2 大熊町への帰町意向：令和5年度（年齢別）＞



＜図表２－２－１－３ 大熊町への帰町意向（震災当時の居住地域別）＞

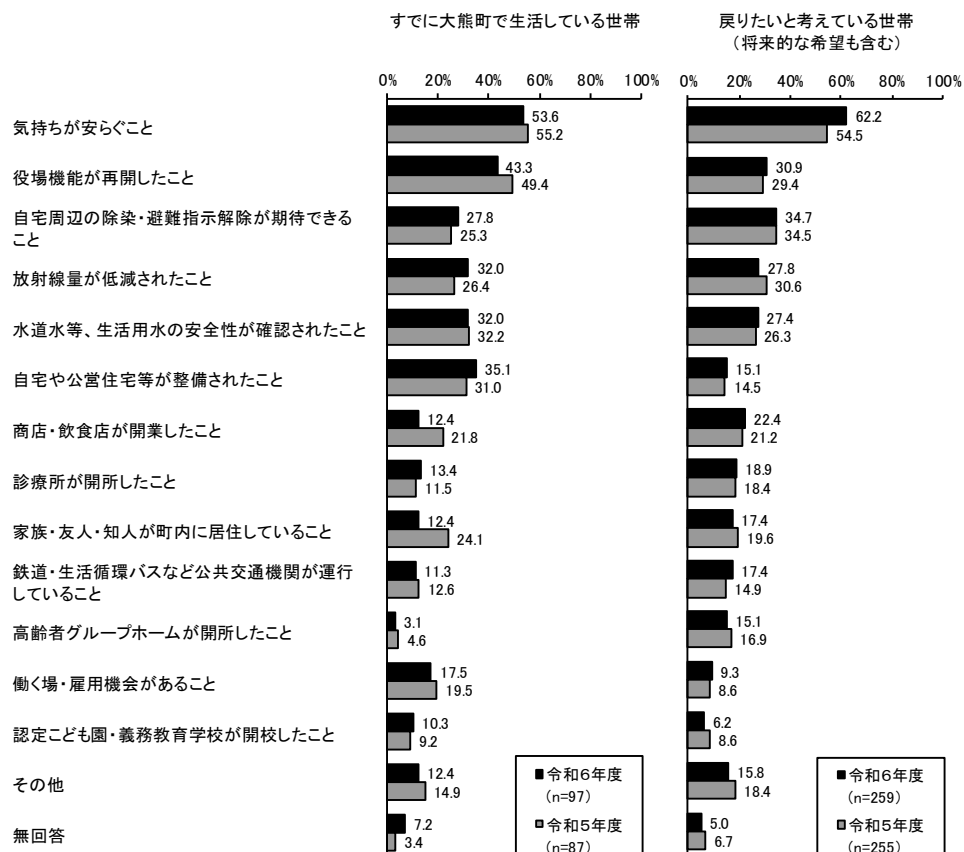


2-2-2 大熊町に戻ることを考えた理由（問 13-1）

大熊町へ戻ることを考えた理由について、帰町意向別にみると、すでに大熊町で生活している世帯では、「気持ちが安らぐこと」が53.6%と最も高く、次いで「役場機能が再開したこと」が43.3%、「自宅や公営住宅等が整備されたこと」が35.1%となっている。

戻りたいと考えている世帯では、「気持ちが安らぐこと」が62.2%と最も高く、次いで「自宅周辺の除染・避難指示解除が期待できること」が34.7%、「役場機能が再開したこと」が30.9%となっている。

＜図表2-2-2 大熊町に戻ることを考えた理由（帰町意向別）＞



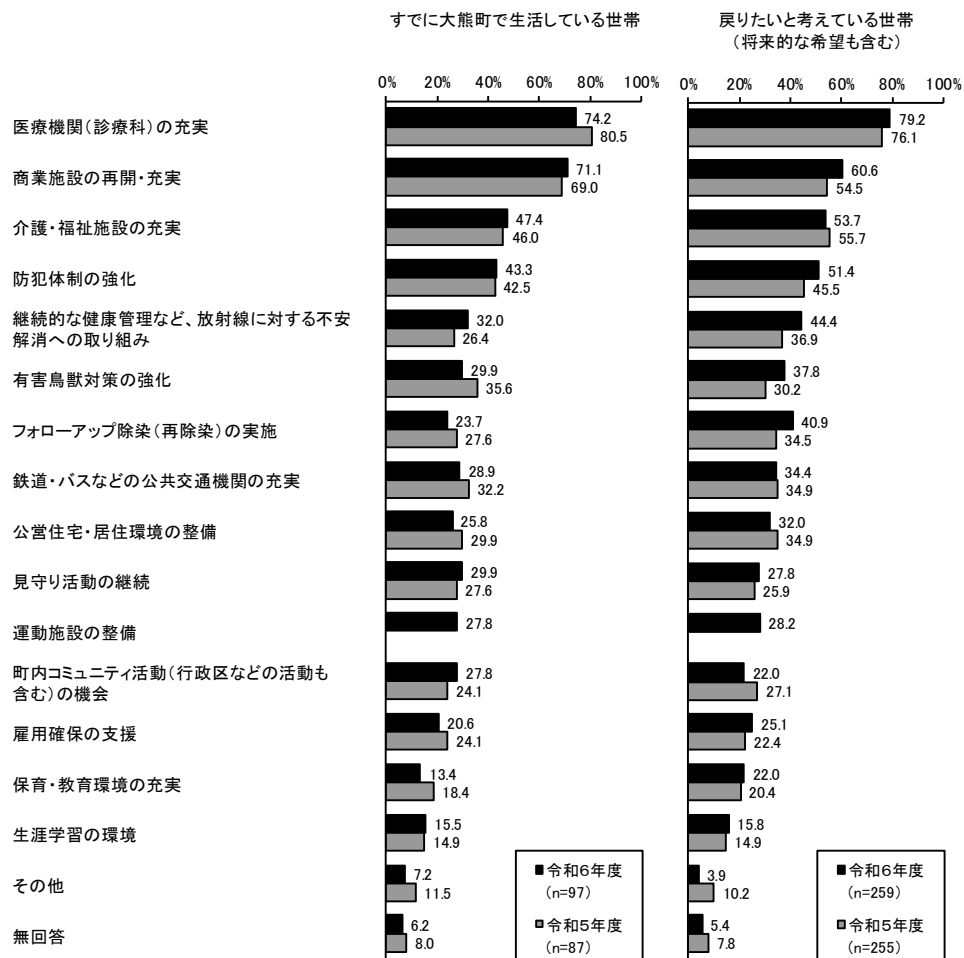
※問12で「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した世帯のみ
※複数回答可

2-2-3 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること（問 13-2）

大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについて、帰町意向別にみると、すでに大熊町で生活している世帯では、「医療機関（診療科）の充実」が74.2%と最も高く、次いで「商業施設の再開・充実」が71.1%、「介護・福祉施設の充実」が47.4%となっている。

戻りたいと考えている世帯では、「医療機関（診療科）の充実」が79.2%と最も高く、次いで「商業施設の再開・充実」が60.6%、「介護・福祉施設の充実」が53.7%となっている。

＜図表2-2-3 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていること（帰町意向別）＞



※問 12 で「すでに大熊町で生活している」「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した世帯のみ

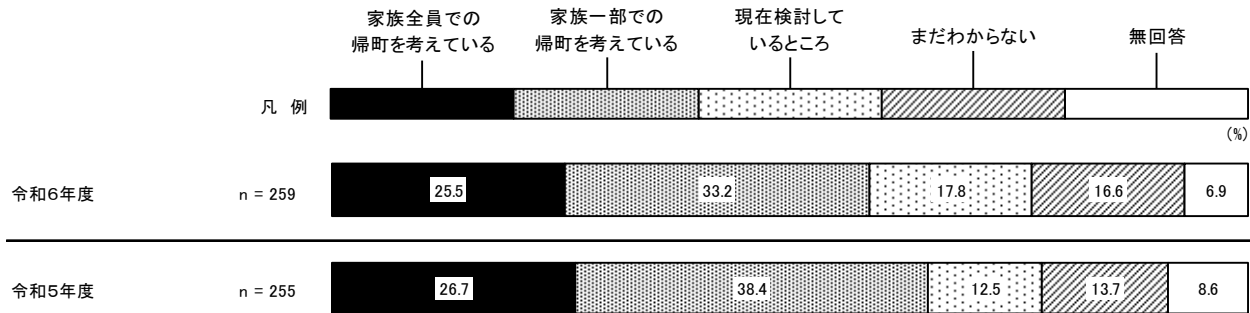
※複数回答可

※令和6年度からの新規回答項目については、令和6年度結果のみ掲載

2-2-4 大熊町へ帰町する場合の家族構成（問 14-2）

大熊町へ帰町する場合の家族構成については、「家族一部での帰町を考えている」が33.2%と最も高く、次いで「家族全員での帰町を考えている」が25.5%となっている。

＜図表2-2-4 大熊町へ帰町する場合の家族構成＞



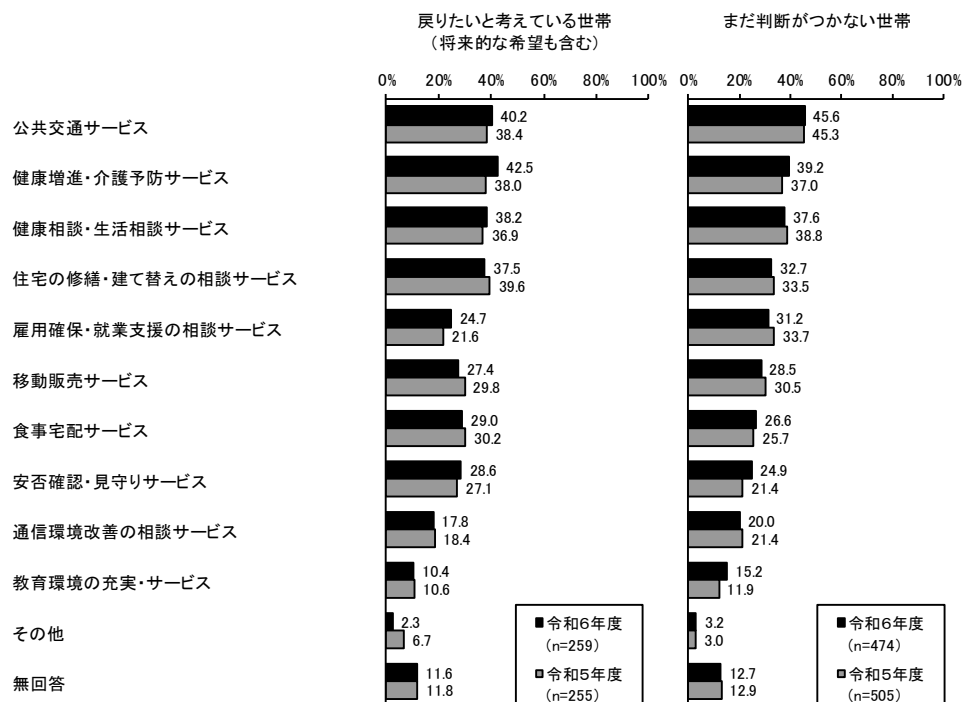
※問 12 で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した世帯のみ

2-2-5 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（問 15-2）

大熊町へ帰町した場合に必要なサービスについては、帰町意向別にみると、戻りたいと考えている世帯では、「健康増進・介護予防サービス」が42.5%と最も高く、次いで「公共交通サービス」が40.2%、「健康相談・生活相談サービス」が38.2%となっている。

まだ判断がつかない世帯では、「公共交通サービス」が45.6%と最も高く、次いで「健康増進・介護予防サービス」が39.2%、「健康相談・生活相談サービス」が37.6%となっている。

＜図表2-2-5 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（帰町意向別）＞

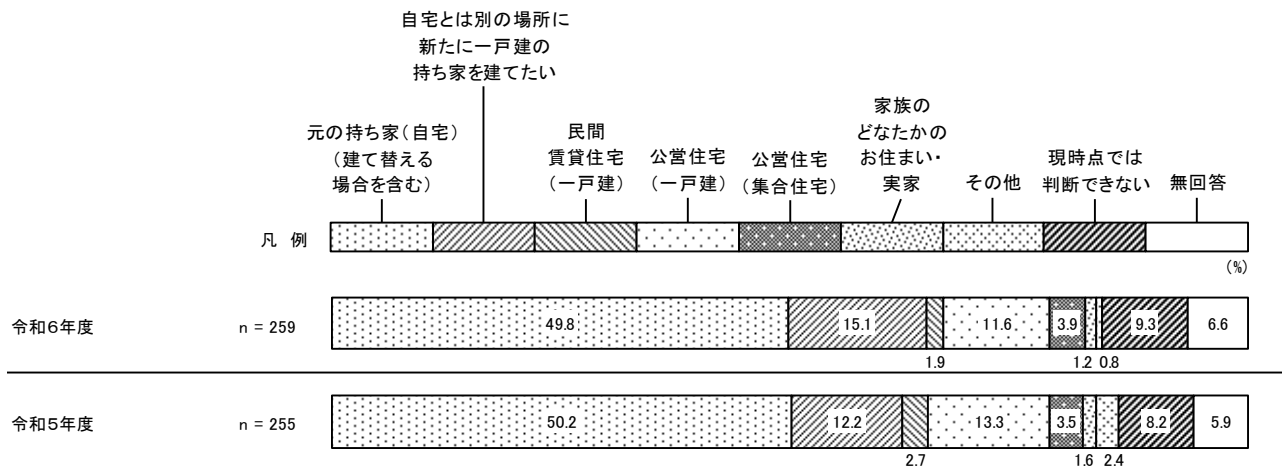


※問 12で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「まだ判断がつかない」と回答した世帯のみ
※複数回答可

2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕 （問 15-3）

大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が 49.8%と最も高く、次いで「自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい」が 15.1%、「公営住宅（一戸建）」が 11.6%となっている。

＜図表 2-2-6 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態〔戻りたいと考えている方〕＞

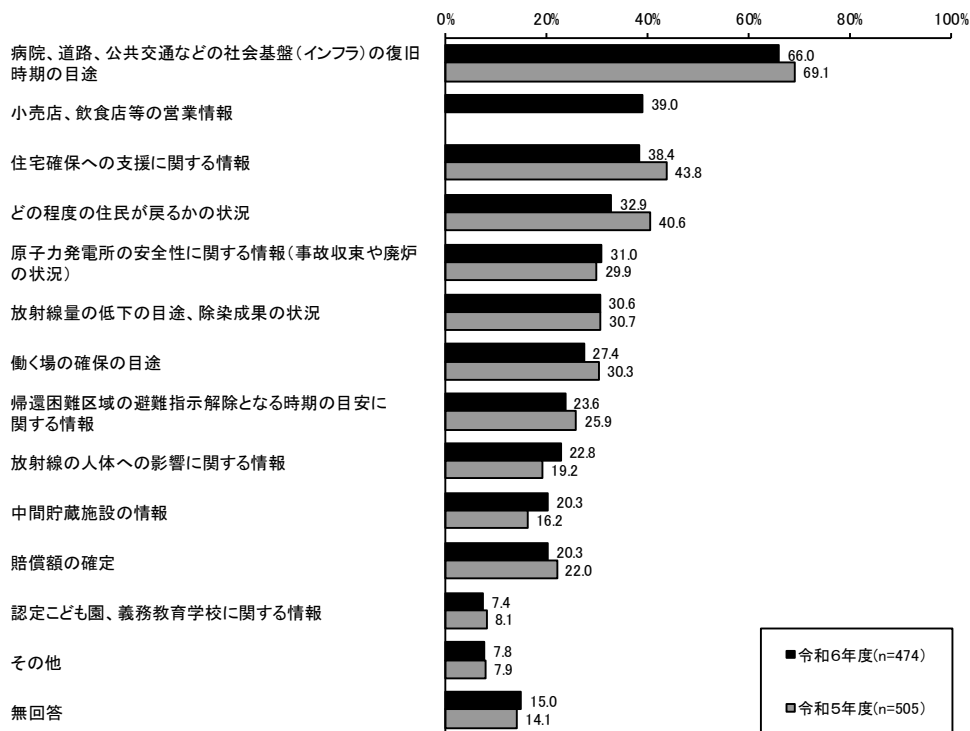


※問 12で「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した世帯のみ

2-2-7 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（問 16-1）

大熊町への帰町を判断するために必要なことについては、「病院、道路、公共交通などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が66.0%と最も高く、次いで「小売店、飲食店等の営業情報」が39.0%、「住宅確保への支援に関する情報」が38.4%となっている。

＜図表2-2-7 大熊町への帰町を判断するために必要なこと＞



※問 12で「まだ判断がつかない」と回答した世帯のみ

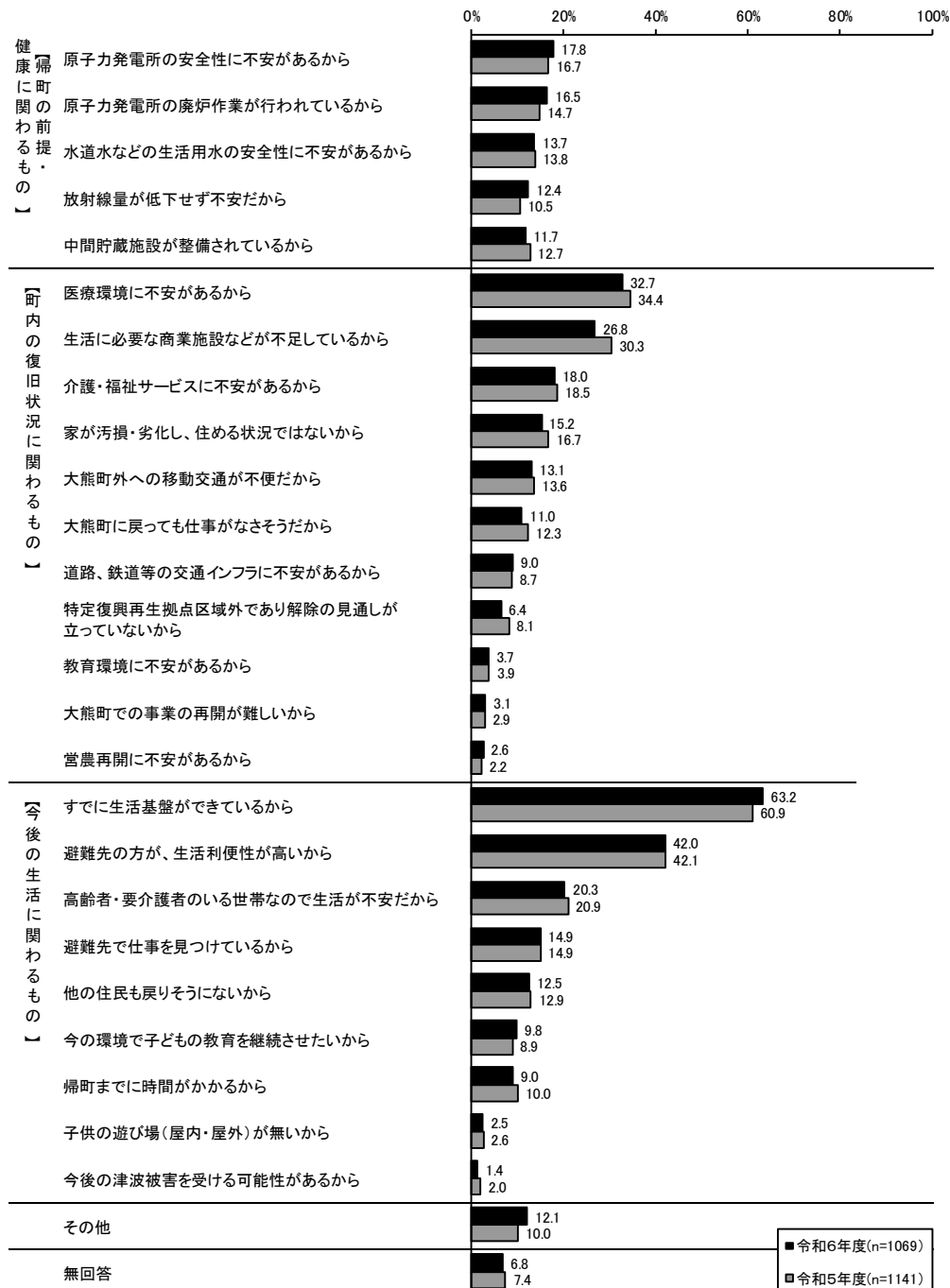
※複数回答可

※令和6年度からの新規回答項目については、令和6年度結果のみ掲載

2-2-8 大熊町に戻らないと決めている理由（問 18-1）

大熊町に戻らないと決めている理由については、「すでに生活基盤ができているから」が63.2%と最も高く、次いで「避難先の方が、生活利便性が高いから」が42.0%、「医療環境に不安があるから」が32.7%となっている。

＜図表 2-2-8 大熊町に戻らないと決めている理由＞



※問 12で「戻らないと決めている」と回答した世帯のみ
※複数選択可

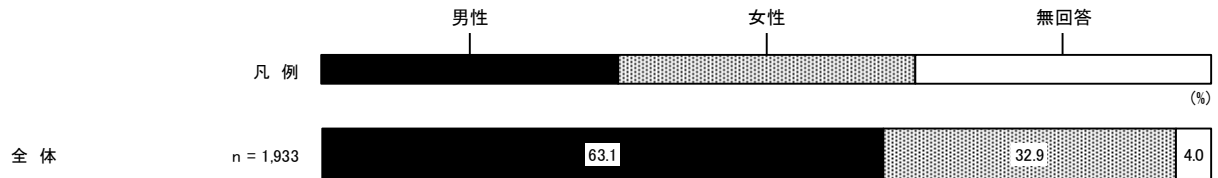
Ⅲ 調査結果（全項目）

3-1 回答者の属性

3-1-1 性別

問1 ご記入いただくあなたの性別を教えてください。（〇は1つ）

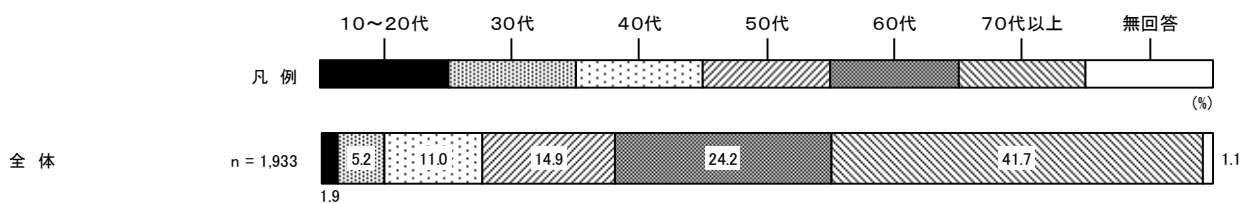
＜図表3-1-1 性別＞



3-1-2 年齢

問2 ご記入いただくあなたの現在の年齢を教えてください。（〇は1つ）

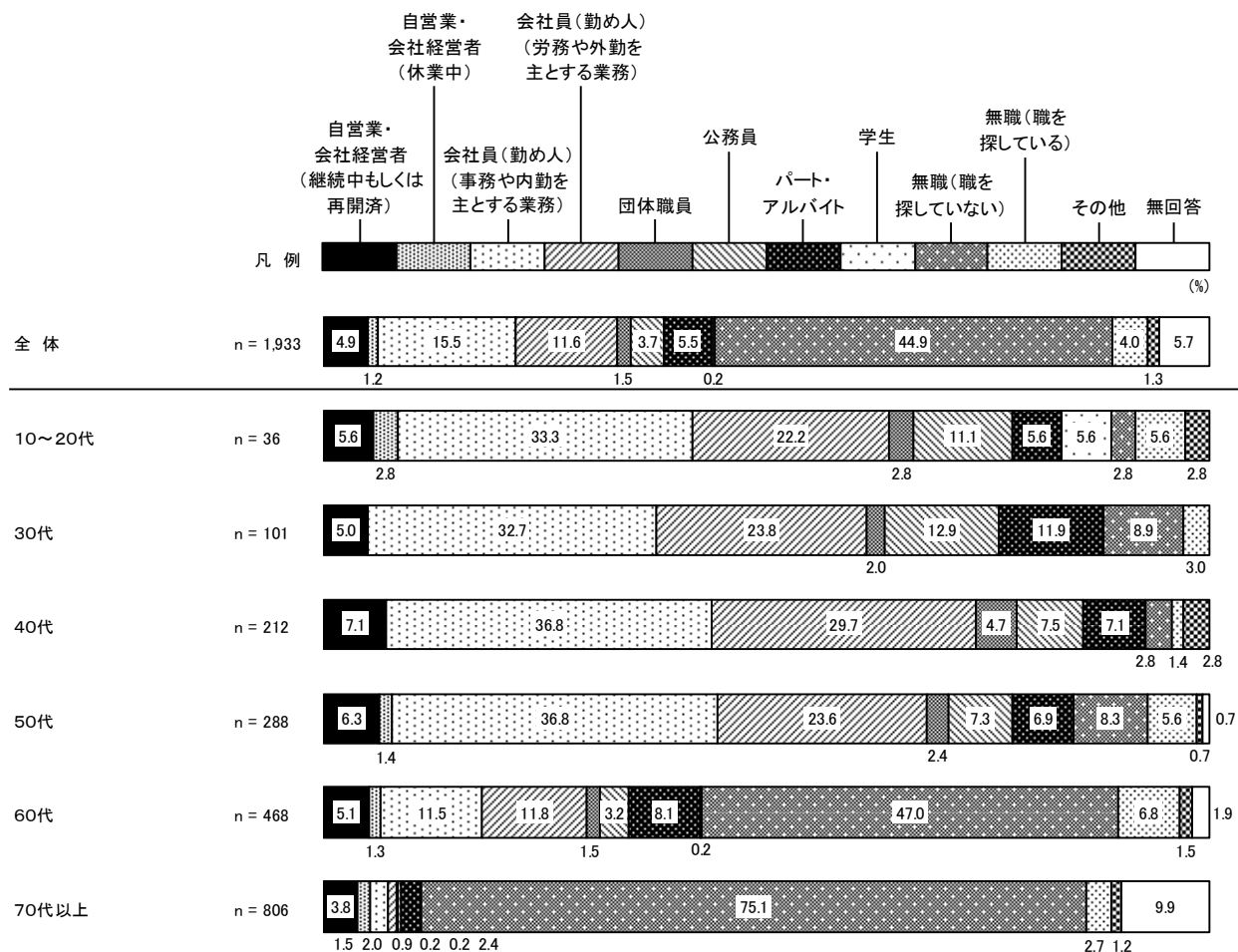
＜図表3-1-2 年齢＞



3-1-3 現在の職業（就業形態）

問3 現在のあなたの世帯の主な収入源となる方の職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。
 (1) 職業（就業形態）（○は1つ）

＜図表3-1-3 現在の職業（就業形態）（年齢別）＞



3-1-4 現在の業種

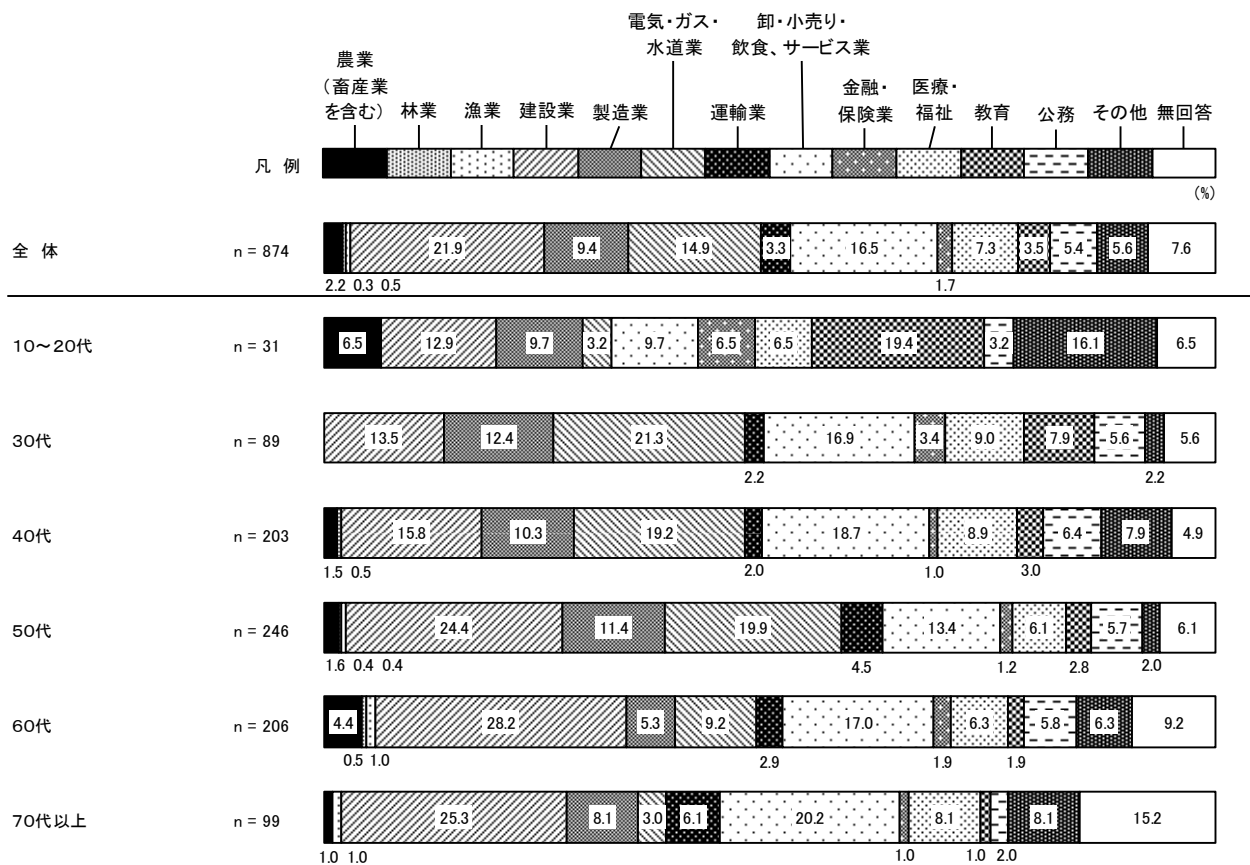
【仕事に就いている方※（問3（1）で「1」から「7」、「11」と回答した方）にうかがいます。】

問3 現在のあなたの世帯の主な収入源となる方の職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

（2）業種（〇は1つ）

- ※問3（1）：1. 自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済） 2. 自営業・会社経営者（休業中）
 3. 会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務） 4. 会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）
 5. 団体職員 6. 公務員
 7. パート・アルバイト 11. その他

<図表3-1-4 現在の業種（年齢別）>

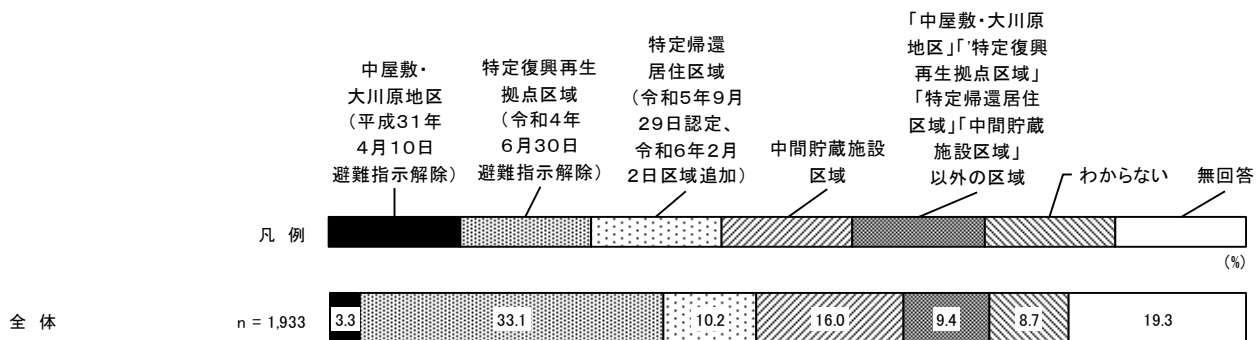


3-2 東日本大震災発生時の状況

3-2-1 震災発生当時の住まいの区域

問4-1 震災発生当時のお住まいが、現在以下の各区域のどこに該当するかを教えてください。（〇は1つ）

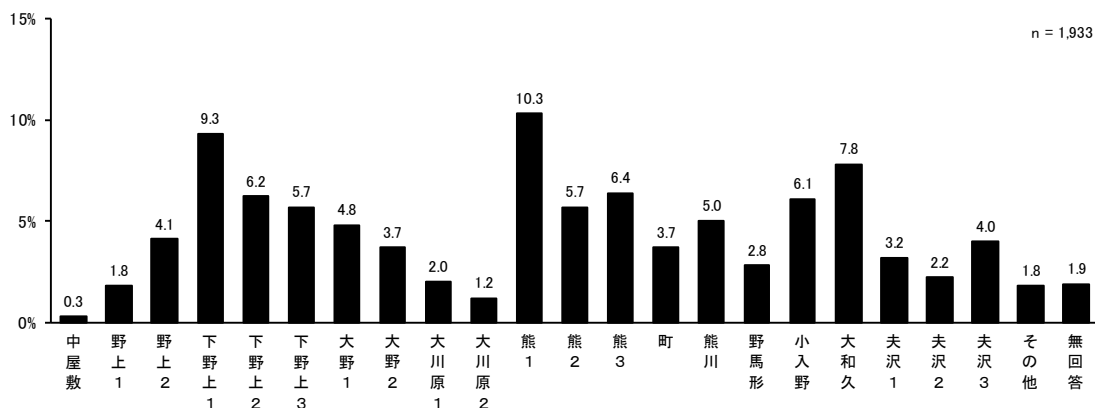
＜図表3-2-1 震災発生当時の住まいの区域＞



3-2-2 震災発生当時の住まいの行政区

問4-2 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。（〇は1つ）

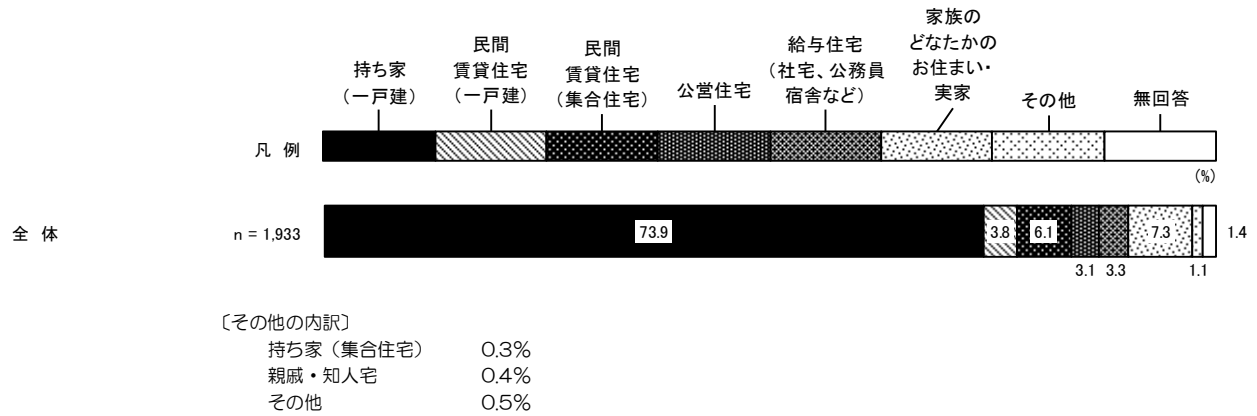
＜図表3-2-2 震災発生当時の住まいの行政区＞



3-2-3 震災発生当時の住居形態

問5 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような住居形態でしたか。（○は1つ）

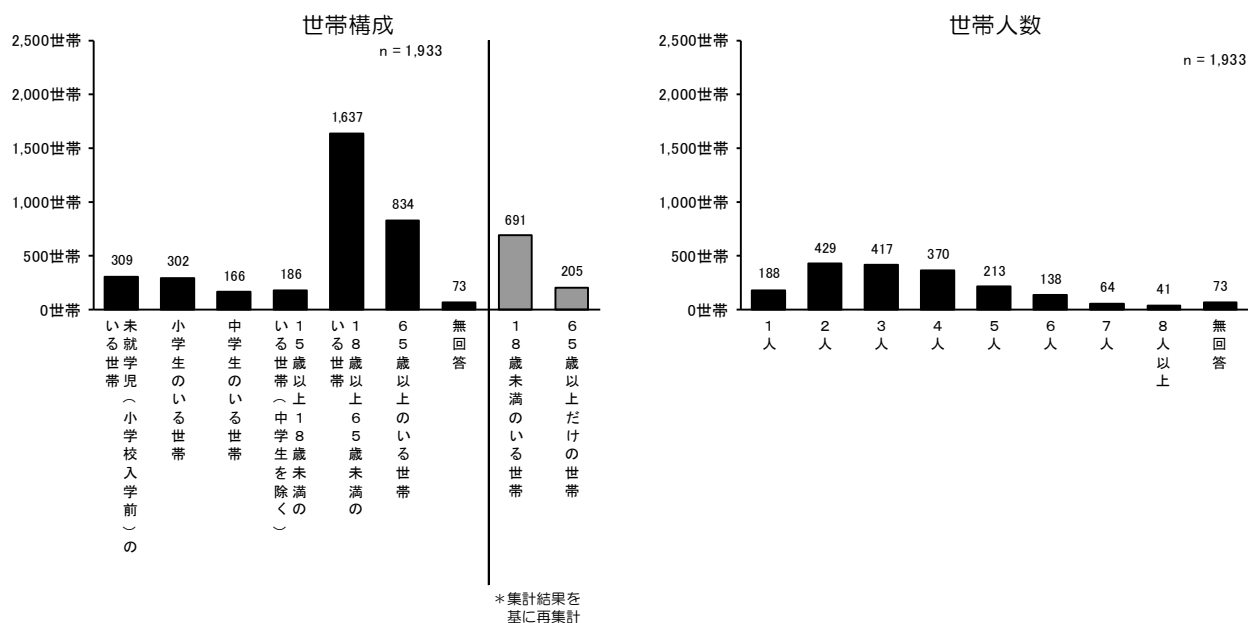
＜図表3-2-3 震災発生当時の住居形態＞



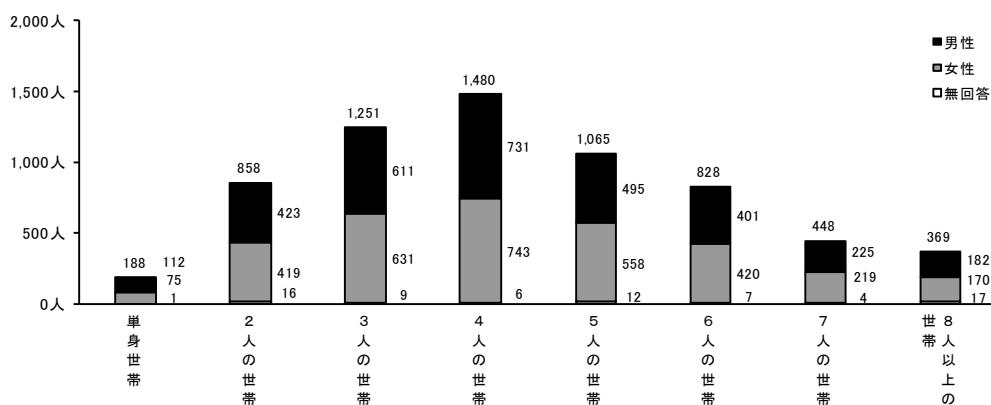
3-2-4 震災発生当時の世帯構成・人数

問6 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。
震災発生時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、当時の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。（性別ごとに人数で回答）

＜図表3-2-4-1 震災発生当時の世帯構成・人数＞



＜図表3-2-4-2 震災発生当時の世帯人数（性別）＞

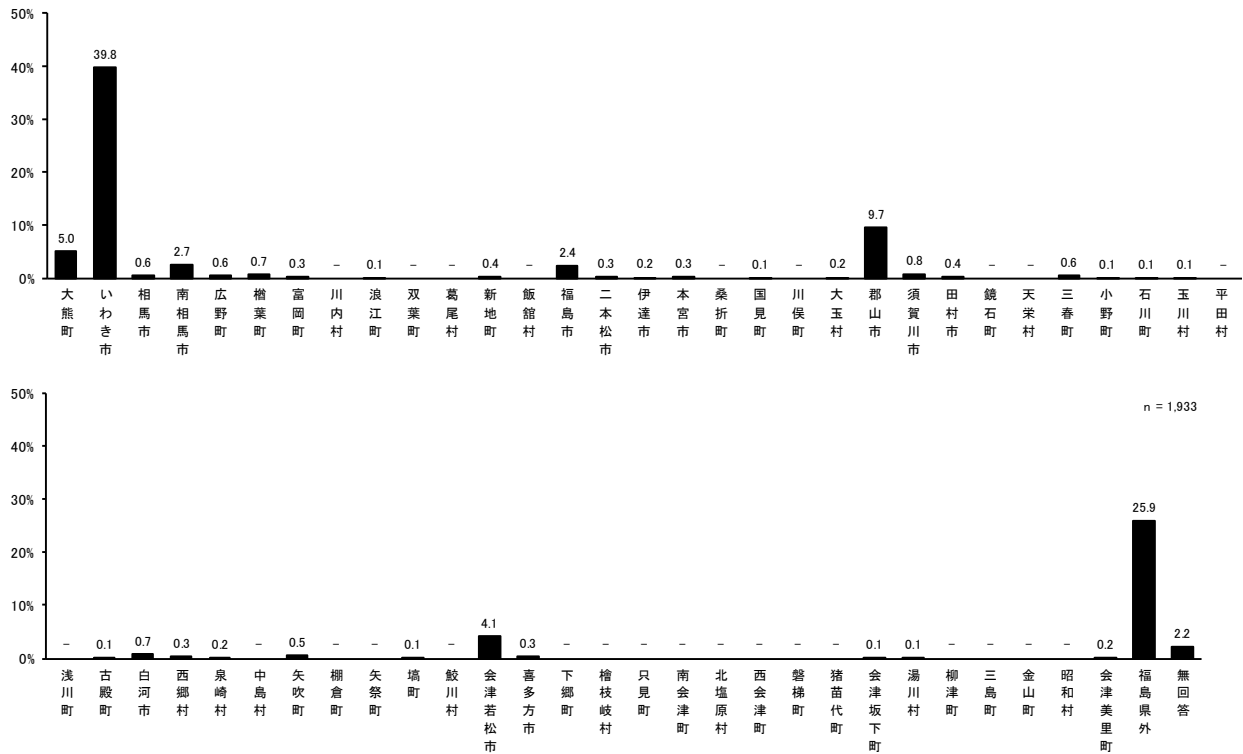


3-3 現在の状況

3-3-1 現在の居住自治体

問7 現在お住まいの自治体を教えてください。（〇は1つ）

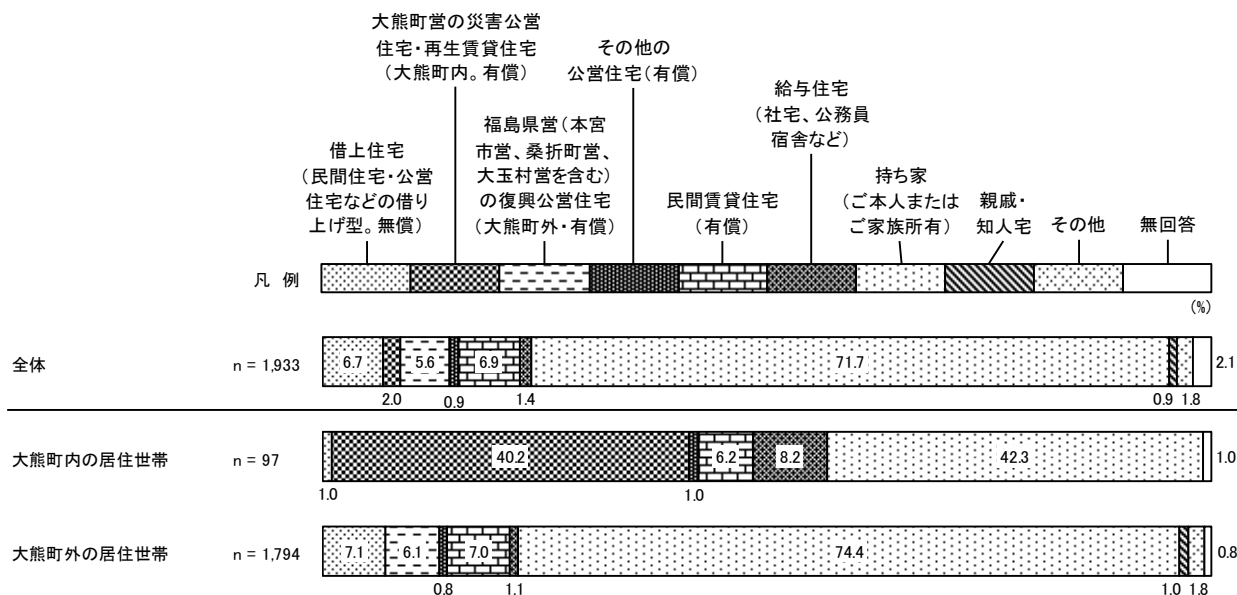
＜図3-3-1 現在の居住自治体＞



3-3-2 現在の住居形態

問8 現在お住まいになっている住宅は、どのような住居形態ですか。（○は1つ）

＜図表3-3-2-1 現在の住居形態＞



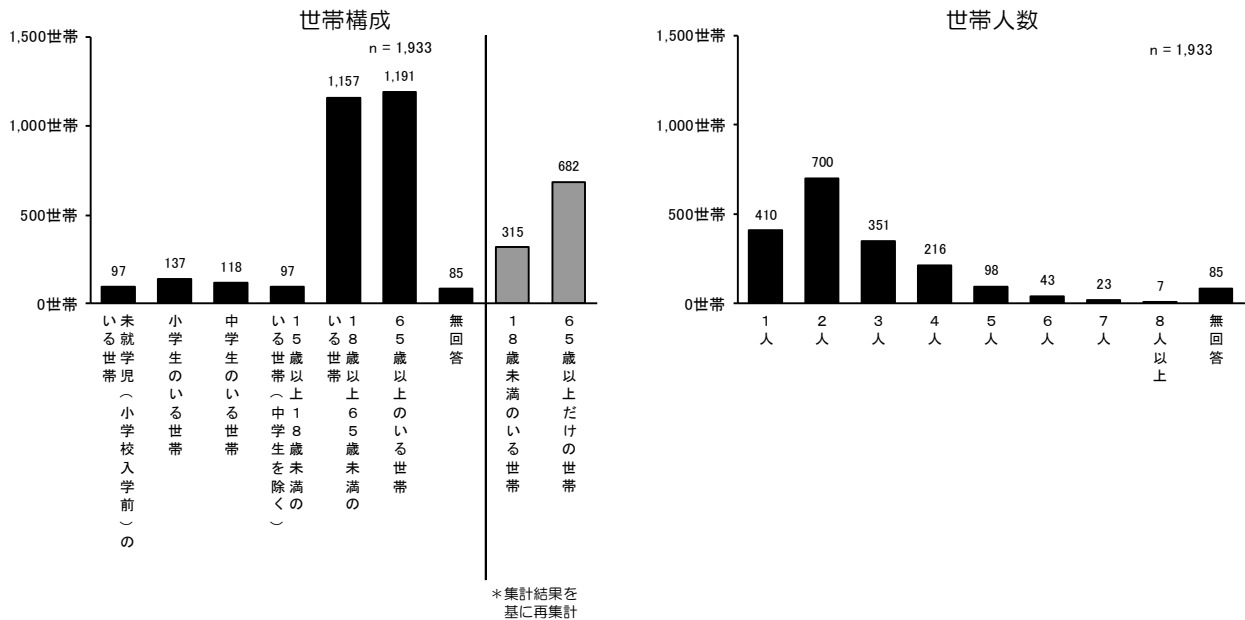
＜図表3-3-2-2 現在の住居形態（現在の世帯構成別）＞

	調査数	借上住宅 （民間住宅・公営住宅 などの借り上げ型。無償）	大熊町営の災害公営住宅・再生賃貸住宅（有償）	福島県営（本宮市営、桑折町営、大玉村営を含む）の復興公営住宅（有償）	その他の公営住宅（有償）	民間賃貸住宅（有償）	給与住宅（社宅、公務員宿舎など）	持ち家（ご本人またはご家族所有）	親戚・知人宅	その他	無回答
全 体	1933	130	39	109	17	133	28	1385	18	34	40
	100.0	6.7	2.0	5.6	0.9	6.9	1.4	71.7	0.9	1.8	2.1
単身世帯：計	410	60	18	58	9	62	19	160	4	16	4
	100.0	14.6	4.4	14.1	2.2	15.1	4.6	39.0	1.0	3.9	1.0
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	154	32	5	10	2	46	15	40	1	3	-
	100.0	20.8	3.2	6.5	1.3	29.9	9.7	26.0	0.6	1.9	-
65歳以上	300	37	13	52	8	29	9	131	3	14	4
	100.0	12.3	4.3	17.3	2.7	9.7	3.0	43.7	1.0	4.7	1.3
女性	218	30	6	37	5	24	7	94	1	11	3
	100.0	13.8	2.8	17.0	2.3	11.0	3.2	43.1	0.5	5.0	1.4
2人以上の世帯：計	1438	65	18	46	3	64	8	1206	13	7	8
	100.0	4.5	1.3	3.2	0.2	4.5	0.6	83.9	0.9	0.5	0.6
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	97	3	1	2	1	9	4	76	-	-	1
	100.0	3.1	1.0	2.1	1.0	9.3	4.1	78.4	-	-	1.0
小学生のいる世帯	137	3	-	4	-	9	3	117	1	-	-
	100.0	2.2	-	2.9	-	6.6	2.2	85.4	0.7	-	-
中学生のいる世帯	118	7	-	3	-	5	-	100	2	-	1
	100.0	5.9	-	2.5	-	4.2	-	84.7	1.7	-	0.8
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	97	6	-	2	-	7	-	81	1	-	-
	100.0	6.2	-	2.1	-	7.2	-	83.5	1.0	-	-
18歳以上65歳未満の いる世帯	1003	55	7	24	3	56	8	834	9	3	4
	100.0	5.5	0.7	2.4	0.3	5.6	0.8	83.2	0.9	0.3	0.4
65歳以上のいる世帯	935	22	14	36	2	19	-	818	11	6	7
	100.0	2.4	1.5	3.9	0.2	2.0	-	87.5	1.2	0.6	0.7
女性のいる世帯	1393	61	12	41	3	60	7	1185	13	5	6
	100.0	4.4	0.9	2.9	0.2	4.3	0.5	85.1	0.9	0.4	0.4
65歳以上だけの世帯	426	10	10	20	-	7	-	368	4	4	3
	100.0	2.3	2.3	4.7	-	1.6	-	86.4	0.9	0.9	0.7

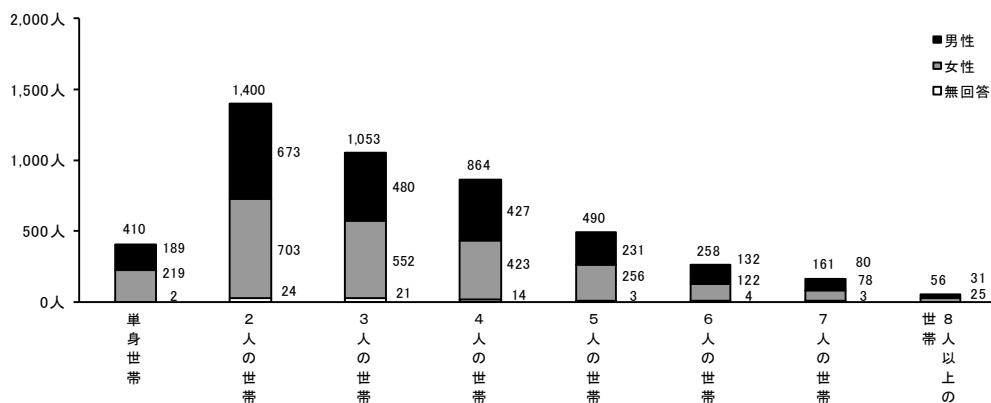
3-3-3 現在の世帯構成・人数

問9 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。（性別ごとに人数で回答）

＜図表3-3-3-1 現在の世帯構成・人数＞



＜図表3-3-3-2 現在の世帯構成・人数（性別）＞

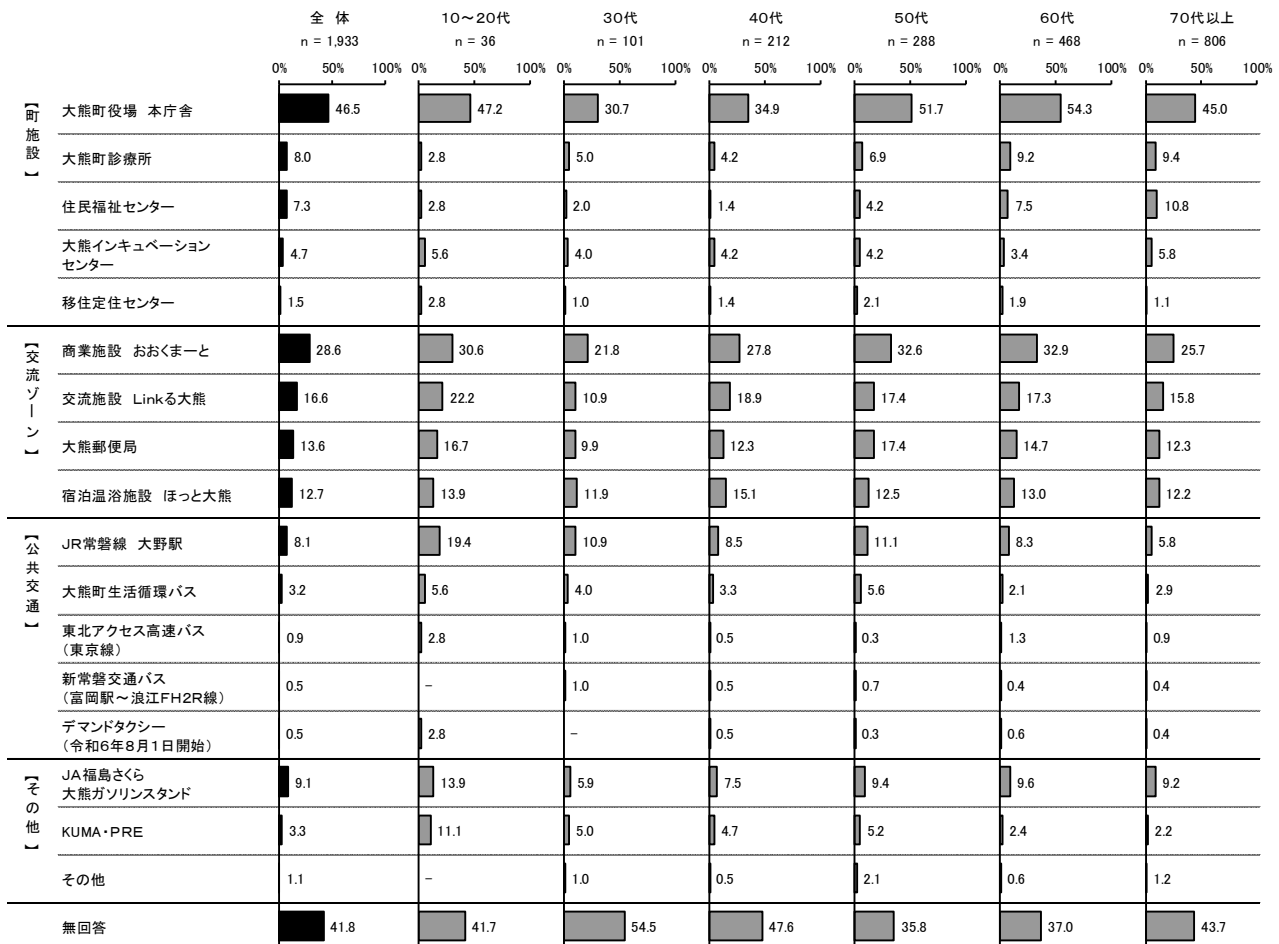


3-4 この1年の大熊町内の活動

3-4-1 利用した町内の施設・サービス

問10 町内の施設、サービス等で利用したものがあれば教えてください。（〇はいくつでも）

＜図表3-4-1-1 利用した町内の施設・サービス（年齢別）＞



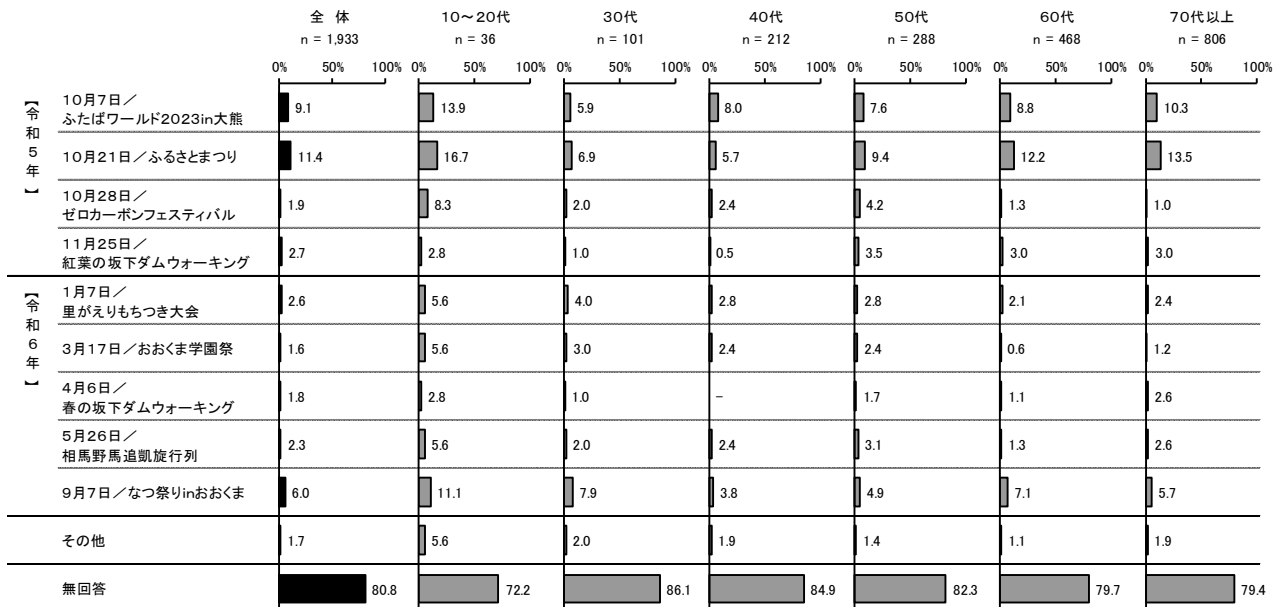
＜図表3-4-1-2 利用した町内の施設・サービス（現在の世帯構成別）＞

	調査数	【町施設】					【交流ゾーン】				【公共交通】					【その他】			無回答
		大熊町役場 本庁舎	大熊町診療所	住民福祉センター	大熊インキュベーションセンター	移住定住センター	商業施設 おおくまーと	交流施設 Linkる大熊	大熊郵便局	宿泊・温浴施設 ほっと大熊	JR常磐線 大野駅	大熊町生活循環バス	（東北アクセス高速バス （東京線）	新常盤交通バス （富岡駅→浪江FH2R線）	デマンドタクシー （令和6年8月1日開始）	大熊ガソリンスタンド	JA福島さくら	KUMAPRE	その他
全 体	1933 1000	898 46.5	154 8.0	142 7.3	90 4.7	29 1.5	552 28.6	321 16.6	263 13.6	245 12.7	157 8.1	62 3.2	17 0.9	9 0.5	9 0.5	176 9.1	63 3.3	21 1.1	808 41.8
単身世帯：計	410 1000	169 41.2	41 10.0	44 10.7	24 5.9	10 2.4	120 29.3	69 16.8	69 16.8	53 12.9	36 8.8	24 5.9	5 1.2	4 1.0	3 0.7	43 10.5	24 5.9	2 0.5	193 47.1
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	154 1000	70 45.5	13 8.4	11 7.1	7 4.5	5 3.2	52 33.8	29 18.8	27 17.5	23 14.9	19 12.3	11 7.1	2 1.3	3 1.9	1 0.6	18 11.7	12 7.8	-	63 40.9
65歳以上	300 1000	119 39.7	30 10.0	35 11.7	19 6.3	7 2.3	84 28.0	49 16.3	51 17.0	35 11.7	23 7.7	16 5.3	5 1.7	1 0.3	3 1.0	29 9.7	15 5.0	2 0.7	147 49.0
女性	218 1000	70 32.1	16 7.3	20 9.2	10 4.6	6 2.8	58 26.6	33 15.1	27 12.4	28 12.8	18 8.3	12 5.5	4 1.8	3 1.4	2 0.9	15 6.9	14 6.4	-	113 51.8
2人以上の世帯：計	1438 1000	712 49.5	110 7.6	96 6.7	63 4.4	18 1.3	423 29.4	246 17.1	189 13.1	185 12.9	116 8.1	34 2.4	12 0.8	4 0.3	5 0.3	131 9.1	37 2.6	19 1.3	552 38.4
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	97 1000	43 44.3	5 5.2	2 2.1	4 4.1	2 2.1	22 22.7	13 13.4	9 9.3	12 12.4	8 8.2	1 1.0	-	-	1 1.0	7 7.2	3 3.1	-	43 44.3
小学生のいる世帯	137 1000	49 35.8	7 5.1	3 2.2	4 2.9	1 0.7	26 19.0	18 13.1	12 8.8	16 11.7	10 7.3	1 0.7	1 0.7	-	1 0.7	7 5.1	3 2.2	1 0.7	65 47.4
中学生のいる世帯	118 1000	47 39.8	8 6.8	3 2.5	4 3.4	-	26 22.0	19 16.1	14 11.9	14 11.9	11 9.3	3 2.5	2 1.7	-	-	11 9.3	3 2.5	-	56 47.5
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	97 1000	45 46.4	5 5.2	6 6.2	5 5.2	1 1.0	26 26.8	18 18.6	14 14.4	11 11.3	11 11.3	4 4.1	1 1.0	-	-	13 13.4	3 3.1	1 1.0	36 37.1
18歳以上65歳未満の いる世帯	1003 1000	480 47.9	67 6.7	48 4.8	35 3.5	9 0.9	291 29.0	166 16.6	128 12.8	123 12.3	85 8.5	24 2.4	9 0.9	2 0.2	4 0.4	86 8.6	28 2.8	12 1.2	405 40.4
65歳以上のいる世帯	935 1000	493 52.7	83 8.9	87 9.3	46 4.9	13 1.4	278 29.7	168 18.0	123 13.2	124 13.3	66 7.1	20 2.1	7 0.7	3 0.3	1 0.1	91 9.7	21 2.2	12 1.3	341 36.5
女性のいる世帯	1393 1000	695 49.9	108 7.8	93 6.7	63 4.5	18 1.3	413 29.6	241 17.3	184 13.2	180 12.9	111 8.0	33 2.4	11 0.8	4 0.3	5 0.4	125 9.0	37 2.7	19 1.4	530 38.0
65歳以上だけの世帯	426 1000	228 53.5	41 9.6	47 11.0	28 6.6	8 1.9	131 30.8	80 18.8	58 13.6	61 14.3	30 7.0	10 2.3	3 0.7	2 0.5	1 0.2	44 10.3	8 1.9	7 1.6	145 34.0

3-4-2 参加した町内開催のイベント

問11 参加した町内開催のイベントがあれば教えてください。（〇はいくつでも）

＜図表3-4-2-1 参加した町内開催のイベント（年齢別）＞



＜図表3-4-2-2 参加した町内開催のイベント（現在の世帯構成別）＞

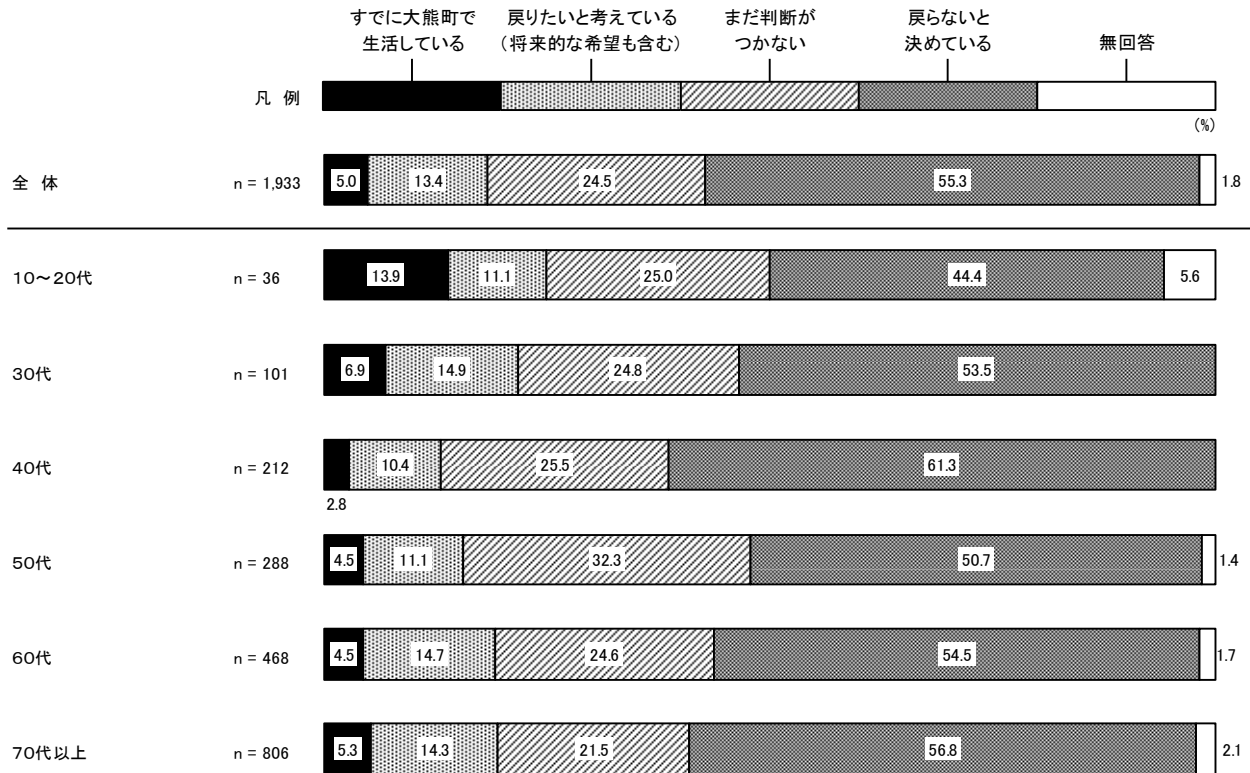
	調査数	【令和5年】					【令和6年】					その他	無回答
		ふたばワールド2023 in大熊	10月7日／ふるさとまつり	ゼロカーボンフェスティバル	紅葉の坂下ダムウォーキング	11月25日／	里がえりもちつき大会 1月7日／	3月17日／おおくま学園祭	春の坂下ダムウォーキング 4月6日／	相馬野馬追凱旋行列 5月26日／	なつ祭りinnおおくま 9月7日／		
全 体	1933	175	221	36	52	50	30	34	45	116	32	1562	
	100.0	9.1	11.4	1.9	2.7	2.6	1.6	1.8	2.3	6.0	1.7	80.8	
単身世帯:計	410	40	50	5	11	9	9	8	13	27	10	330	
	100.0	9.8	12.2	1.2	2.7	2.2	2.2	2.0	3.2	6.6	2.4	80.5	
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	154	13	14	3	2	2	4	2	5	10	3	130	
	100.0	8.4	9.1	1.9	1.3	1.3	2.6	1.3	3.2	6.5	1.9	84.4	
65歳以上	300	31	40	3	10	9	6	7	10	19	8	238	
	100.0	10.3	13.3	1.0	3.3	3.0	2.0	2.3	3.3	6.3	2.7	79.3	
女性	218	22	26	3	7	5	5	7	6	10	4	177	
	100.0	10.1	11.9	1.4	3.2	2.3	2.3	3.2	2.8	4.6	1.8	81.2	
2人以上の世帯:計	1438	127	162	28	39	39	18	24	31	85	22	1158	
	100.0	8.8	11.3	1.9	2.7	2.7	1.3	1.7	2.2	5.9	1.5	80.5	
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	97	12	9	2	-	4	1	-	2	8	2	79	
	100.0	12.4	9.3	2.1	-	4.1	1.0	-	2.1	8.2	2.1	81.4	
小学生のいる世帯	137	11	12	4	-	6	4	-	2	8	2	114	
	100.0	8.0	8.8	2.9	-	4.4	2.9	-	1.5	5.8	1.5	83.2	
中学生のいる世帯	118	7	13	1	3	2	2	1	1	5	2	96	
	100.0	5.9	11.0	0.8	2.5	1.7	1.7	0.8	0.8	4.2	1.7	81.4	
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	97	5	9	2	2	2	2	-	2	5	2	81	
	100.0	5.2	9.3	2.1	2.1	2.1	2.1	-	2.1	5.2	2.1	83.5	
18歳以上65歳未満の いる世帯	1003	78	95	23	23	30	16	11	21	53	14	823	
	100.0	7.8	9.5	2.3	2.3	3.0	1.6	1.1	2.1	5.3	1.4	82.1	
65歳以上のいる世帯	935	92	120	14	27	22	9	20	23	59	13	745	
	100.0	9.8	12.8	1.5	2.9	2.4	1.0	2.1	2.5	6.3	1.4	79.7	
女性のいる世帯	1393	123	159	28	38	39	18	23	31	80	22	1120	
	100.0	8.8	11.4	2.0	2.7	2.8	1.3	1.7	2.2	5.7	1.6	80.4	
65歳以上だけの世帯	426	47	65	5	16	9	2	13	10	31	8	329	
	100.0	11.0	15.3	1.2	3.8	2.1	0.5	3.1	2.3	7.3	1.9	77.2	

3-5 将来の意向

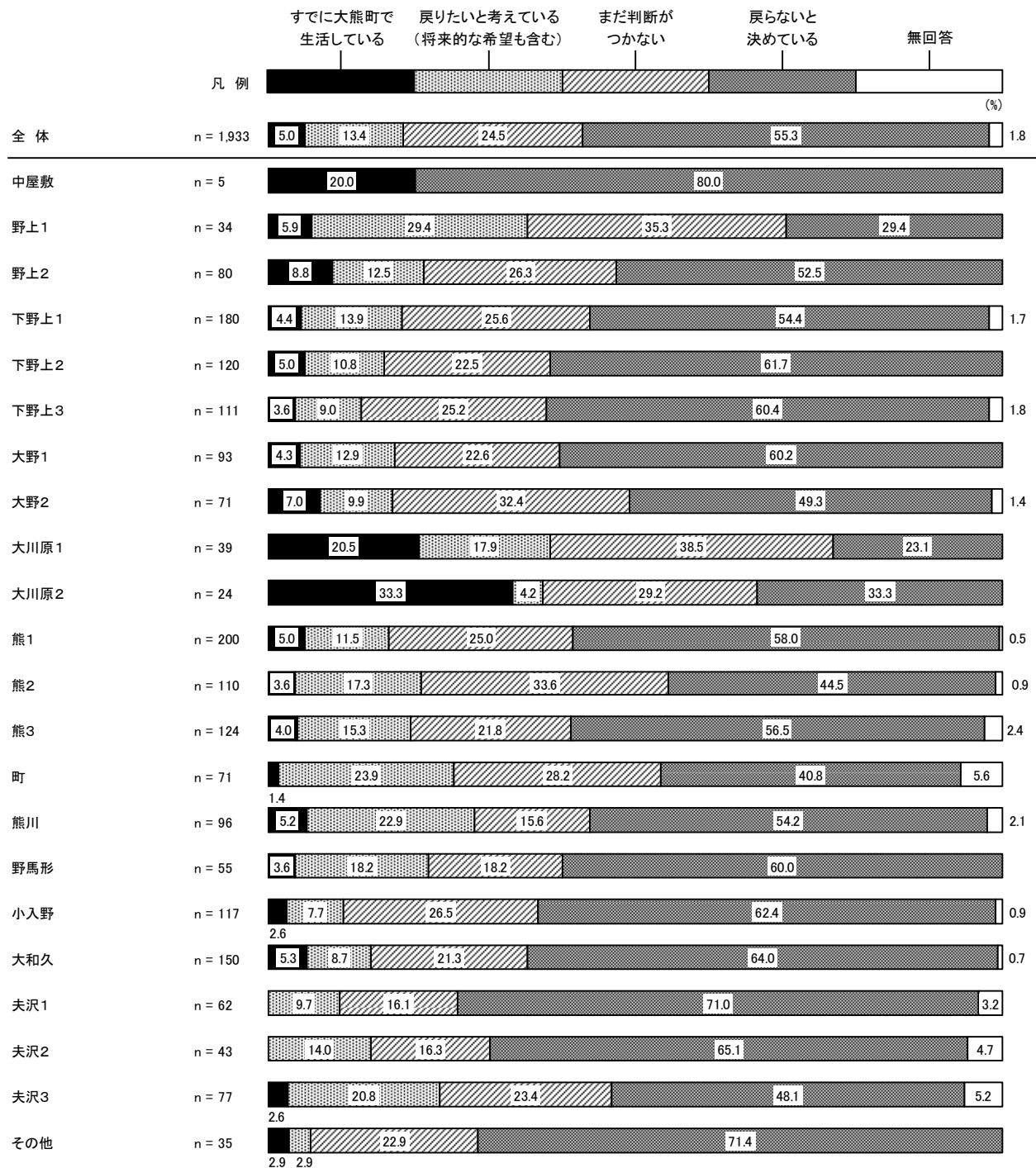
3-5-1 大熊町への帰町意向

問12 今後、大熊町への帰町について、現時点でどのようにお考えですか。（〇は1つ）

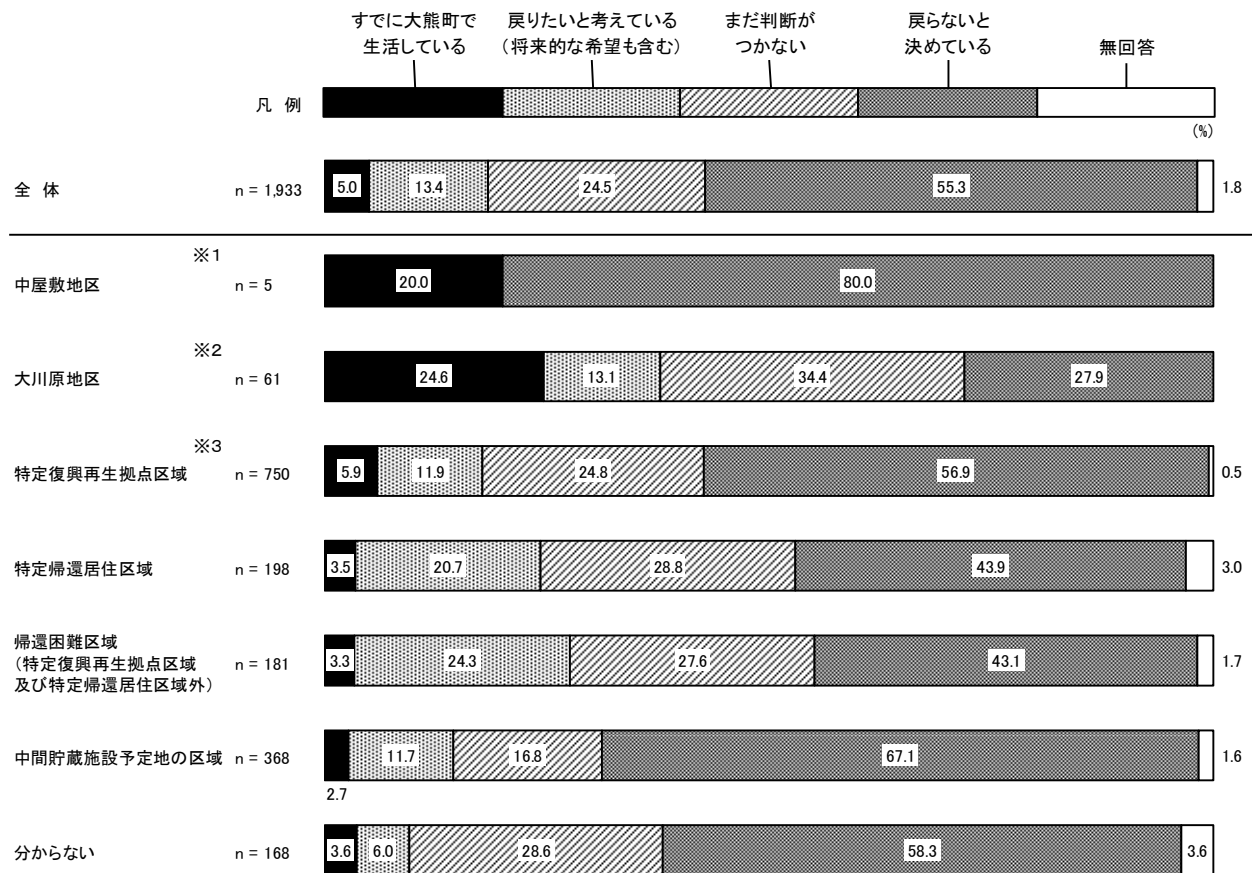
＜図表3-5-1-1 大熊町への帰町意向（年齢別）＞



＜図表３－５－１－２ 大熊町への帰町意向（震災発生当時の住まいの行政区別）＞



＜図表 3-5-1-3 大熊町への帰町意向（避難指示区域別）＞



※1 平成31年4月10日に避難指示解除済み（旧避難指示解除準備区域）
 ※2 平成31年4月10日に避難指示解除済み（旧居住制限区域）
 ※3 令和4年6月30日に避難指示解除済み

<図表3-5-1-4 大熊町への帰町意向（現在の世帯構成別）>

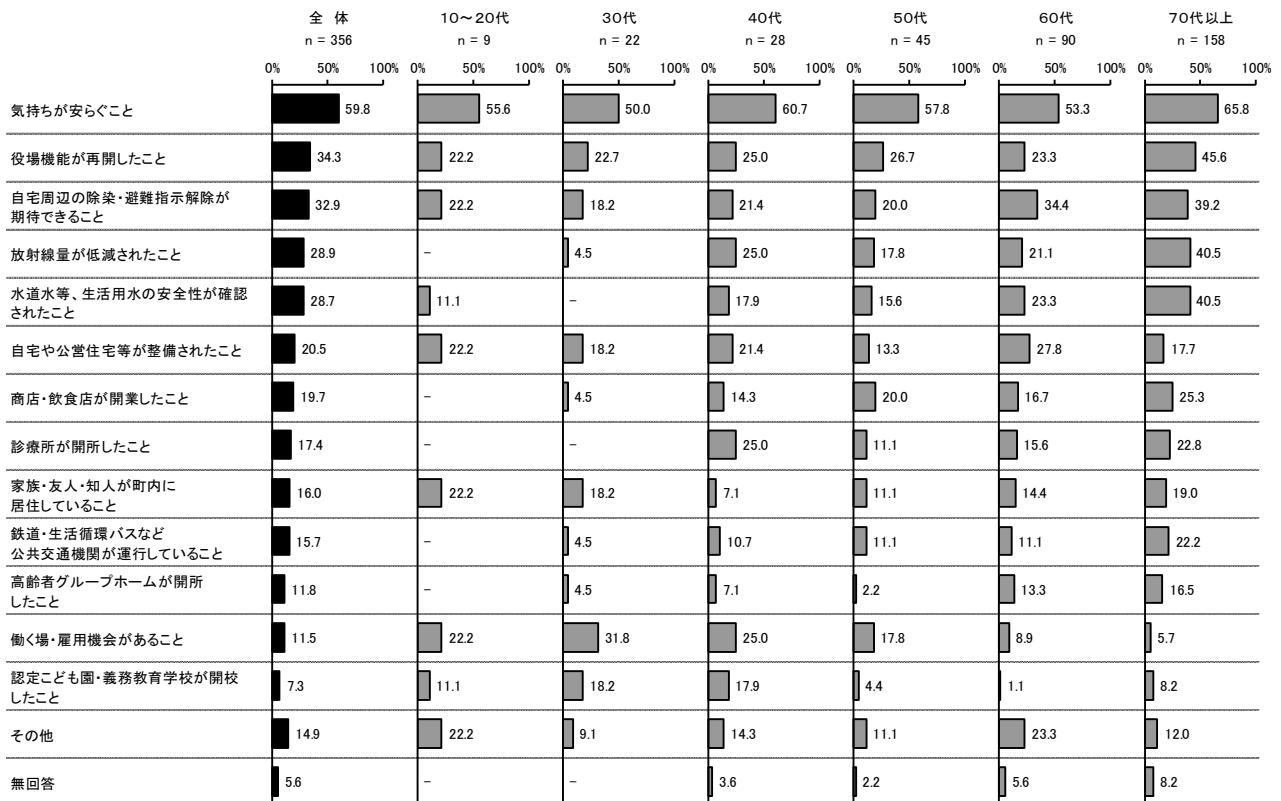
	調査数	すでに大熊町で生活している	戻りたいと考えている （将来的な希望も含む）	まだ判断がつかない	戻らないと決めている	無回答
全 体	1933	97	259	474	1069	34
	100.0	5.0	13.4	24.5	55.3	1.8
単身世帯:計	410	40	54	90	219	7
	100.0	9.8	13.2	22.0	53.4	1.7
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	154	17	24	46	67	-
	100.0	11.0	15.6	29.9	43.5	-
65歳以上	300	25	38	55	175	7
	100.0	8.3	12.7	18.3	58.3	2.3
女性	218	13	22	45	133	5
	100.0	6.0	10.1	20.6	61.0	2.3
2人以上の世帯:計	1438	52	192	358	815	21
	100.0	3.6	13.4	24.9	56.7	1.5
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	97	2	9	25	61	-
	100.0	2.1	9.3	25.8	62.9	-
小学生のいる世帯	137	2	15	29	90	1
	100.0	1.5	10.9	21.2	65.7	0.7
中学生のいる世帯	118	1	11	29	77	-
	100.0	0.8	9.3	24.6	65.3	-
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	97	1	7	35	51	3
	100.0	1.0	7.2	36.1	52.6	3.1
18歳以上65歳未満の いる世帯	1003	25	122	260	581	15
	100.0	2.5	12.2	25.9	57.9	1.5
65歳以上のいる世帯	935	37	143	222	518	15
	100.0	4.0	15.3	23.7	55.4	1.6
女性のいる世帯	1393	46	185	345	801	16
	100.0	3.3	13.3	24.8	57.5	1.1
65歳以上だけの世帯	426	26	68	96	231	5
	100.0	6.1	16.0	22.5	54.2	1.2

3-5-2 大熊町に戻ることを考えた理由

【問12で「1. すでに大熊町で生活している」「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問13-1 大熊町内に戻ることを考えた理由は、どのようなことですか。（〇はいくつでも）

＜図表3-5-2-1 大熊町に戻ることを考えた理由（年齢別）＞



Ⅲ 調査結果（全項目）

＜図表３－５－２－２ 大熊町に戻ることを考えた理由（現在の世帯構成別）＞

	調査数	気持ちが安らぐこと	役場機能が再開したこと	自宅周辺の除染・避難指示解除が期待できること	放射線量が低減されたこと	水道水等、生活用水の安全性が確認されたこと	自宅や公営住宅等が整備されたこと	商店・飲食店が開業したこと	診療所が開所したこと	家族・友人・知人が町内に居住していること	公共交通機関が運行していること	鉄道・生活循環バスなど	高齢者グループホームが開所したこと	働く場・雇用機会があること	認定こども園・義務教育学校が開校したこと	その他	無回答
全 体	356 100.0	213 59.8	122 34.3	117 32.9	103 28.9	102 28.7	73 20.5	70 19.7	62 17.4	57 16.0	56 15.7	42 11.8	41 11.5	26 7.3	53 14.9	20 5.6	
単身世帯：計	94 100.0	56 59.6	32 34.0	24 25.5	26 27.7	25 26.6	23 24.5	21 22.3	17 18.1	14 14.9	16 17.0	8 8.5	18 19.1	11 11.7	17 18.1	5 5.3	
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	41 100.0	20 48.8	10 24.4	7 17.1	6 14.6	3 7.3	9 22.0	5 12.2	4 9.8	2 4.9	4 9.8	－	13 31.7	5 12.2	9 22.0	1 2.4	
65歳以上	63 100.0	42 66.7	26 41.3	19 30.2	21 33.3	23 36.5	14 22.2	18 28.6	14 22.2	12 19.0	13 20.6	8 12.7	7 11.1	7 11.1	11 17.5	4 6.3	
女性	35 100.0	21 60.0	14 40.0	5 14.3	9 25.7	10 28.6	8 22.9	8 22.9	6 17.1	6 17.1	5 14.3	3 8.6	7 20.0	6 17.1	5 14.3	2 5.7	
2人以上の世帯：計	244 100.0	150 61.5	89 36.5	89 36.5	75 30.7	75 30.7	47 19.3	48 19.7	43 17.6	38 15.6	38 15.6	31 12.7	20 8.2	13 5.3	35 14.3	12 4.9	
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	11 100.0	6 54.5	5 45.5	3 27.3	2 18.2	2 18.2	2 18.2	3 27.3	3 27.3	2 18.2	1 9.1	1 9.1	2 18.2	2 18.2	1 9.1	2 18.2	
小学生のいる世帯	17 100.0	14 82.4	8 47.1	6 35.3	5 29.4	6 35.3	4 23.5	5 29.4	6 35.3	2 11.8	3 17.6	2 11.8	3 17.6	5 29.4	1 5.9	2 11.8	
中学生のいる世帯	12 100.0	10 83.3	6 50.0	5 41.7	5 41.7	6 50.0	3 25.0	6 50.0	5 41.7	1 8.3	3 25.0	2 16.7	3 25.0	3 25.0	1 8.3	1 8.3	
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	8 100.0	4 50.0	3 37.5	3 37.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	－	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	
18歳以上65歳未満の いる世帯	147 100.0	91 61.9	50 34.0	52 35.4	44 29.9	43 29.3	27 18.4	28 19.0	24 16.3	20 13.6	18 12.2	16 10.9	17 11.6	10 6.8	22 15.0	4 2.7	
65歳以上のいる世帯	180 100.0	109 60.6	70 38.9	72 40.0	61 33.9	60 33.3	33 18.3	38 21.1	32 17.8	31 17.2	32 17.8	28 15.6	9 5.0	8 4.4	28 15.6	11 6.1	
女性のいる世帯	231 100.0	146 63.2	81 35.1	85 36.8	71 30.7	70 30.3	40 17.3	45 19.5	41 17.7	36 15.6	34 14.7	30 13.0	19 8.2	13 5.6	34 14.7	11 4.8	
65歳以上だけの世帯	94 100.0	57 60.6	38 40.4	37 39.4	31 33.0	32 34.0	20 21.3	20 21.3	19 20.2	18 19.1	19 20.2	14 14.9	3 3.2	3 3.2	12 12.8	7 7.4	

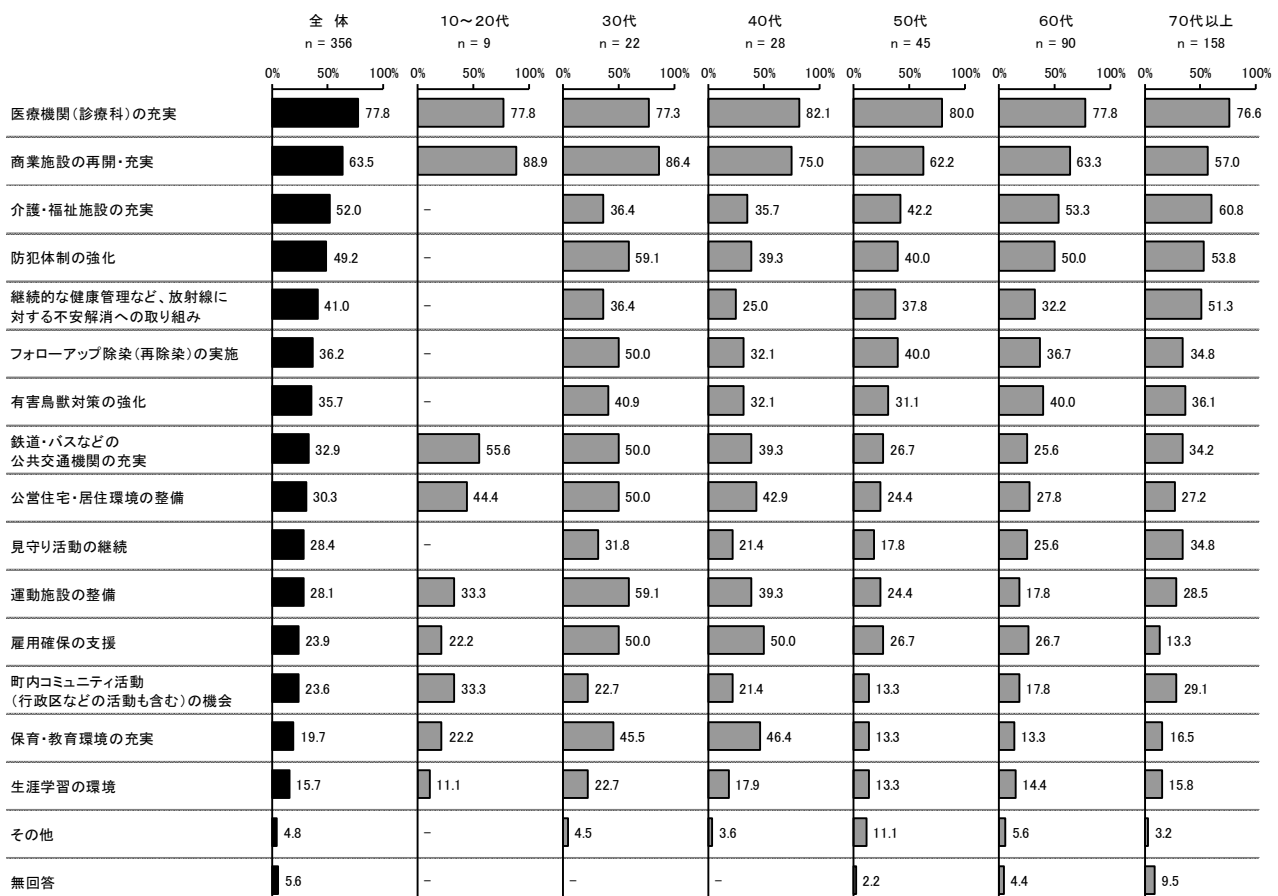
3-5-3 大熊町での今後の生活において必要だと感じていること

【問12で「1. すでに大熊町で生活している」「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問13-2 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについて教えてください。（〇はいくつでも）

問13-3 問13-2で選択した「必要だと感じていること」のうち、特に必要と考えることについて、選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きください。（最大3つまで）

＜図表3-5-3-1 大熊町での今後の生活において必要だと感じていること（年齢別）＞



Ⅲ 調査結果（全項目）

＜図表３－５－３－２ 大熊町での今後の生活において必要だと感じていること（現在の世帯構成別）＞

	調査数	医療機関（診療科）の充実	商業施設の再開・充実	介護・福祉施設の充実	防犯体制の強化	継続的な健康管理など、放射線に対する不安解消への取り組み	フォローアップ除染（再除染）の実施	有害鳥獣対策の強化	鉄道・バスなどの公共交通機関の充実	公営住宅・居住環境の整備	見守り活動の継続	運動施設の整備	雇用確保の支援	町内コミュニティ活動も含む（行政区などの活動も含む）	保育・教育環境の充実	生涯学習の環境	その他	無回答
全 体	356 100.0	277 77.8	226 63.5	185 52.0	175 49.2	146 41.0	129 36.2	127 35.7	117 32.9	108 30.3	101 28.4	100 28.1	85 23.9	84 23.6	70 19.7	56 15.7	17 4.8	20 5.6
単身世帯：計	94 100.0	70 74.5	55 58.5	50 53.2	45 47.9	38 40.4	31 33.0	36 38.3	37 39.4	30 31.9	33 35.1	28 29.8	23 24.5	25 26.6	17 18.1	18 19.1	6 6.4	3 3.2
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	41 100.0	29 70.7	29 70.7	12 29.3	18 43.9	12 29.3	12 29.3	12 29.3	17 41.5	17 41.5	9 22.0	14 34.1	14 34.1	9 22.0	8 19.5	7 17.1	3 7.3	－
65歳以上	63 100.0	49 77.8	33 52.4	42 66.7	32 50.8	30 47.6	22 34.9	29 46.0	26 41.3	15 23.8	27 42.9	18 28.6	11 17.5	18 28.6	12 19.0	13 20.6	4 6.3	3 4.8
女性	35 100.0	24 68.6	18 51.4	17 48.6	19 54.3	13 37.1	9 25.7	14 40.0	17 48.6	12 34.3	15 42.9	7 20.0	10 28.6	10 28.6	8 22.9	9 25.7	2 5.7	1 2.9
2人以上の世帯：計	244 100.0	195 79.9	161 66.0	127 52.0	122 50.0	100 41.0	91 37.3	87 35.7	73 29.9	68 27.9	62 25.4	66 27.0	56 23.0	56 23.0	49 20.1	35 14.3	9 3.7	12 4.9
未就学児（小学校入学前） のいる世帯	11 100.0	10 90.9	9 81.8	6 54.5	7 63.6	5 45.5	7 63.6	8 72.7	6 54.5	3 27.3	4 36.4	6 54.5	4 36.4	3 27.3	7 63.6	3 27.3	－	－
小学生のいる世帯	17 100.0	15 88.2	14 82.4	10 58.8	8 47.1	8 47.1	9 52.9	6 35.3	8 47.1	6 35.3	4 23.5	10 58.8	6 35.3	6 35.3	11 64.7	5 29.4	1 5.9	－
中学生のいる世帯	12 100.0	9 75.0	9 75.0	6 66.7	6 50.0	3 25.0	6 50.0	5 41.7	5 41.7	2 16.7	5 41.7	5 41.7	3 25.0	5 41.7	5 41.7	4 33.3	3 25.0	－
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	8 100.0	5 62.5	5 62.5	4 50.0	3 37.5	3 37.5	4 50.0	1 12.5	1 12.5	－	2 25.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	－
18歳以上65歳未満の いる世帯	147 100.0	121 82.3	99 67.3	69 46.9	66 44.9	56 38.1	56 38.1	50 34.0	44 29.9	39 26.5	29 19.7	29 27.2	29 25.9	29 21.1	29 23.8	20 13.6	6 4.1	4 2.7
65歳以上のいる世帯	180 100.0	140 77.8	111 61.7	101 56.1	97 53.9	82 45.6	67 37.2	68 37.8	51 28.3	51 28.3	49 27.2	45 25.0	30 16.7	44 24.4	28 15.6	28 15.6	6 3.3	12 6.7
女性のいる世帯	231 100.0	184 79.7	153 66.2	119 51.5	117 50.6	96 41.6	90 39.0	83 35.9	71 30.7	63 27.3	59 25.5	66 28.6	53 22.9	55 23.8	49 21.2	35 15.2	9 3.9	12 5.2
65歳以上だけの世帯	94 100.0	72 76.6	60 63.8	55 58.5	54 57.4	44 46.8	34 36.2	36 38.3	29 30.9	29 30.9	31 33.0	25 26.6	18 19.1	25 26.6	14 14.9	15 16.0	3 3.2	8 8.5

上位項目についての主な意見は以下の通り。

〔医療機関（診療科）の充実〕

- ・大きい病院があれば良いと考える。（１０～２０代・女性）
- ・子供がいるから、急な熱などに対応出来るように大熊町に小児科などの病院や薬局がほしい。（３０代・女性）
- ・スーパーマーケットの立地も決定。素晴らしい教育機関もスタート。あとは、医療（福祉にも連動）の充実がカギ。福島県には、早急に医療機関再開を意識した体制になっていただきたい。（４０代・男性）
- ・医療機関については、前倒ししてでも県立大野病院が郡内の中核的医療センター機能となるようにしてほしい。帰還町民に限らず近隣町村や廃炉作業従事企業等々にとっても、二次医療機関とは異なり安堵感もあろう。特に高齢者等の医療弱者的な立場の方（透析者、子ども、障害者も含め）にも安心して暮らせる福祉介護施設の併設は必要条件と思う。（６０代・男性）
- ・高齢になりましたので、医療と福祉が心配である。（７０代以上・女性）

〔商業施設の再開・充実〕

- ・スーパーやコンビニは必要だと感じました。飲食チェーン店もあるとうれしいです。（１０～２０代・女性）
- ・スーパーだけではなくドラッグストア、ホームセンターも必須。（４０代・男性）
- ・食品の買い物は富岡か浪江まで行かなければならず、時間も限られているため、少しではあるが不便さを感じる。選択肢が広がればと思う。（５０代・女性）
- ・生活できる環境になることを期待します。（６０代・男性）
- ・町内における衣食住の確保。（７０代以上・男性）

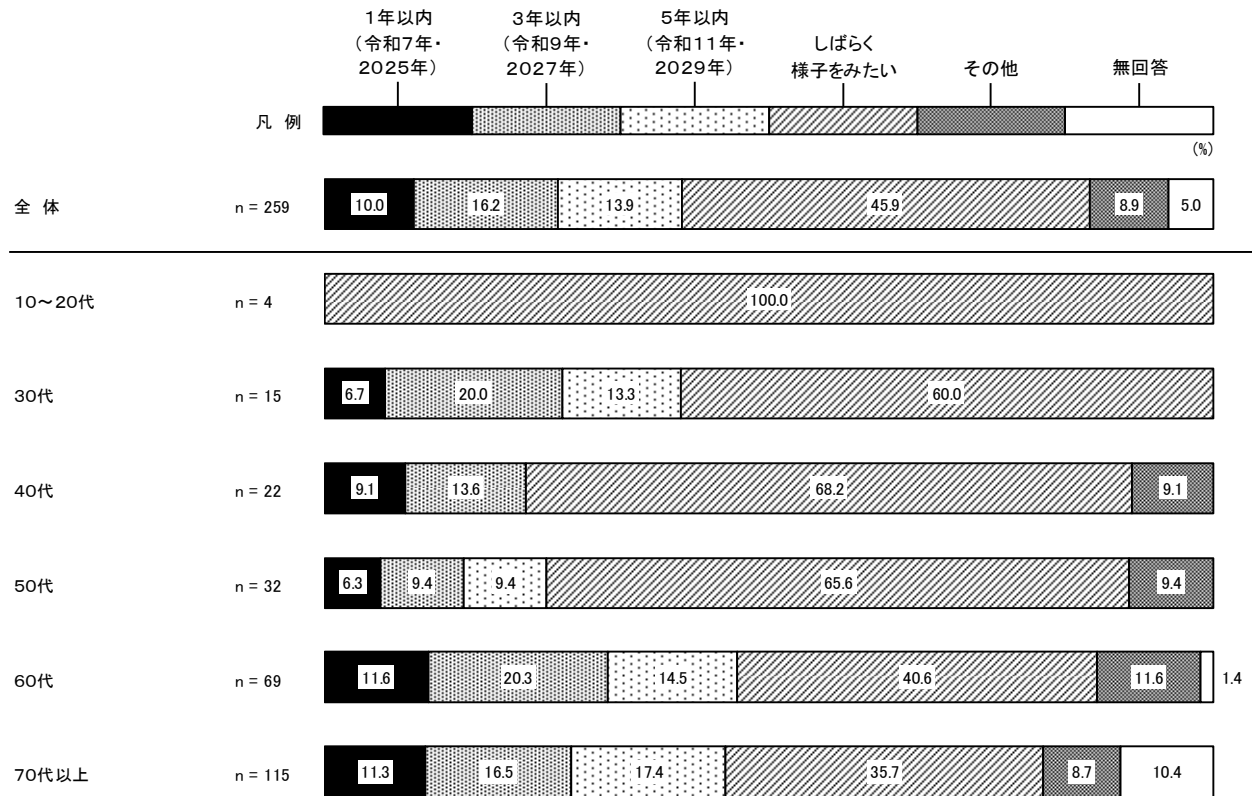
〔介護・福祉施設の充実〕

- ・人生の最後まで不安を残さないよう、かつ金銭的にも不安にならないよう、利用料を安くしてほしい。（４０代・男性）
- ・年を重ねていくうえで必要不可欠だと思います。（５０代・女性）
- ・低価格で充実した施設を利用したい。（６０代・男性）
- ・高齢者も増えてくるので介護・福祉施設が大事になる。増やしてほしい。（６０代・男性）
- ・高齢で一人なので、介護・福祉の問題が大きいと思っている。（７０代以上・女性）

3-5-4 大熊町への帰町時期

【問12で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
問14-1 今後大熊町へ何年以内に戻りたいと考えていますか。（〇は1つ）

<図表3-5-4-1 大熊町への帰町時期（年齢別）>



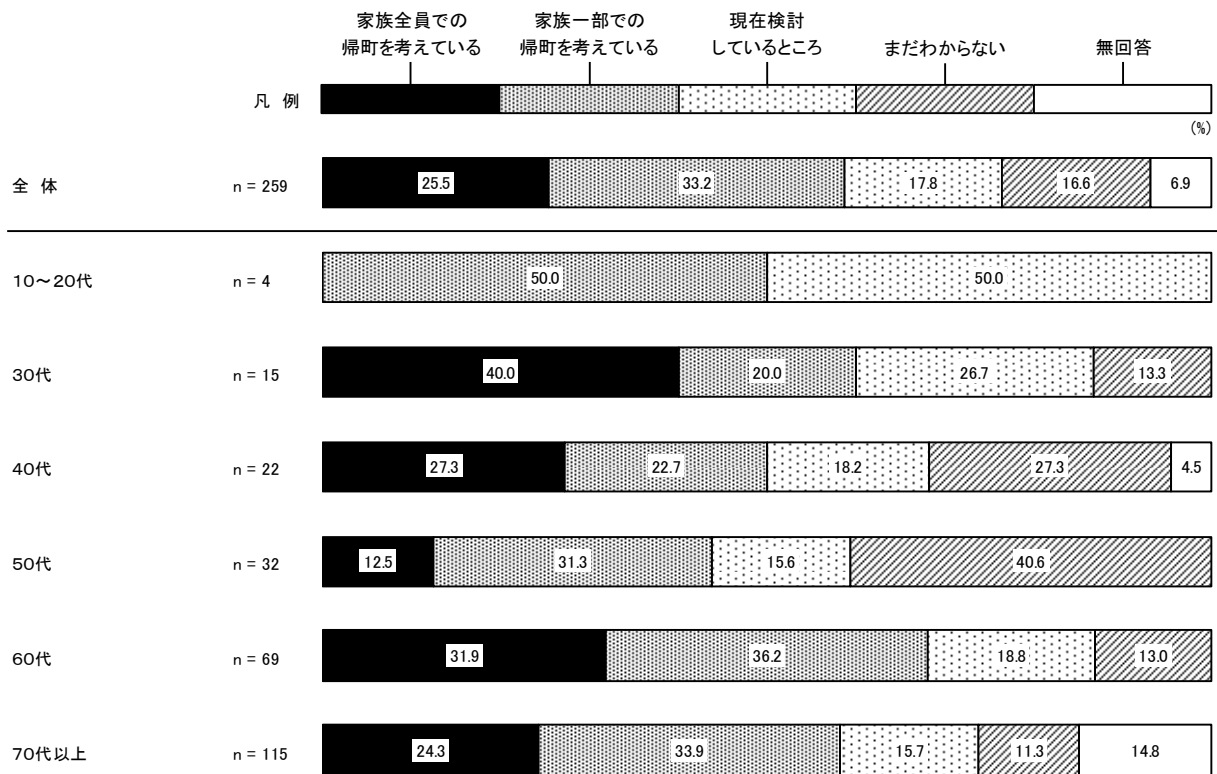
＜図表３－５－４－２ 大熊町への帰町時期（現在の世帯構成別）＞

	調査数	1年以内 (令和7年・2025年)	3年以内 (令和9年・2027年)	5年以内 (令和11年・2029年)	しばらく様子を見たい	その他	無回答
全 体	259 100.0	26 10.0	42 16.2	36 13.9	119 45.9	23 8.9	13 5.0
単身世帯:計	54 100.0	5 9.3	11 20.4	7 13.0	26 48.1	2 3.7	3 5.6
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	24 100.0	1 4.2	4 16.7	4 16.7	15 62.5	-	-
65歳以上	38 100.0	4 10.5	8 21.1	3 7.9	18 47.4	2 5.3	3 7.9
女性	22 100.0	1 4.5	5 22.7	2 9.1	13 59.1	1 4.5	-
2人以上の世帯:計	192 100.0	19 9.9	29 15.1	28 14.6	86 44.8	21 10.9	9 4.7
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	9 100.0	-	3 33.3	2 22.2	4 44.4	-	-
小学生のいる世帯	15 100.0	1 6.7	3 20.0	1 6.7	10 66.7	-	-
中学生のいる世帯	11 100.0	-	2 18.2	-	5 45.5	4 36.4	-
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	7 100.0	-	1 14.3	1 14.3	4 57.1	1 14.3	-
18歳以上65歳未満の いる世帯	122 100.0	10 8.2	20 16.4	15 12.3	60 49.2	13 10.7	4 3.3
65歳以上のいる世帯	143 100.0	17 11.9	21 14.7	23 16.1	59 41.3	15 10.5	8 5.6
女性のいる世帯	185 100.0	18 9.7	28 15.1	27 14.6	82 44.3	21 11.4	9 4.9
65歳以上だけの世帯	68 100.0	9 13.2	9 13.2	12 17.6	25 36.8	8 11.8	5 7.4

3-5-5 大熊町へ帰町する場合の家族構成

【問12で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
問14-2 大熊町へ戻る場合に、家族の全員か一部かについて教えてください。（○は1つ）

＜図表3-5-5-1 大熊町へ帰町する場合の家族構成（年齢別）＞



Ⅲ 調査結果（全項目）

＜図表３－５－５－２ 大熊町へ帰町する場合の家族構成（現在の世帯構成別）＞

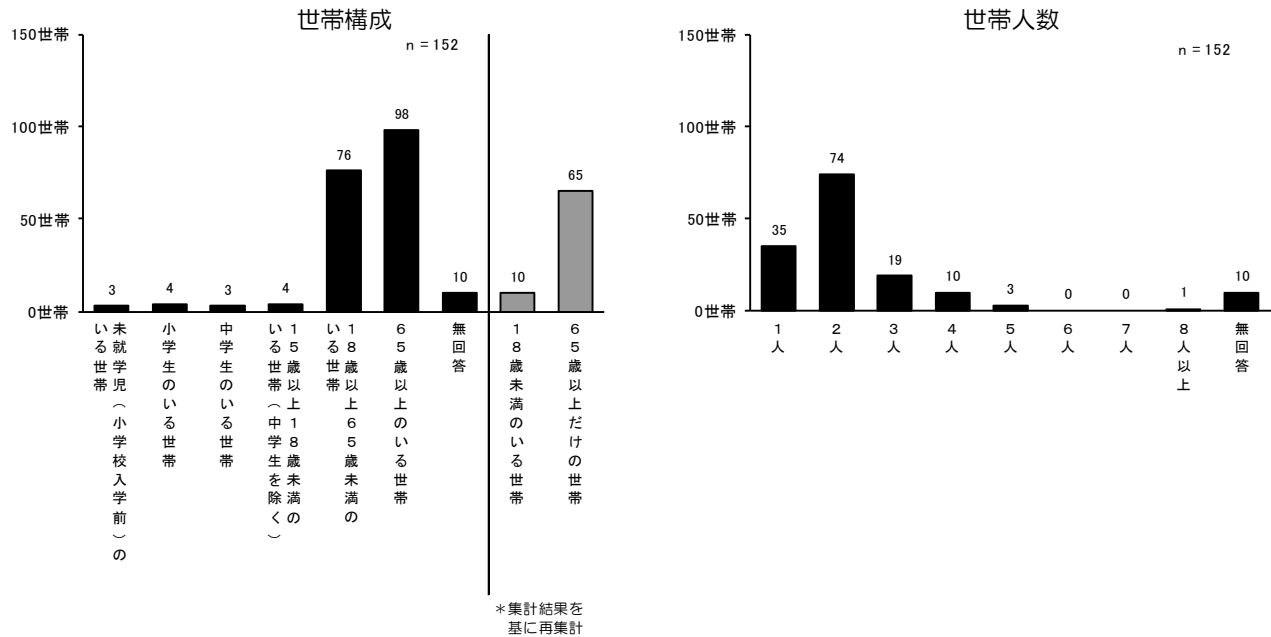
	調査数	家族全員での帰町を考えている	家族一部での帰町を考えている	現在検討しているところ	まだわからない	無回答
全 体	259 100.0	66 25.5	86 33.2	46 17.8	43 16.6	18 6.9
単身世帯：計	54 100.0	12 22.2	14 25.9	10 18.5	12 22.2	6 11.1
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	24 100.0	8 33.3	4 16.7	5 20.8	7 29.2	－
65歳以上	38 100.0	5 13.2	11 28.9	6 15.8	10 26.3	6 15.8
女性	22 100.0	5 22.7	3 13.6	3 13.6	9 40.9	2 9.1
2人以上の世帯：計	192 100.0	53 27.6	67 34.9	35 18.2	28 14.6	9 4.7
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	9 100.0	2 22.2	1 11.1	5 55.6	1 11.1	－
小学生のいる世帯	15 100.0	1 6.7	5 33.3	7 46.7	2 13.3	－
中学生のいる世帯	11 100.0	2 18.2	4 36.4	2 18.2	3 27.3	－
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	7 100.0	3 42.9	3 42.9	1 14.3	－	－
18歳以上65歳未満の いる世帯	122 100.0	28 23.0	49 40.2	24 19.7	19 15.6	2 1.6
65歳以上のいる世帯	143 100.0	41 28.7	48 33.6	24 16.8	21 14.7	9 6.3
女性のいる世帯	185 100.0	52 28.1	64 34.6	34 18.4	26 14.1	9 4.9
65歳以上だけの世帯	68 100.0	24 35.3	18 26.5	10 14.7	9 13.2	7 10.3

3-5-6 大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数

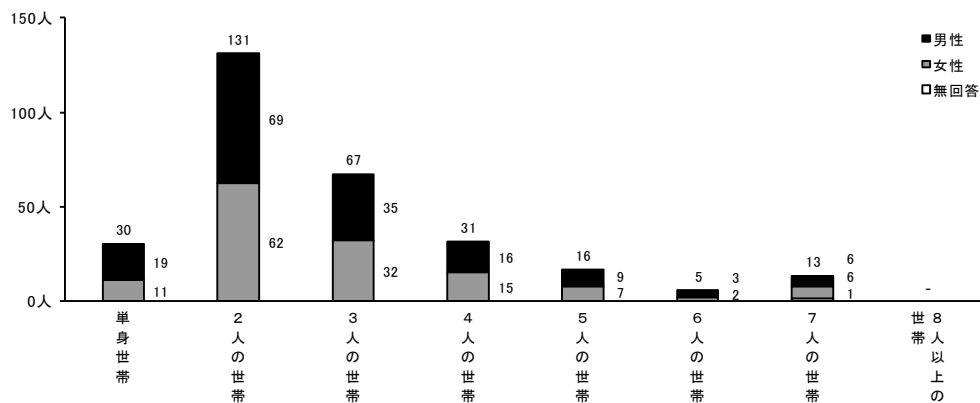
【問14-2で「1. 家族全員での帰町を考えている」「2. 家族一部での帰町を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問14-3 帰町した場合にどのような家族構成になると考えていますか。
あなた自身を含めて現在の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとに回答ください。（性別ごとに人数で回答）

<図表3-5-6-1 大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数>



<図表3-5-6-2 大熊町へ帰町した場合の世帯構成・人数（性別）>

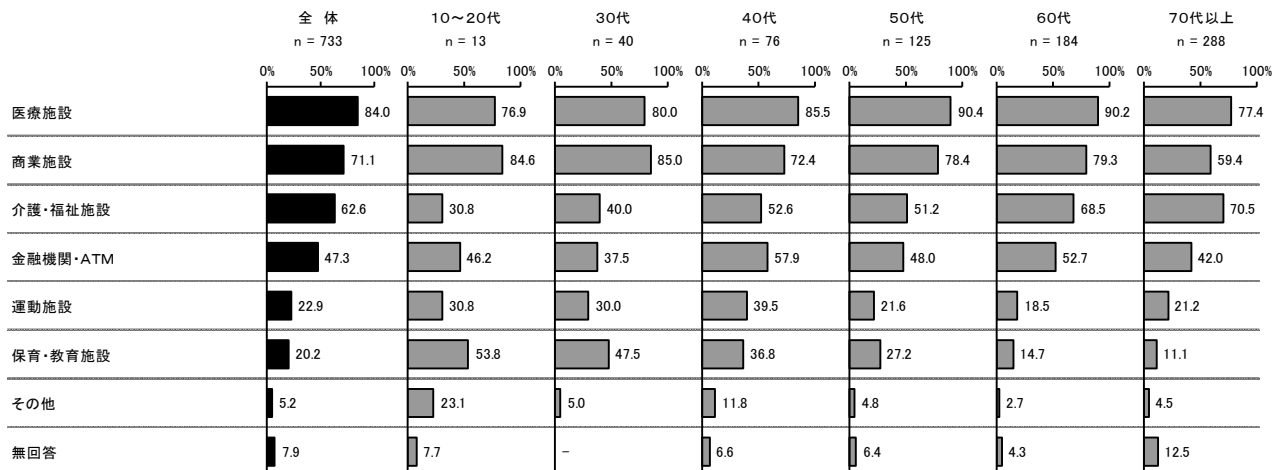


3-5-7 大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設

【問12で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問15-1 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要・充実させるべきと考える施設を教えてください。（〇はいくつでも）

＜図表3-5-7-1 大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設（年齢別）＞



＜図表3-5-7-2 大熊町へ帰町した場合に今後の生活において必要な施設（現在の世帯構成別）＞

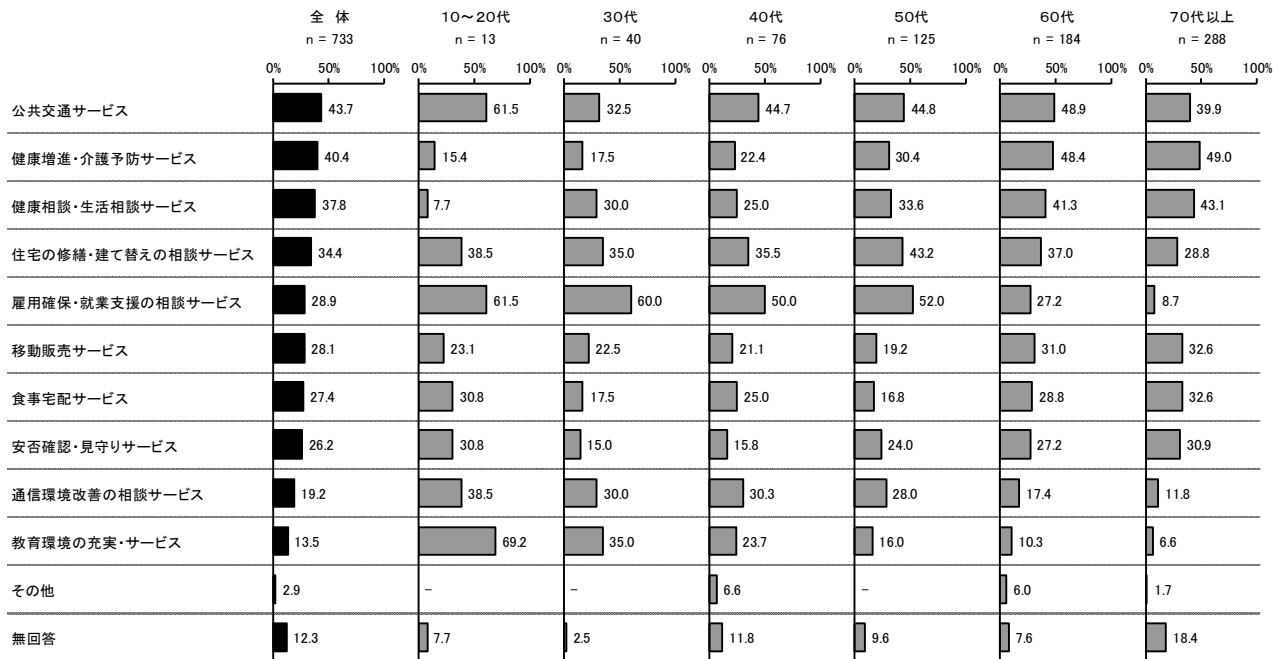
	調査数	医療施設	商業施設	介護・福祉施設	金融機関・ATM	運動施設	保育・教育施設	その他	無回答
全 体	733	616	521	459	347	168	148	38	58
	100.0	84.0	71.1	62.6	47.3	22.9	20.2	5.2	7.9
単身世帯：計	144	119	109	92	73	26	21	6	8
	100.0	82.6	75.7	63.9	50.7	18.1	14.6	4.2	5.6
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	70	60	60	35	36	11	14	3	2
	100.0	85.7	85.7	50.0	51.4	15.7	20.0	4.3	2.9
65歳以上	93	74	65	69	49	18	10	5	7
	100.0	79.6	69.9	74.2	52.7	19.4	10.8	5.4	7.5
女性	67	52	48	43	36	9	9	3	4
	100.0	77.6	71.6	64.2	53.7	13.4	13.4	4.5	6.0
2人以上の世帯：計	550	468	389	348	261	134	114	29	42
	100.0	85.1	70.7	63.3	47.5	24.4	20.7	5.3	7.6
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	34	34	25	22	18	13	21	2	-
	100.0	100.0	73.5	64.7	52.9	38.2	61.8	5.9	-
小学生のいる世帯	44	43	37	25	22	17	23	3	-
	100.0	97.7	84.1	56.8	50.0	38.6	52.3	6.8	-
中学生のいる世帯	40	37	32	22	24	19	23	5	1
	100.0	92.5	80.0	55.0	60.0	47.5	57.5	12.5	2.5
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	42	40	34	24	21	16	16	5	-
	100.0	95.2	81.0	57.1	50.0	38.1	38.1	11.9	-
18歳以上65歳未満の いる世帯	382	330	282	224	183	96	95	19	26
	100.0	86.4	73.8	58.6	47.9	25.1	24.9	5.0	6.8
65歳以上のいる世帯	365	301	244	257	167	80	51	18	34
	100.0	82.5	66.8	70.4	45.8	21.9	14.0	4.9	9.3
女性のいる世帯	530	452	376	337	252	132	112	29	38
	100.0	85.3	70.9	63.6	47.5	24.9	21.1	5.5	7.2
65歳以上だけの世帯	164	134	105	121	77	36	19	9	16
	100.0	81.7	64.0	73.8	47.0	22.0	11.6	5.5	9.8

3-5-8 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス

【問12で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問15-2 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考えるサービスを教えてください。（〇はいくつでも）

＜図表3-5-8-1 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（年齢別）＞



Ⅲ 調査結果（全項目）

＜図表３－５－８－２ 大熊町へ帰町した場合に必要なサービス（現在の世帯構成別）＞

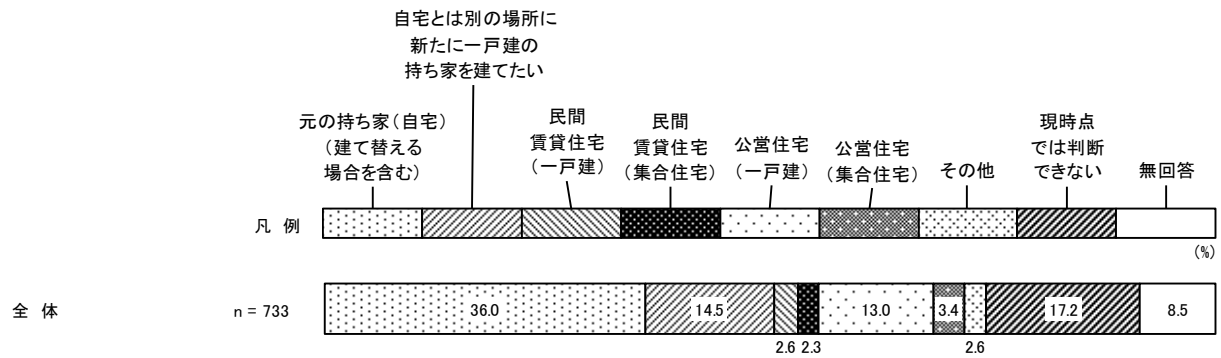
	調査数	公共交通サービス	健康増進・介護予防サービス	健康相談・生活相談サービス	住宅の修繕・建て替えの相談サービス	雇用確保・就業支援の相談サービス	移動販売サービス	食事宅配サービス	安否確認・見守りサービス	通信環境改善の相談サービス	教育環境の充実・サービス	その他	無回答
全 体	733 100.0	320 43.7	296 40.4	277 37.8	252 34.4	212 28.9	206 28.1	201 27.4	192 26.2	141 19.2	99 13.5	21 2.9	90 12.3
単身世帯:計	144 100.0	58 40.3	52 36.1	55 38.2	43 29.9	41 28.5	34 23.6	36 25.0	49 34.0	24 16.7	15 10.4	3 2.1	15 10.4
15歳以上65歳未満 (中学生を除く)	70 100.0	32 45.7	14 20.0	20 28.6	24 34.3	34 48.6	11 15.7	14 20.0	20 28.6	16 22.9	10 14.3	2 2.9	5 7.1
65歳以上	93 100.0	34 36.6	44 47.3	41 44.1	28 30.1	15 16.1	26 28.0	26 28.0	34 36.6	14 15.1	8 8.6	2 2.2	12 12.9
女性	67 100.0	29 43.3	25 37.3	21 31.3	16 23.9	15 22.4	22 32.8	15 22.4	22 32.8	11 16.4	8 11.9	1 1.5	6 9.0
2人以上の世帯:計	550 100.0	246 44.7	236 42.9	212 38.5	199 36.2	156 28.4	166 30.2	154 28.0	136 24.7	110 20.0	79 14.4	18 3.3	64 11.6
未就学児(小学校入学前)の いる世帯	34 100.0	18 52.9	8 23.5	12 35.3	14 41.2	13 38.2	10 29.4	9 26.5	8 23.5	6 17.6	17 50.0	1 2.9	1 2.9
小学生のいる世帯	44 100.0	18 40.9	14 31.8	14 31.8	13 29.5	21 47.7	12 27.3	15 34.1	5 11.4	11 25.0	18 40.9	1 2.3	1 2.3
中学生のいる世帯	40 100.0	14 35.0	13 32.5	12 30.0	15 37.5	19 47.5	11 27.5	11 27.5	8 20.0	14 35.0	18 45.0	2 5.0	4 10.0
15歳以上18歳未満 (中学生を除く)のいる世帯	42 100.0	24 57.1	19 45.2	16 38.1	17 40.5	17 40.5	7 16.7	10 23.8	7 16.7	15 35.7	14 33.3	1 2.4	1 2.4
18歳以上65歳未満の いる世帯	382 100.0	171 44.8	143 37.4	132 34.6	150 39.3	142 37.2	106 27.7	99 25.9	82 21.5	89 23.3	69 18.1	15 3.9	35 9.2
65歳以上のいる世帯	365 100.0	161 44.1	179 49.0	158 43.3	132 36.2	62 17.0	121 33.2	118 32.3	107 29.3	54 14.8	32 8.8	12 3.3	48 13.2
女性のいる世帯	530 100.0	240 45.3	229 43.2	205 38.7	189 35.7	148 27.9	161 30.4	152 28.7	131 24.7	107 20.2	77 14.5	18 3.4	59 11.1
65歳以上だけの世帯	164 100.0	72 43.9	91 55.5	77 47.0	46 28.0	14 8.5	58 35.4	53 32.3	52 31.7	21 12.8	10 6.1	3 1.8	29 17.7

3-5-9 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態

【問12で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問15-3 大熊町に戻る場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（○は1つ）

＜図表3-5-9 大熊町へ帰町した場合に希望する住居形態＞



〔その他の内訳〕

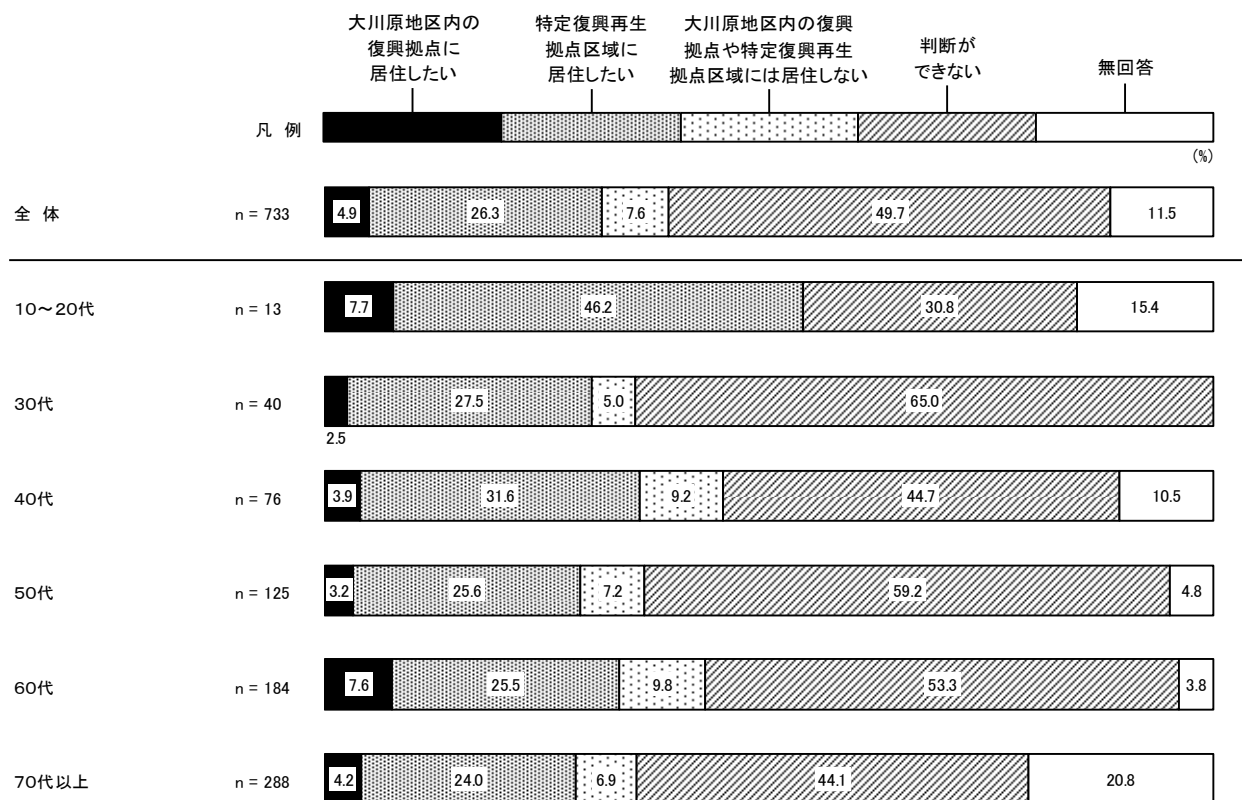
自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい	0.8%
給与住宅（社宅など）	0.3%
家族のどなたかのお住まい・実家	0.7%
親戚・知人宅	—
その他	0.8%

3-5-10 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向

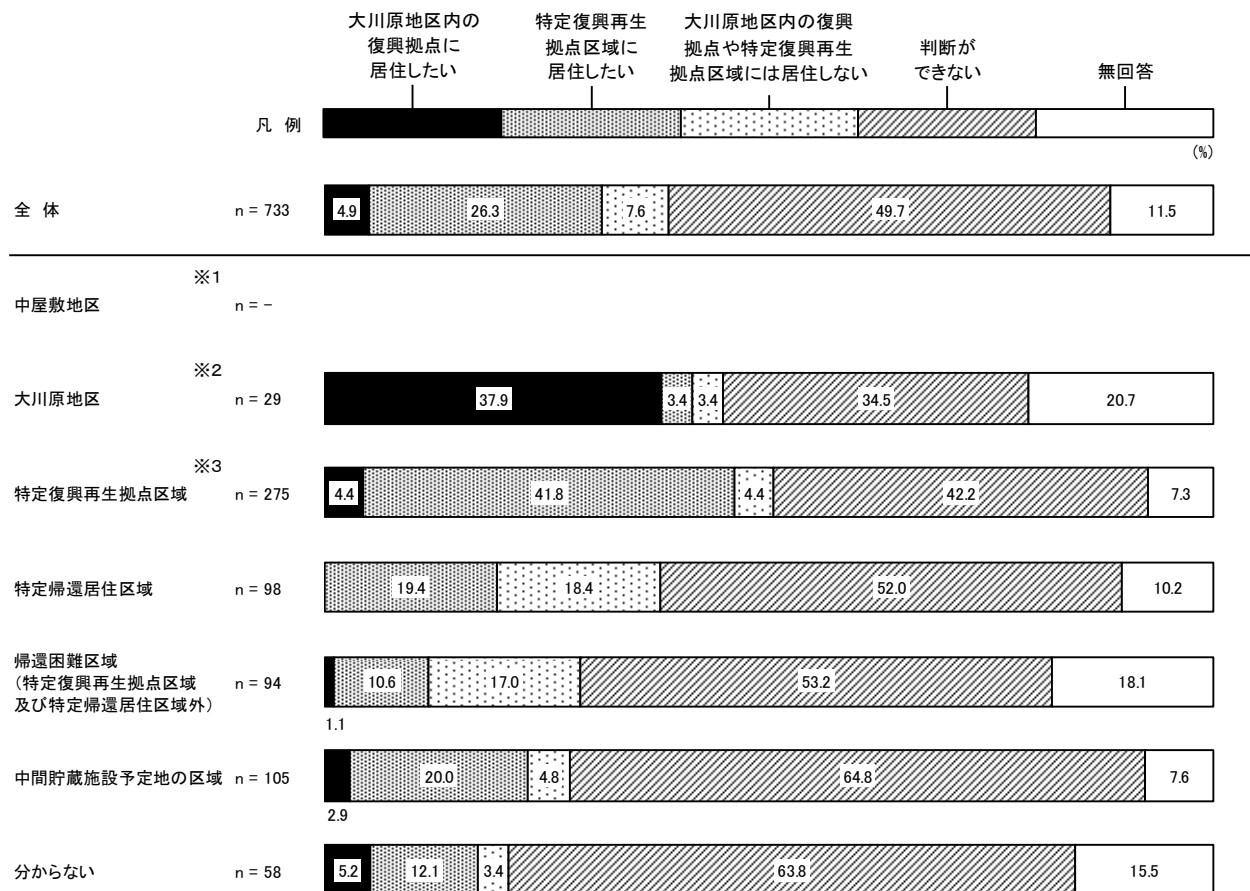
【問12で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問15-4 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住に関する意向について、もっとも近いものはどれですか。（〇は1つ）

＜図表3-5-10-1 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（年齢別）＞



＜図表３－５－１０－２ 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（避難指示区域別）＞



※1 平成31年4月10日に避難指示解除済み（旧避難指示解除準備区域）
 ※2 平成31年4月10日に避難指示解除済み（旧居住制限区域）
 ※3 令和4年6月30日に避難指示解除済み

＜図表３－５－１０－３ 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住意向（現在の世帯構成別）＞

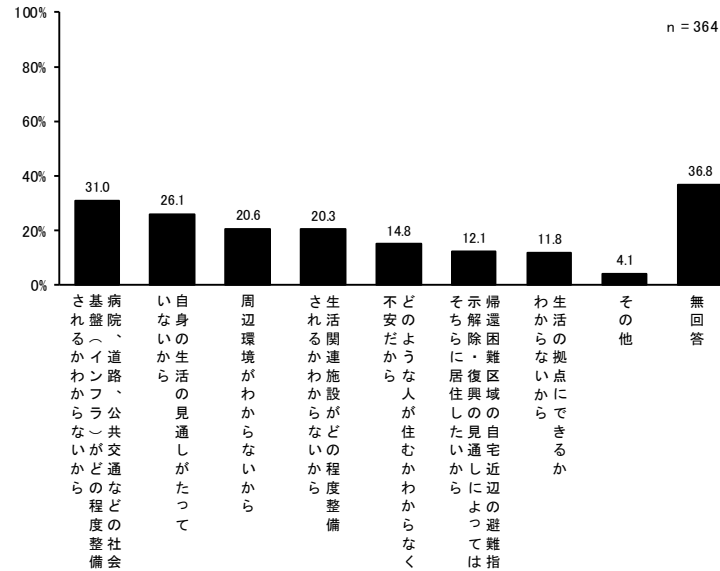
	調査数	大川原地区内の復興拠点に 居住したい	特定復興再生拠点区域に 居住したい	大川原地区内の復興拠点や 特定復興再生拠点区域には 居住しない	判断ができない	無回答
全 体	733 100.0	36 4.9	193 26.3	56 7.6	364 49.7	84 11.5
単身世帯：計	144 100.0	8 5.6	37 25.7	9 6.3	78 54.2	12 8.3
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	70 100.0	5 7.1	17 24.3	6 8.6	41 58.6	1 1.4
65歳以上	93 100.0	5 5.4	23 24.7	5 5.4	48 51.6	12 12.9
女性	67 100.0	5 7.5	12 17.9	5 7.5	38 56.7	7 10.4
2人以上の世帯：計	550 100.0	27 4.9	146 26.5	47 8.5	267 48.5	63 11.5
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	34 100.0	3 8.8	10 29.4	2 5.9	17 50.0	2 5.9
小学生のいる世帯	44 100.0	2 4.5	14 31.8	5 11.4	21 47.7	2 4.5
中学生のいる世帯	40 100.0	6 15.0	10 25.0	5 12.5	18 45.0	1 2.5
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	42 100.0	2 4.8	15 35.7	4 9.5	19 45.2	2 4.8
18歳以上65歳未満の いる世帯	382 100.0	19 5.0	104 27.2	35 9.2	193 50.5	31 8.1
65歳以上のいる世帯	365 100.0	16 4.4	95 26.0	33 9.0	167 45.8	54 14.8
女性のいる世帯	530 100.0	25 4.7	143 27.0	47 8.9	256 48.3	59 11.1
65歳以上の世帯	164 100.0	6 3.7	41 25.0	12 7.3	74 45.1	31 18.9

3-5-11 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由

【問15-4で「4. 判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問15-5 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住について、現時点で判断ができない理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

＜図表3-5-11 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域への居住を判断できない理由＞



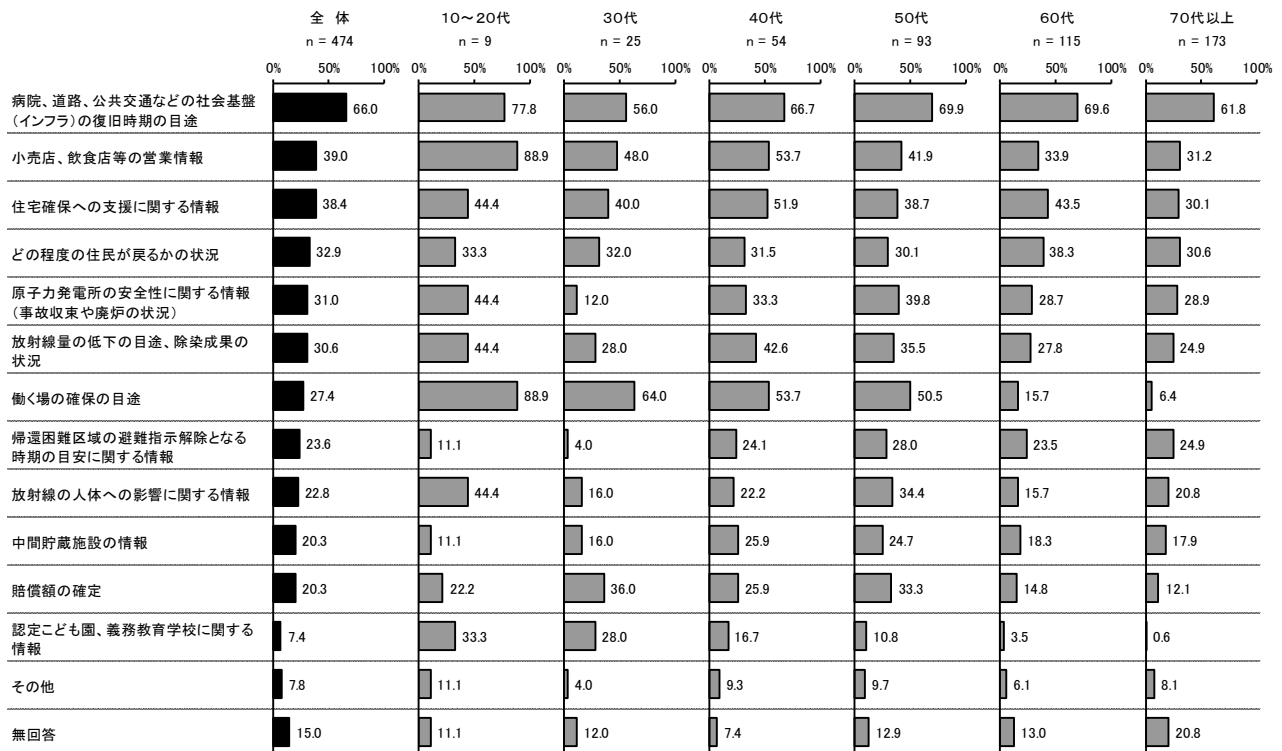
3-5-12 大熊町への帰町を判断するために必要なこと

【問12で「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問16-1 大熊町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。（〇はいくつでも）

問16-2 問16-1で選択した「必要なこと」のうち、特に必要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きください。
（最大3つまで）

<図表3-5-12-1 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（年齢別）>



＜図表３－５－１２－２ 大熊町への帰町を判断するために必要なこと（現在の世帯構成別）＞

	調査数	復旧時期の 社会基盤（インフラ）の 目途	病院、道路、公共交通などの 営業情報	住宅確保への支援に関する 情報	どの程度の住民が戻るかの 状況	原子力発電所の安全性に 関する情報（事故収束や廃炉の 状況）	放射線量の低下の 目途、 除染成果の状況	働く場の確保の 目途	帰還困難区域の避難指示解除と なる時期の目安に関する 情報	放射線の人体への影響に 関する情報	中間貯蔵施設の 情報	賠償額の 確定	認定することも 国、義務教育学校に 関する情報	その他	無回答
全 体	474	313	185	182	156	147	145	130	112	108	96	96	35	37	71
	100.0	66.0	39.0	38.4	32.9	31.0	30.6	27.4	23.6	22.8	20.3	20.3	7.4	7.8	15.0
単身世帯：計	90	61	37	32	22	19	27	29	13	22	17	18	3	12	9
	100.0	67.8	41.1	35.6	24.4	21.1	30.0	32.2	14.4	24.4	18.9	20.0	3.3	13.3	10.0
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	46	34	22	19	10	12	17	29	5	15	11	14	3	4	2
	100.0	73.9	47.8	41.3	21.7	26.1	37.0	63.0	10.9	32.6	23.9	30.4	6.5	8.7	4.3
65歳以上	55	33	19	20	14	9	12	7	9	9	9	8	1	9	9
	100.0	60.0	34.5	36.4	25.5	16.4	21.8	12.7	16.4	16.4	16.4	14.5	1.8	16.4	16.4
女性	45	31	22	12	10	10	14	11	7	13	9	9	3	6	6
	100.0	68.9	48.9	26.7	22.2	22.2	31.1	24.4	15.6	28.9	20.0	20.0	6.7	13.3	13.3
2人以上の世帯：計	358	237	144	144	132	122	114	93	94	82	77	73	30	25	54
	100.0	66.2	40.2	40.2	36.9	34.1	31.8	26.0	26.3	22.9	21.5	20.4	8.4	7.0	15.1
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	25	17	11	10	8	6	9	8	5	5	4	7	10	4	3
	100.0	68.0	44.0	40.0	32.0	24.0	36.0	32.0	20.0	20.0	16.0	28.0	40.0	16.0	12.0
小学生のいる世帯	29	19	16	13	11	4	8	11	8	3	4	7	11	5	1
	100.0	65.5	55.2	44.8	37.9	13.8	27.6	37.9	27.6	10.3	13.8	24.1	37.9	17.2	3.4
中学生のいる世帯	29	21	15	14	12	13	10	14	6	6	10	8	8	3	5
	100.0	72.4	51.7	48.3	41.4	44.8	34.5	48.3	20.7	20.7	34.5	27.6	27.6	10.3	17.2
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	35	23	18	17	10	9	8	16	6	6	7	8	5	-	5
	100.0	65.7	51.4	48.6	28.6	25.7	22.9	45.7	17.1	17.1	20.0	22.9	14.3	-	14.3
18歳以上65歳未満の いる世帯	260	175	112	112	93	85	84	92	71	61	58	60	30	20	35
	100.0	67.3	43.1	43.1	35.8	32.7	32.3	35.4	27.3	23.5	22.3	23.1	11.5	7.7	13.5
65歳以上のいる世帯	222	141	72	81	83	73	61	29	62	46	45	32	6	14	39
	100.0	63.5	32.4	36.5	37.4	32.9	27.5	13.1	27.9	20.7	20.3	14.4	2.7	6.3	17.6
女性のいる世帯	345	225	136	140	127	119	111	87	89	81	74	70	30	25	53
	100.0	65.2	39.4	40.6	36.8	34.5	32.2	25.2	25.8	23.5	21.4	20.3	8.7	7.2	15.4
65歳以上だけの世帯	96	60	31	32	39	36	30	1	22	21	19	13	-	5	19
	100.0	62.5	32.3	33.3	40.6	37.5	31.3	1.0	22.9	21.9	19.8	13.5	-	5.2	19.8

上位項目についての主な意見は以下の通り。

〔病院、道路、公共交通などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途〕

- ・総合病院などができると安心。（１０～２０代・女性）
- ・病院などインフラが安定するまでは判断できない。（４０代・男性）
- ・現在の周辺環境の状況・社会基盤（インフラ）の状況、またこれからの復旧時期については、ある程度情報を知りたい。（５０代・男性）
- ・車を使用しなくても、徒歩で行ける範囲内にスーパーや駅があるところに住めれば良いと思う（震災前は駅から遠かった）。（６０代・女性）
- ・現在、持病により通院を余儀なくされているため、大野病院の開業が気になる。（７０代以上・男性）

〔小売店・飲食店等の営業情報〕

- ・生活するなら、やはりインフラが大事なので、その情報はきちんとわかりやすく伝えてくれるとうれしい。（３０代・女性）
- ・車が無くても生活に困らない状況が必要。徒歩圏内にどんな施設があるか？（４０代・男性）
- ・生活水準維持ができる程の拡充が必要。（５０代・男性）
- ・スーパー等の様に、ある程度品数が揃い、自分で料理が出来る店（出来合いの惣菜ばかりでは）。（６０代・男性）
- ・震災前のように気軽に入店できるお店の再開。（７０代以上・女性）

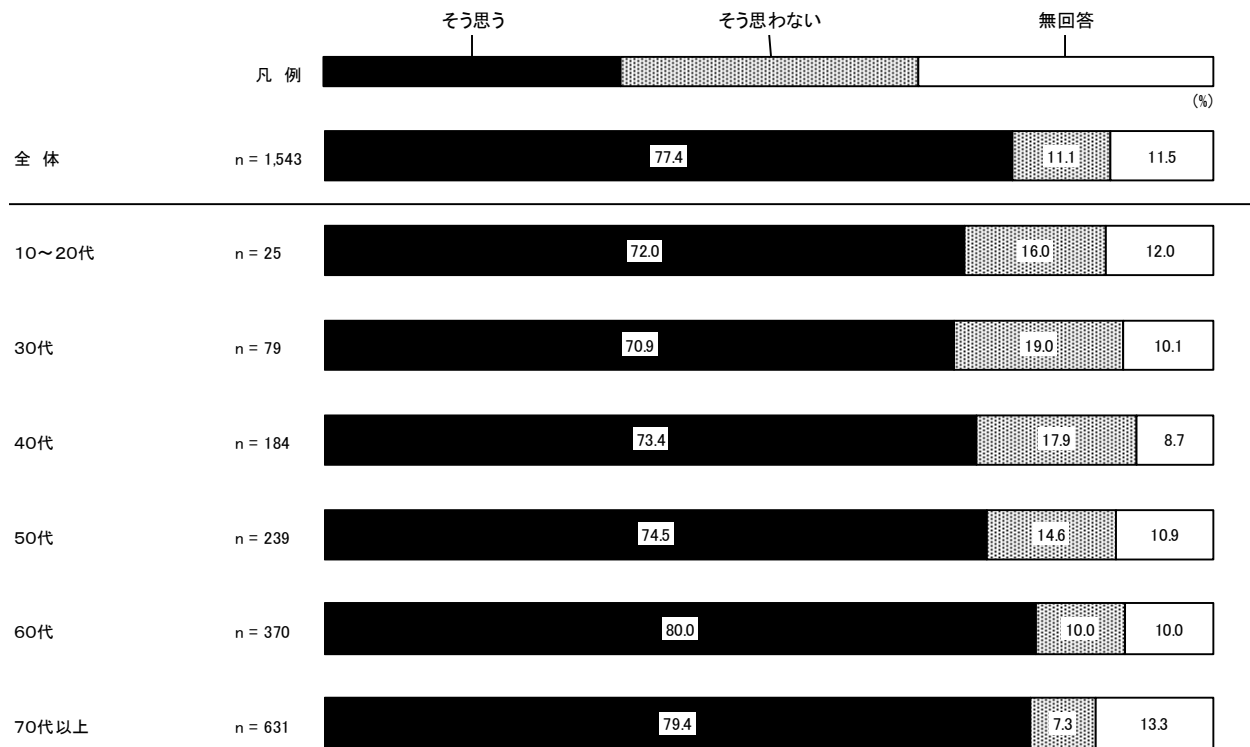
〔住宅確保への支援に関する情報〕

- ・子供がいるので集合住宅より戸建が望ましい。（４０代・女性）
- ・大熊町に戻るには、解体後の宅地に住宅再建が必要となるが、資金が不足。各種の手厚い補助が必要。（５０代・男性）
- ・公営住宅の家賃が高いと聞いているので、低所得者でも入れる様な金額にしてほしい。（６０代・女性）
- ・現在の家の売却支援と新住宅の購入時の支援。（７０代以上・男性）
- ・新居建設の費用もなく、公営住宅（戸建）でゆっくりしたい。（７０代以上・男性）

3-5-13 大熊町との「つながり」を保ちたいか

【問12で「3. まだ判断がつかない」「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。
問17-1 大熊町との“つながり”を保ちたいと思いますか。（〇は1つ）

＜図表3-5-13-1 大熊町との「つながり」を保ちたいか（年齢別）＞



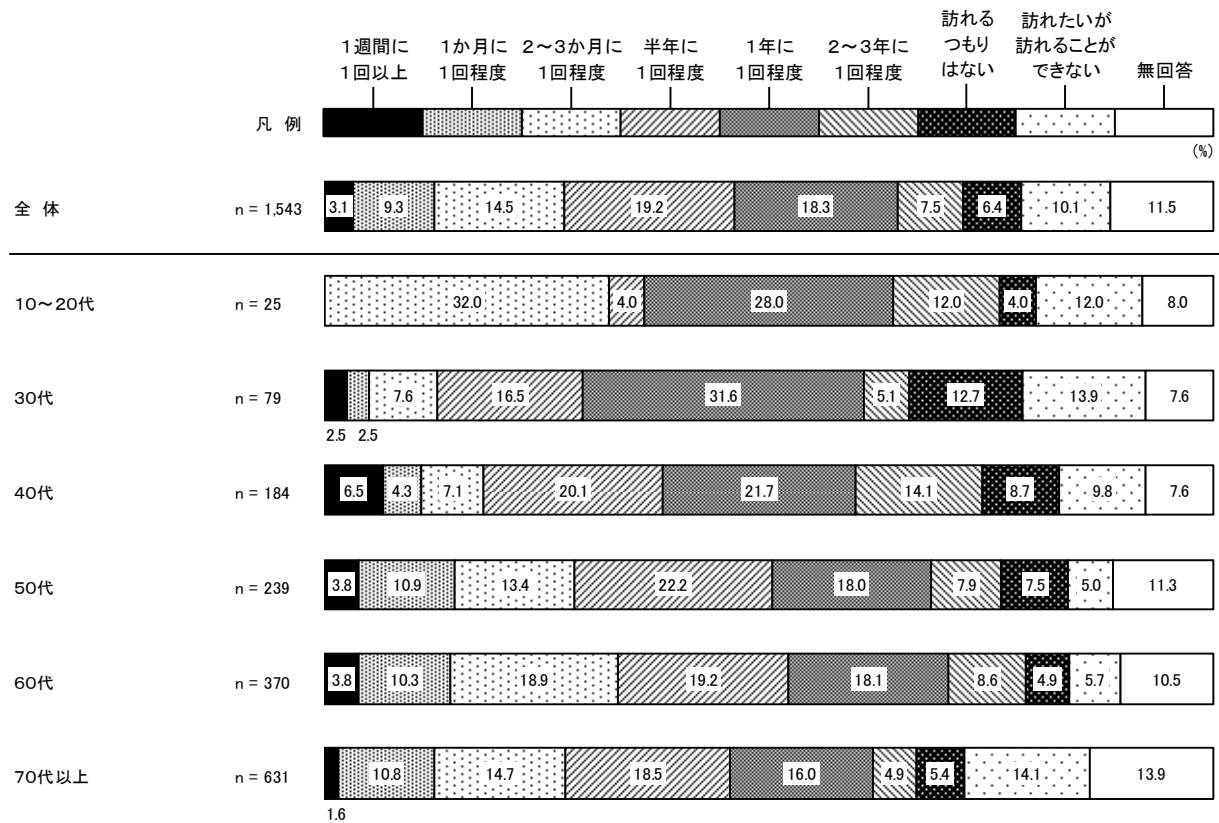
＜図表３－５－１３－２ 大熊町との「つながり」を保ちたいか（現在の世帯構成別）＞

	調査数	そう思う	そう思わない	無回答
全 体	1543	1194	172	177
	100.0	77.4	11.1	11.5
単身世帯：計	309	251	31	27
	100.0	81.2	10.0	8.7
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	113	90	14	9
	100.0	79.6	12.4	8.0
65歳以上	230	187	21	22
	100.0	81.3	9.1	9.6
女性	178	149	16	13
	100.0	83.7	9.0	7.3
2人以上の世帯：計	1173	908	132	133
	100.0	77.4	11.3	11.3
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	86	62	13	11
	100.0	72.1	15.1	12.8
小学生のいる世帯	119	87	19	13
	100.0	73.1	16.0	10.9
中学生のいる世帯	106	75	17	14
	100.0	70.8	16.0	13.2
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	86	59	15	12
	100.0	68.6	17.4	14.0
18歳以上65歳未満の いる世帯	841	634	112	95
	100.0	75.4	13.3	11.3
65歳以上のいる世帯	740	587	68	85
	100.0	79.3	9.2	11.5
女性のいる世帯	1146	887	130	129
	100.0	77.4	11.3	11.3
65歳以上だけの世帯	327	269	20	38
	100.0	82.3	6.1	11.6

3-5-14 大熊町を訪れたい頻度

【問12で「3. まだ判断がつかない」「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
 問17-2 今後、大熊町にどのぐらいの頻度で訪れたいと思いますか。（〇は1つ）

＜図表3-5-14-1 大熊町を訪れたい頻度（年齢別）＞



＜図表3－5－14－2 大熊町を訪れたい頻度（現在の世帯構成別）＞

	調査数	1週間に1回以上	1か月に1回程度	2～3か月に1回程度	半年に1回程度	1年に1回程度	2～3年に1回程度	訪れるつもりはない	訪れたいが訪れることができない	無回答
全 体	1543 100.0	48 3.1	143 9.3	224 14.5	296 19.2	283 18.3	116 7.5	99 6.4	156 10.1	178 11.5
単身世帯：計	309 100.0	4 1.3	26 8.4	37 12.0	54 17.5	49 15.9	23 7.4	22 7.1	63 20.4	31 10.0
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	113 100.0	2 1.8	8 7.1	11 9.7	27 23.9	24 21.2	13 11.5	8 7.1	10 8.8	10 8.8
65歳以上	230 100.0	2 0.9	19 8.3	30 13.0	38 16.5	30 13.0	14 6.1	17 7.4	55 23.9	25 10.9
女性	178 100.0	3 1.7	11 6.2	21 11.8	31 17.4	28 15.7	7 3.9	12 6.7	49 27.5	16 9.0
2人以上の世帯：計	1173 100.0	41 3.5	112 9.5	179 15.3	235 20.0	230 19.6	89 7.6	71 6.1	86 7.3	130 11.1
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	86 100.0	4 4.7	3 3.5	13 15.1	11 12.8	20 23.3	4 4.7	8 9.3	11 12.8	12 14.0
小学生のいる世帯	119 100.0	6 5.0	6 5.0	12 10.1	20 16.8	26 21.8	10 8.4	13 10.9	15 12.6	11 9.2
中学生のいる世帯	106 100.0	5 4.7	6 5.7	8 7.5	17 16.0	23 21.7	12 11.3	11 10.4	11 10.4	13 12.3
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	86 100.0	2 2.3	10 11.6	11 12.8	16 18.6	15 17.4	9 10.5	6 7.0	5 5.8	12 14.0
18歳以上65歳未満の いる世帯	841 100.0	33 3.9	77 9.2	120 14.3	156 18.5	175 20.8	70 8.3	59 7.0	61 7.3	90 10.7
65歳以上のいる世帯	740 100.0	19 2.6	86 11.6	128 17.3	152 20.5	133 18.0	49 6.6	34 4.6	53 7.2	86 11.6
女性のいる世帯	1146 100.0	40 3.5	108 9.4	176 15.4	233 20.3	223 19.5	86 7.5	68 5.9	85 7.4	127 11.1
65歳以上だけの世帯	327 100.0	8 2.4	35 10.7	58 17.7	79 24.2	52 15.9	19 5.8	12 3.7	25 7.6	39 11.9

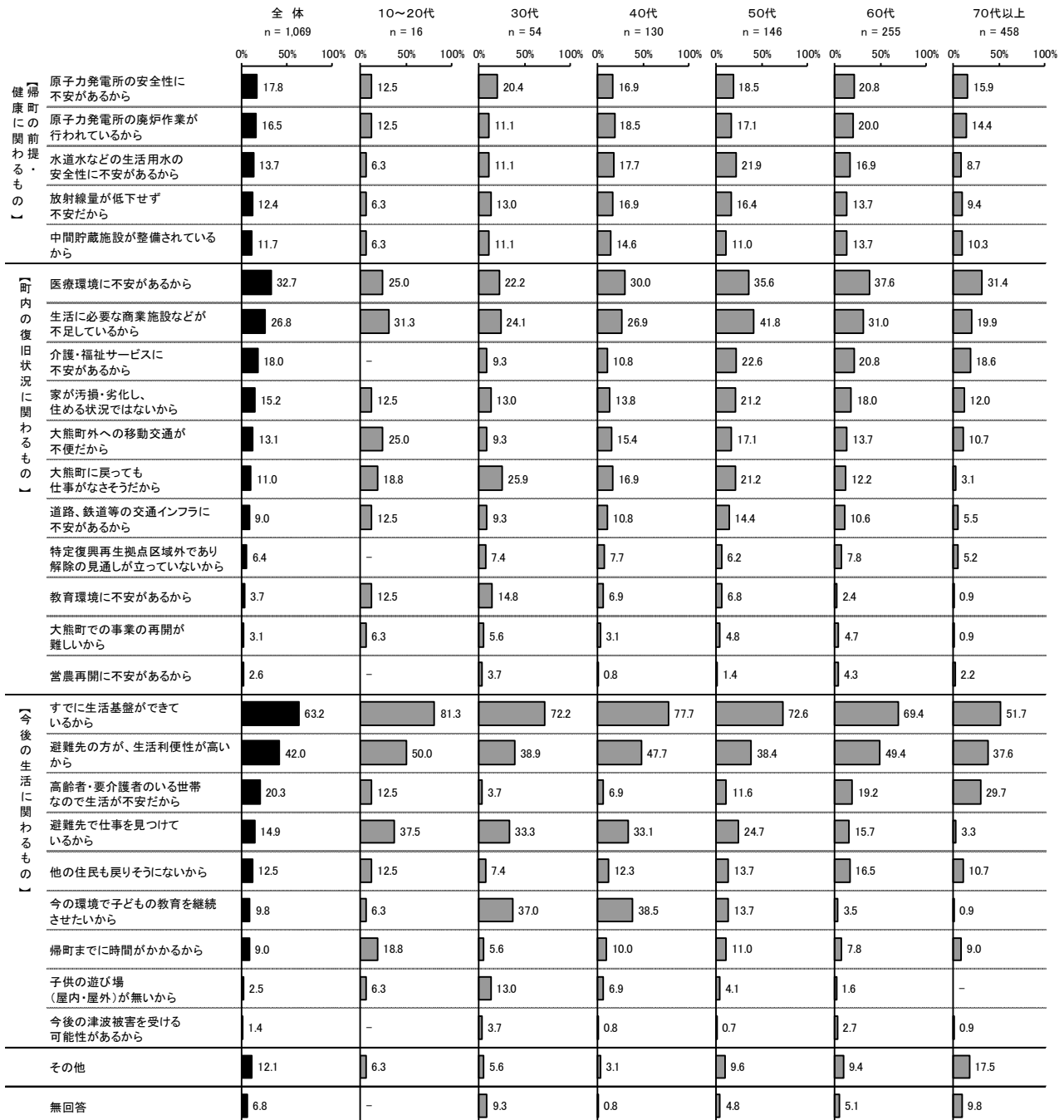
3-5-15 現時点で戻らないと決めている理由

【問12で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問18-1 現時点で戻らないと決めている理由は何のようなことですか。（〇はいくつでも）

問18-2 問18-1で選択した「戻らない理由」のうち、特に重要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的な考えや今後の要望などがあればご自由にお書きください。（最大3つまで）

＜図表3-5-15-1 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）＞



＜図表３－５－１５－２ 現時点で戻らないと決めている理由（現在の世帯構成別）＞

	調査数	【帰町の前提・健康に関わるもの】						【町内の復旧状況に関わるもの】													
		不安があるから	原子力発電所の安全性に不安があるから	原子力発電所の廃炉作業が行われているから	水道水などの生活用水の安全性に不安があるから	放射線量が低下せず不安だから	中間貯蔵施設が整備されているから	医療環境に不安があるから	生活に必要な商業施設などが不足しているから	介護・福祉サービスに不安があるから	住める状況ではないから	家が汚損・劣化し、不便だから	大熊町外への移動交通が不便だから	大熊町に戻っても仕事がなさそうだから	あるから	道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから	特定復興再生拠点区域外であり解除の見通しが立っていないから	教育環境に不安があるから	難しいから	大熊町での事業の再開が	営業再開に不安があるから
全 体	1069 100.0	190 17.8	176 16.5	146 13.7	133 12.4	125 11.7	350 32.7	287 26.8	192 18.0	162 15.2	140 13.1	118 11.0	96 9.0	68 6.4	40 3.7	33 3.1	28 2.6				
単身世帯：計	219 100.0	40 18.3	26 11.9	26 11.9	25 11.4	21 9.6	62 28.3	48 21.9	38 17.4	28 12.8	30 13.7	25 11.4	19 8.7	11 5.0	6 2.7	5 2.3	3 1.4				
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	67 100.0	16 23.9	11 16.4	13 19.4	11 16.4	9 13.4	17 25.4	22 32.8	6 9.0	11 16.4	12 17.9	18 26.9	8 11.9	5 7.5	5 7.5	2 3.0	1 1.5				
65歳以上	175 100.0	28 16.0	18 10.3	16 9.1	16 9.1	15 8.6	50 28.6	31 17.7	33 18.9	20 11.4	23 13.1	12 6.9	13 7.4	6 3.4	3 1.7	3 1.7	2 1.1				
女性	133 100.0	28 21.1	15 11.3	18 13.5	15 11.3	11 8.3	41 30.8	24 18.0	25 18.8	16 12.0	18 13.5	12 9.0	12 9.0	7 5.3	3 2.3	4 3.0	3 2.3				
2人以上の世帯：計	815 100.0	145 17.8	143 17.5	114 14.0	104 12.8	103 12.6	276 33.9	233 28.6	148 18.2	126 15.5	107 13.1	92 11.3	73 9.0	55 6.7	33 4.0	27 3.3	25 3.1				
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	61 100.0	7 11.5	6 9.8	3 4.9	4 6.6	3 4.9	13 21.3	8 13.1	6 9.8	7 11.5	5 8.2	8 13.1	4 6.6	4 6.6	3 4.9	1 1.6	-				
小学生のいる世帯	90 100.0	17 18.9	15 16.7	14 15.6	14 15.6	9 10.0	23 25.6	21 23.3	10 11.1	12 13.3	14 15.6	13 14.4	9 10.0	10 11.1	9 10.0	5 5.6	2 2.2				
中学生のいる世帯	77 100.0	15 19.5	15 19.5	14 18.2	12 15.6	11 14.3	24 31.2	23 29.9	10 13.0	7 9.1	12 15.6	11 14.3	9 11.7	10 13.0	10 13.0	5 6.5	4 5.2				
高校生のいる世帯	51 100.0	5 9.8	7 13.7	7 13.7	6 11.8	8 15.7	16 31.4	15 29.4	9 17.6	9 17.6	9 17.6	10 19.6	5 9.8	5 9.8	5 9.8	2 3.9	2 3.9				
15歳以上65歳未満（中学生・ 高校生を除く）のいる世帯	581 100.0	102 17.6	97 16.7	85 14.6	74 12.7	80 13.8	192 33.0	175 30.1	99 17.0	94 16.2	81 13.9	86 14.8	61 10.5	39 6.7	31 5.3	24 4.1	19 3.3				
65歳以上のいる世帯	518 100.0	103 19.9	97 18.7	69 13.3	64 12.4	71 13.7	189 36.5	143 27.6	102 19.7	71 13.7	64 12.4	40 7.7	36 6.9	35 6.8	9 1.7	12 2.3	19 3.7				
女性のいる世帯	801 100.0	142 17.7	140 17.5	111 13.9	101 12.6	100 12.5	272 34.0	230 28.7	147 18.4	124 15.5	105 13.1	91 11.4	70 8.7	53 6.6	32 4.0	27 3.4	25 3.1				
65歳以上だけの世帯	231 100.0	43 18.6	46 19.9	29 12.6	30 13.0	23 10.0	84 36.4	58 25.1	49 21.2	32 13.9	26 11.3	6 2.6	12 5.2	16 6.9	2 0.9	3 1.3	6 2.6				
	調査数	【今後の生活に関わるもの】										その他	無回答								
		いすでに生活基盤ができて	が避難先の方が、生活利便性	が避難先の方が、生活利便性	だ世帯なので生活が不安	高年齢者・要介護者がいる	避難先で仕事をみつけない	他の住民も戻りそうにない	継続された子どもの教育を	帰町までに時間がかかる	（屋内・屋外）が無いから			子供の遊び場	今後の津波被害を受ける可能性はあるから						
全 体	1069 100.0	676 63.2	449 42.0	217 20.3	159 14.9	134 12.5	105 9.8	96 9.0	27 2.5	15 1.4	129 12.1	73 6.8									
単身世帯：計	219 100.0	107 48.9	84 38.4	42 19.2	27 12.3	26 11.9	1 0.5	19 8.7	3 1.4	3 1.4	37 16.9	20 9.1									
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	67 100.0	44 65.7	31 46.3	3 4.5	20 29.9	11 16.4	-	5 7.5	3 4.5	2 3.0	4 6.0	5 7.5									
65歳以上	175 100.0	75 42.9	66 37.7	42 24.0	12 6.9	18 10.3	1 0.6	15 8.6	2 1.1	1 0.6	33 18.9	18 10.3									
女性	133 100.0	62 46.6	47 35.3	28 21.1	11 8.3	13 9.8	1 0.8	11 8.3	1 0.8	2 1.5	30 22.6	13 9.8									
2人以上の世帯：計	815 100.0	559 68.6	351 43.1	169 20.7	131 16.1	104 12.8	103 12.6	75 9.2	24 2.9	12 1.5	87 10.7	48 5.9									
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	61 100.0	42 68.9	20 32.8	4 6.6	12 19.7	5 8.2	22 36.1	3 4.9	5 8.2	-	7 11.5	2 3.3									
小学生のいる世帯	90 100.0	66 73.3	35 38.9	3 3.3	19 21.1	6 6.7	44 48.9	7 7.8	10 11.1	2 2.2	8 8.9	4 4.4									
中学生のいる世帯	77 100.0	59 76.6	33 42.9	5 6.5	18 23.4	5 6.5	38 49.4	8 10.4	5 6.5	1 1.3	7 9.1	4 5.2									
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	51 100.0	39 76.5	19 37.3	5 9.8	15 29.4	9 17.6	25 49.0	3 5.9	3 5.9	-	4 7.8	1 2.0									
18歳以上65歳未満の いる世帯	581 100.0	425 73.1	254 43.7	90 15.5	123 21.2	77 13.3	99 17.0	53 9.1	24 4.1	9 1.5	51 8.8	29 5.0									
65歳以上のいる世帯	518 100.0	331 63.9	232 44.8	157 30.3	45 8.7	74 14.3	18 3.5	46 8.9	7 1.4	8 1.5	67 12.9	36 6.9									
女性のいる世帯	801 100.0	553 69.0	347 43.3	167 20.8	129 16.1	103 12.9	101 12.6	74 9.2	23 2.9	12 1.5	87 10.9	46 5.7									
65歳以上だけの世帯	231 100.0	132 57.1	97 42.0	79 34.2	8 3.5	27 11.7	3 1.3	22 9.5	-	3 1.3	35 15.2	18 7.8									

Ⅲ 調査結果（全項目）

上位項目についての主な意見は以下の通り。

〔すでに生活基盤ができているから〕

- ・仕事があるかが重要。（１０～２０代・男性）
- ・今の居住地で家を建ててしまったから。（３０代・女性）
- ・子どもたちは大熊での暮らしより、今の場所での期間のほうが多くなりました。（５０代・女性）
- ・原発事故後の生活の方（避難先）が長くなり、それを崩して戻る理由はない。（６０代・男性）
- ・知り合いも多くなり、生活に安定感があり、自分達の活動範囲に広がりもあり生活に張りがある。子や孫も関東圏に居住。（７０代以上・男性）

〔避難先の方が、生活利便性が高いから〕

- ・避難先では、必要最低限の生活基盤の他にも、服屋や娯楽施設などが充実している。（１０～２０代・女性）
- ・現在の生活は、徒歩で全て片付く（５分以内）。（４０代・男性）
- ・将来的に利便性が向上するのかわという不安。現状に満足できている。（５０代・男性）
- ・家も購入し、今さら不便な場所での生活は考えられない。（６０代・女性）
- ・近くで買物ができ、生活の利便性が良い。（７０代以上・男性）

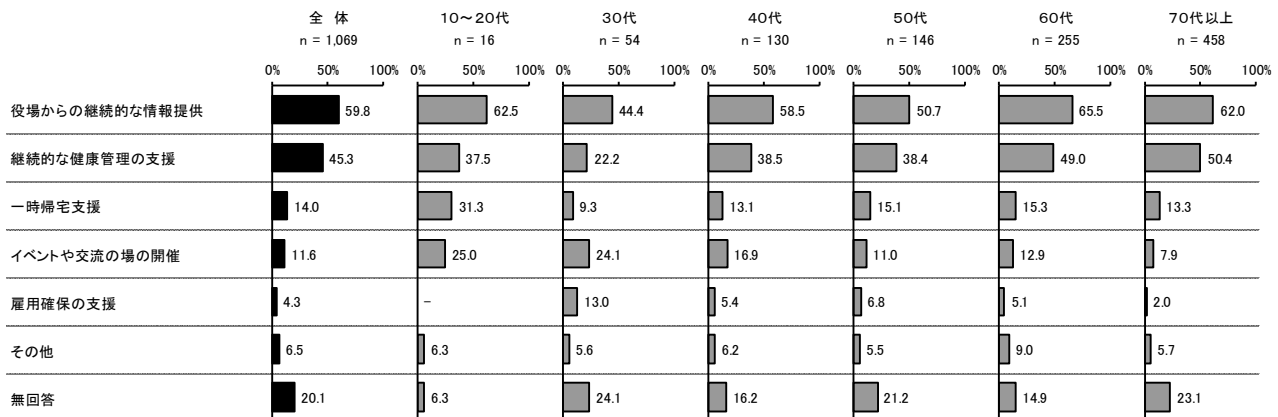
〔医療環境に不安があるから〕

- ・高齢で持病をもっている家族が多いため、医療面で不安がある。（４０代・男性）
- ・大きな病院がなく子どもに何かあった時すぐに診てもらえるかわからない。（４０代・女性）
- ・総合医療が出来る病院がないので建設してほしい。（５０代・女性）
- ・年齢も高くなり、今後１０年程度の生活が安定して不便少なく過ごすためには、現在の居住地の方が、都合が良いと判断している。（６０代・男性）
- ・高齢で持病があり、定期的に通院しているので、医療施設の充実が必要。（７０代以上・男性）

3-5-16 帰町しない場合に今後の生活において必要な支援

【問12で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】
問18-3 今後の生活においてどのような支援を求めますか。（〇はいくつでも）

＜図表3-5-16-1 帰町しない場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）＞



＜図表3-5-16-2 帰町しない場合に今後の生活において必要な支援（現在の世帯構成別）＞

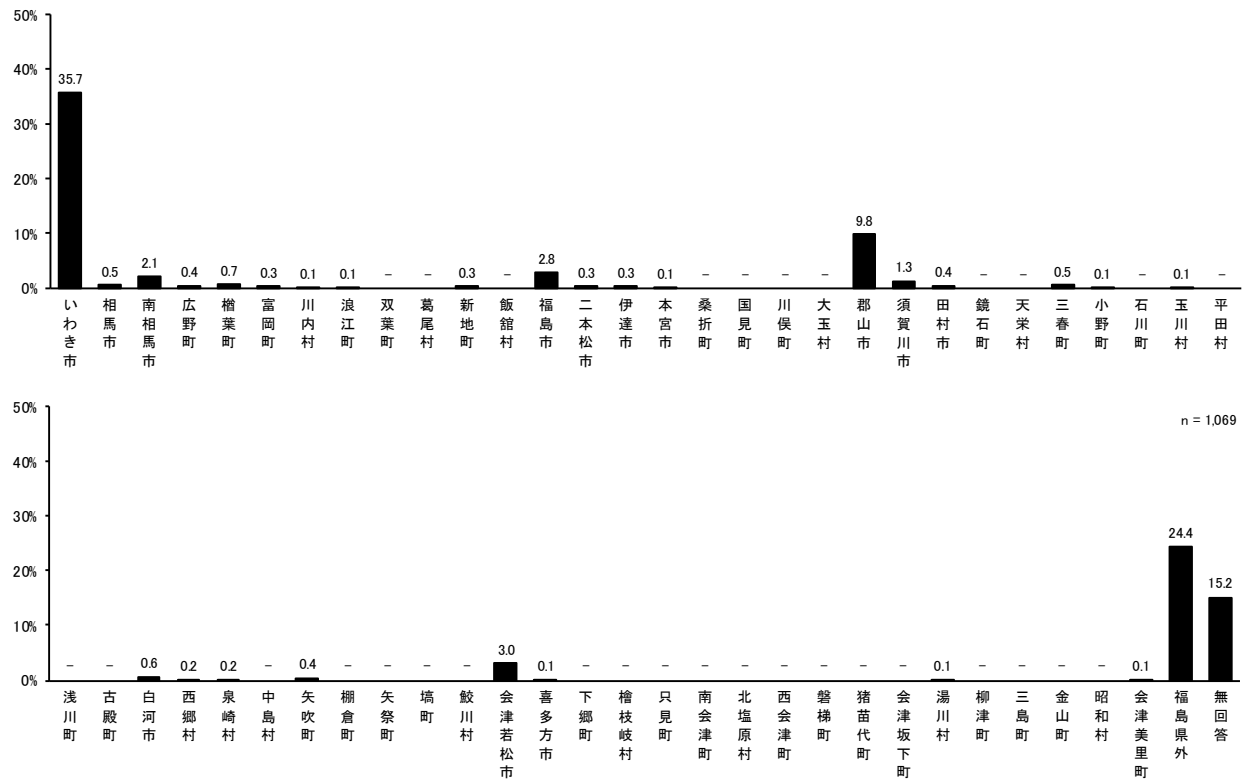
	調査数	役場からの継続的な情報提供	継続的な健康管理の支援	一時帰宅支援	イベントや交流の場の開催	雇用確保の支援	その他	無回答
全 体	1069 100.0	639 59.8	484 45.3	150 14.0	124 11.6	46 4.3	70 6.5	215 20.1
単身世帯：計	219 100.0	127 58.0	93 42.5	27 12.3	16 7.3	17 7.8	16 7.3	54 24.7
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	67 100.0	35 52.2	22 32.8	8 11.9	7 10.4	8 11.9	6 9.0	17 25.4
65歳以上	175 100.0	106 60.6	78 44.6	22 12.6	14 8.0	10 5.7	11 6.3	42 24.0
女性	133 100.0	82 61.7	64 48.1	18 13.5	11 8.3	11 8.3	8 6.0	30 22.6
2人以上の世帯：計	815 100.0	498 61.1	384 47.1	120 14.7	108 13.3	27 3.3	53 6.5	145 17.8
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	61 100.0	35 57.4	20 32.8	4 6.6	12 19.7	2 3.3	4 6.6	10 16.4
小学生のいる世帯	90 100.0	49 54.4	32 35.6	12 13.3	21 23.3	4 4.4	5 5.6	16 17.8
中学生のいる世帯	77 100.0	43 55.8	30 39.0	15 19.5	11 14.3	5 6.5	7 9.1	15 19.5
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	51 100.0	28 54.9	18 35.3	5 9.8	9 17.6	2 3.9	4 7.8	10 19.6
18歳以上65歳未満の いる世帯	581 100.0	352 60.6	262 45.1	87 15.0	83 14.3	26 4.5	33 5.7	105 18.1
65歳以上のいる世帯	518 100.0	326 62.9	266 51.4	80 15.4	62 12.0	10 1.9	35 6.8	99 19.1
女性のいる世帯	801 100.0	492 61.4	379 47.3	119 14.9	107 13.4	27 3.4	52 6.5	140 17.5
65歳以上だけの世帯	231 100.0	145 62.8	122 52.8	33 14.3	24 10.4	1 0.4	20 8.7	38 16.5

3-5-17 帰町しない場合に居住を検討する自治体

【問12で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問18-4 今後の居住を検討している（既に居住している場合を含む）自治体はどの自治体になるかを教えてください。（〇は1つ）

＜図表3-5-17 帰町しない場合に居住を検討する自治体＞

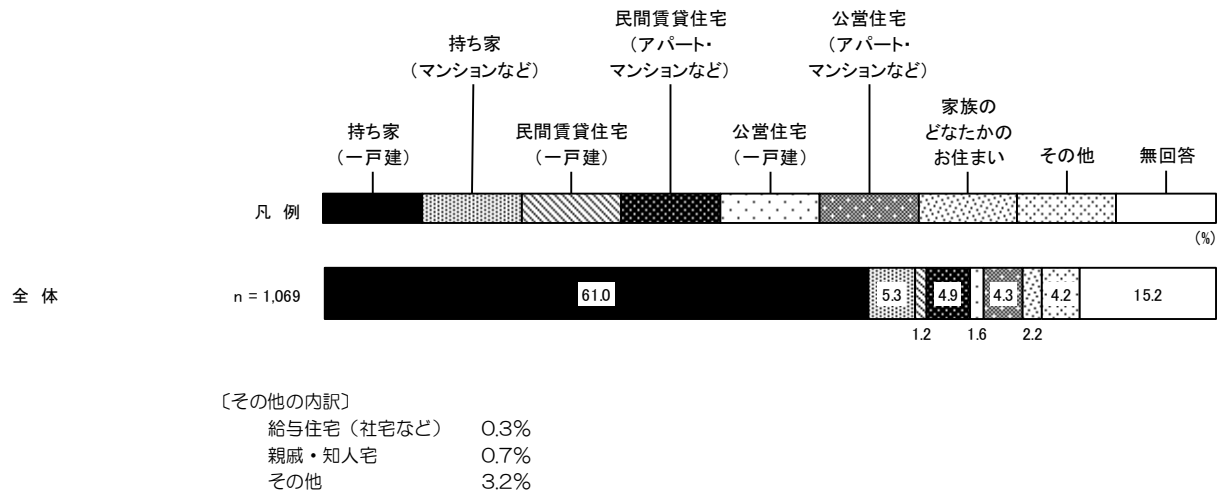


3-5-18 帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

【問12で「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問18-5 今後のお住まいとして希望する（既に居住している場合を含む）住宅は、どのような形態ですか。
（〇は1つ）

＜図表3-5-18 帰町しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態＞

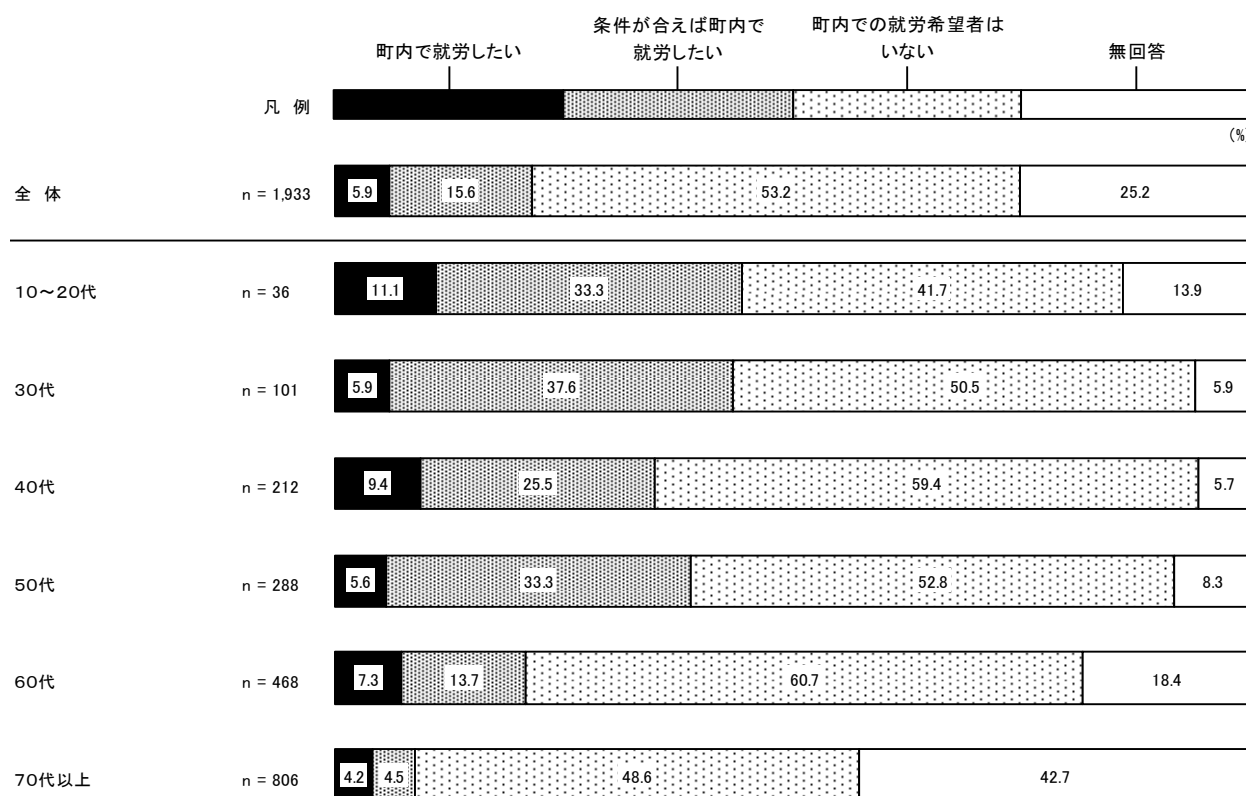


3-6 大熊町内での就労意向

3-6-1 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向

問19 町では町内への企業誘致を進めています。町内で働く場が整備された際、あなたを含めたご家族で就労を希望する方はいらっしゃいますか。（〇は1つ）
町内で就労したい方は、就労を希望する人数を性別ごとにご回答ください。

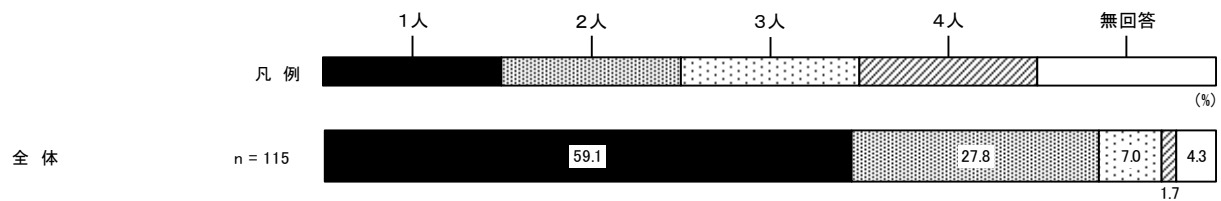
＜図表3-6-1-1 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向（年齢別）＞



＜図表3-6-1-2 大熊町内で働く場が整備された場合の家族の就労意向（現在の世帯構成別）＞

	調査数	町内で就労したい	条件が合えば町内で就労したい	町内での就労希望者はいない	無回答
全 体	1933 100.0	115 5.9	302 15.6	1029 53.2	487 25.2
単身世帯：計	410 100.0	17 4.1	62 15.1	202 49.3	129 31.5
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	154 100.0	9 5.8	52 33.8	79 51.3	14 9.1
65歳以上	300 100.0	11 3.7	24 8.0	149 49.7	116 38.7
女性	218 100.0	11 5.0	20 9.2	109 50.0	78 35.8
2人以上の世帯：計	1438 100.0	93 6.5	226 15.7	794 55.2	325 22.6
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	97 100.0	8 8.2	21 21.6	55 56.7	13 13.4
小学生のいる世帯	137 100.0	8 5.8	33 24.1	78 56.9	18 13.1
中学生のいる世帯	118 100.0	8 6.8	22 18.6	74 62.7	14 11.9
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	97 100.0	10 10.3	24 24.7	53 54.6	10 10.3
18歳以上65歳未満の いる世帯	1003 100.0	75 7.5	213 21.2	552 55.0	163 16.3
65歳以上のいる世帯	935 100.0	59 6.3	76 8.1	514 55.0	286 30.6
女性のいる世帯	1393 100.0	86 6.2	219 15.7	781 56.1	307 22.0
65歳以上だけの世帯	426 100.0	18 4.2	12 2.8	240 56.3	156 36.6

＜図表3-6-1-3 大熊町内で就労を希望する人数＞



〔内訳〕
5人以上 —

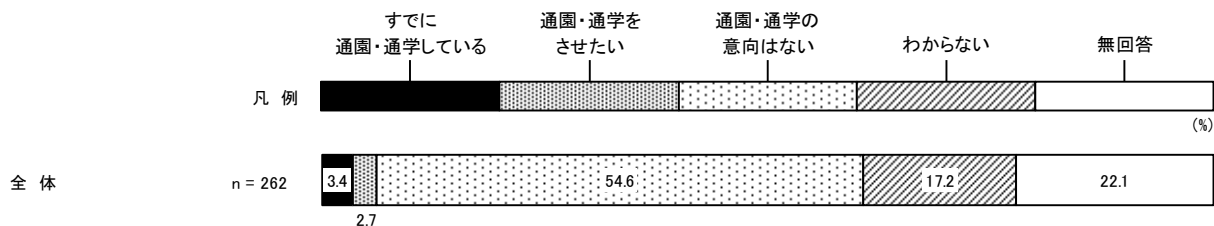
3-7 「学び舎ゆめの森」の開校

3-7-1 「学び舎ゆめの森」への通園・通学の意向

【中学生以下のお子様・お孫様がいらっしゃる世帯の方にうかがいます。】

問20-1 町では令和5年春に、会津若松市から学校機能を移転し、町内の大川原地区に認定こども園・義務教育学校「学び舎ゆめの森」を開校しました。お子様やお孫様の通園・通学のご意向について教えてください。（〇は1つ）

＜図表3-7-1 「学び舎ゆめの森」への通園・通学の意向＞



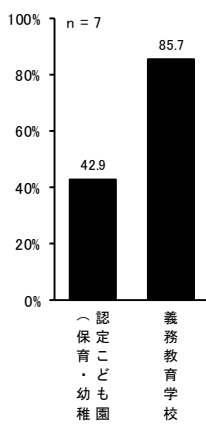
※問9で「未就学児（小学校入学前）」「小学生」「中学生」の方が同居されていると回答した世帯のみで集計

3-7-2 「学び舎ゆめの森」で通園・通学をさせたい校種

【問20-1で「2. 通園・通学をさせたい」と回答した方にうかがいます。】

問20-2 お子様・お孫様を、通園・通学をさせたい校種について教えてください。（〇はいくつでも）

＜図表3-7-2 「学び舎ゆめの森」で通園・通学をさせたい校種＞

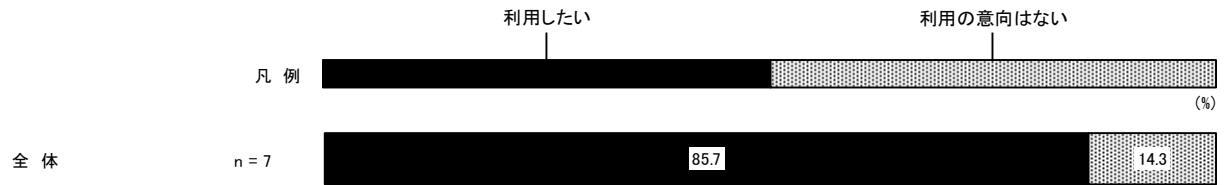


※問9で「未就学児（小学校入学前）」「小学生」「中学生」の方が同居されていると回答した世帯のみで集計

3-7-3 預かり保育・学童保育の利用意向

【問20-1で「2. 通園・通学をさせたい」と回答した方にうかがいます。】
 問20-3 預かり保育、学童保育のご利用の意向について教えてください。（〇は1つ）

＜図表3-7-3 預り保育・学童保育の利用意向＞



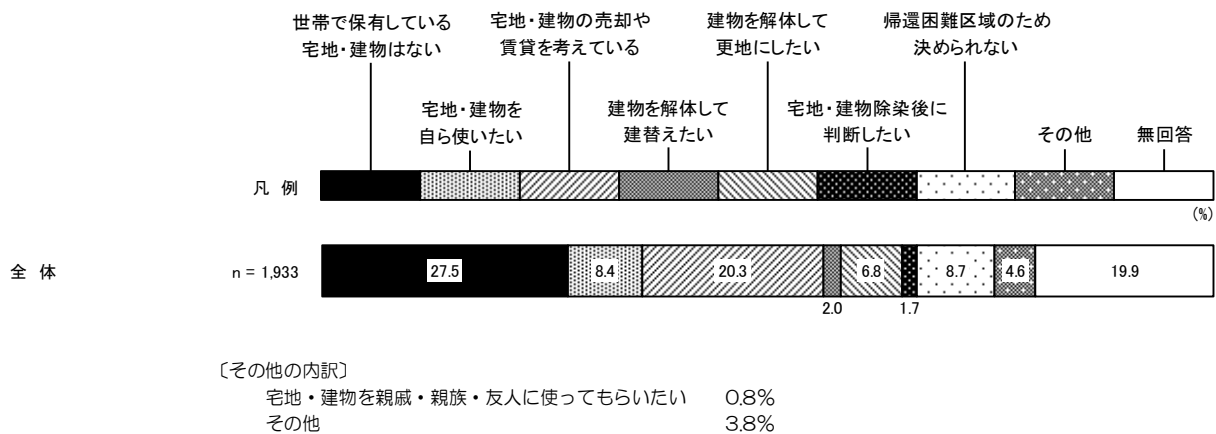
※問9で「未就学児（小学校入学前）」「小学生」「中学生」の方が同居されていると回答した世帯のみで集計

3-8 不動産の取り扱い意向

3-8-1 大熊町内に保有している宅地・建物の利用意向

問21-1 町内に保有している宅地・建物の利用意向についてうかがいます。
現時点でのご意向に関して、もっとも近いものはどれですか。（〇は1つ）
（複数所有している場合は自宅についてお答えください）

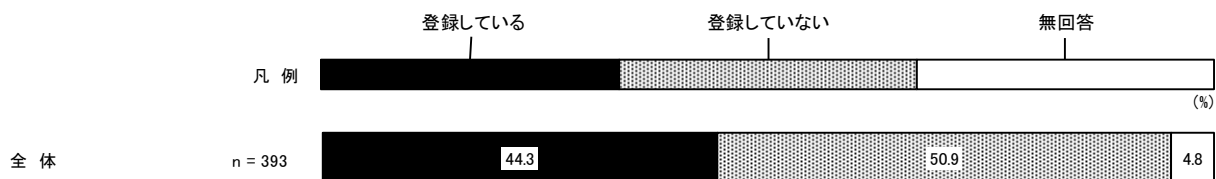
＜図表3-8-1 大熊町内に保有している宅地・建物の利用意向＞



3-8-2 不動産利活用事業への登録

【問21-1で「4. 宅地・建物の売却や賃貸を考えている」と回答した方にうかがいます。】
問21-2 現在おおくままちづくり公社では不動産利活用事業を行っています。あなたはこの事業に登録されていますか。（〇は1つ）

＜図表3-8-2 不動産利活用事業への登録＞

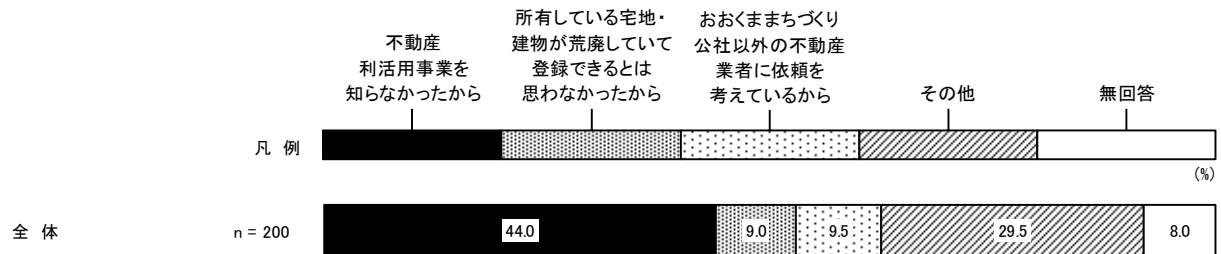


3-8-3 不動産利活用事業に登録していない理由

【問21-2で「2. 登録していない」と回答した方にうかがいます。】

問21-3 おおくままちづくり公社の不動産利活用事業に登録されていない理由を教えてください。（〇は1つ）

＜図表3-8-3 不動産利活用事業に登録していない理由＞

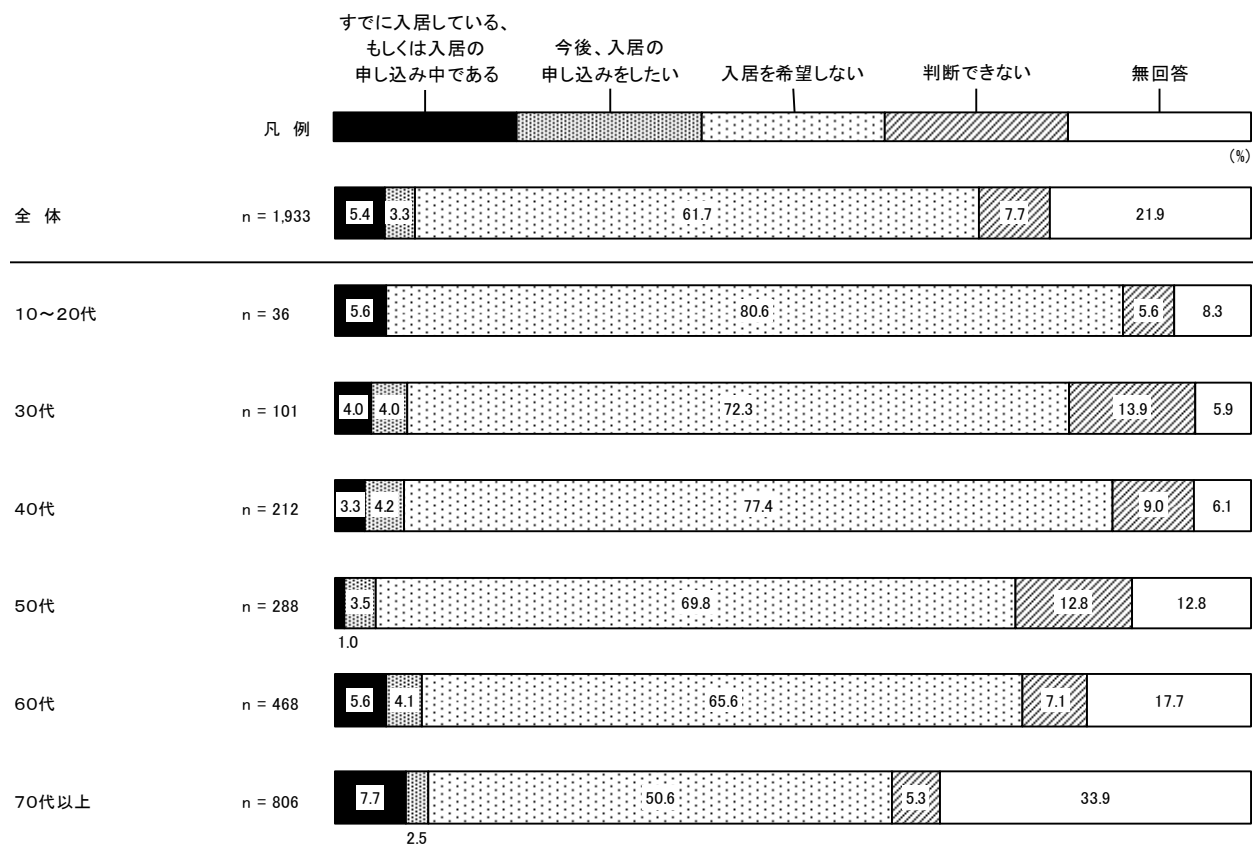


3-9 復興公営住宅

3-9-1 福島県営の復興公営住宅への入居意向

問22-1 福島県営の復興公営住宅（大熊町外）への入居意向について教えてください。（○は1つ）

＜図表3-9-1-1 福島県営の復興公営住宅への入居意向（年齢別）＞



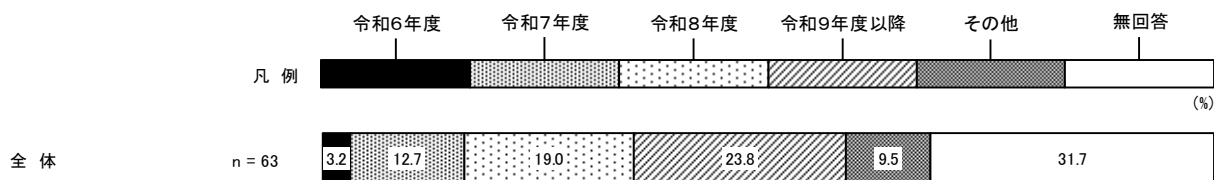
＜図表３－９－１－２ 福島県営の復興公営住宅への入居意向（現在の世帯構成別）＞

	調査数	入居の申し込み中である、もしくは	今後、入居の申し込みをしたい	入居を希望しない	判断できない	無回答
全 体	1933 100.0	105 5.4	63 3.3	1193 61.7	149 7.7	423 21.9
単身世帯：計	410 100.0	61 14.9	21 5.1	208 50.7	35 8.5	85 20.7
15歳以上65歳未満 （中学生を除く）	154 100.0	9 5.8	12 7.8	95 61.7	24 15.6	14 9.1
65歳以上	300 100.0	55 18.3	13 4.3	139 46.3	16 5.3	77 25.7
女性	218 100.0	34 15.6	9 4.1	114 52.3	15 6.9	46 21.1
2人以上の世帯：計	1438 100.0	38 2.6	37 2.6	944 65.6	107 7.4	312 21.7
未就学児（小学校入学前）の いる世帯	97 100.0	1 1.0	3 3.1	75 77.3	7 7.2	11 11.3
小学生のいる世帯	137 100.0	4 2.9	1 0.7	106 77.4	10 7.3	16 11.7
中学生のいる世帯	118 100.0	2 1.7	2 1.7	90 76.3	13 11.0	11 9.3
15歳以上18歳未満 （中学生を除く）のいる世帯	97 100.0	－ －	4 4.1	67 69.1	12 12.4	14 14.4
18歳以上65歳未満の いる世帯	1003 100.0	20 2.0	30 3.0	693 69.1	78 7.8	182 18.1
65歳以上のいる世帯	935 100.0	28 3.0	22 2.4	575 61.5	57 6.1	253 27.1
女性のいる世帯	1393 100.0	37 2.7	33 2.4	924 66.3	100 7.2	299 21.5
65歳以上だけの世帯	426 100.0	18 4.2	7 1.6	248 58.2	28 6.6	125 29.3

3-9-2 福島県営の復興公営住宅への入居を希望する時期

【問22-1で「2. 今後、入居の申し込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】
問22-2 入居を希望する時期について教えてください。（〇は1つ）

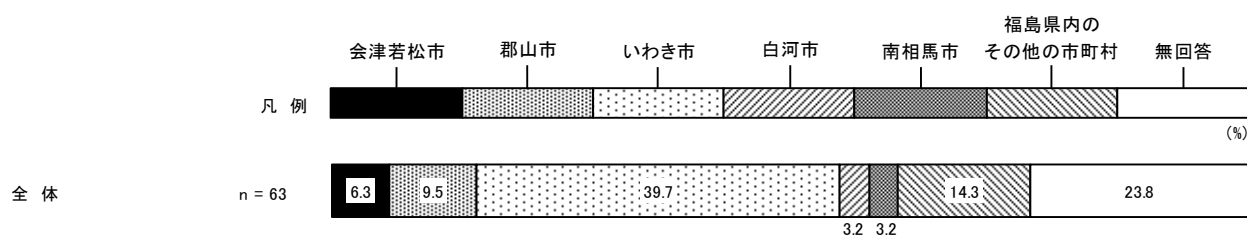
＜図表3-9-2 福島県営の復興公営住宅への入居を希望する時期＞



3-9-3 福島県営の復興公営住宅への入居を希望する市町村

【問22-1で「2. 今後、入居の申し込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】
問22-3 入居を希望する市町村について教えてください。（〇は1つ）

＜図表3-9-3 福島県営の復興公営住宅への入居を希望する市町村＞



〔その他の内訳〕

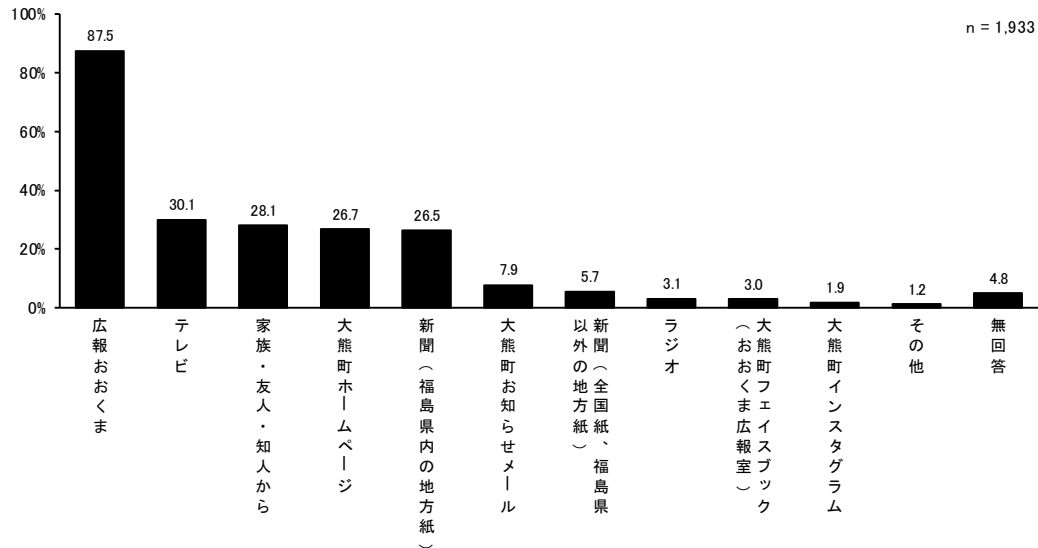
福島市	—
二本松市	—
田村市	—
本宮市	—
福島県内のその他の市町村	14.3%

3-10 情報入手

3-10-1 大熊町に関する情報の入手経路

問23-1 大熊町に関する情報を、どこでお知りになりますか。（〇はいくつでも）

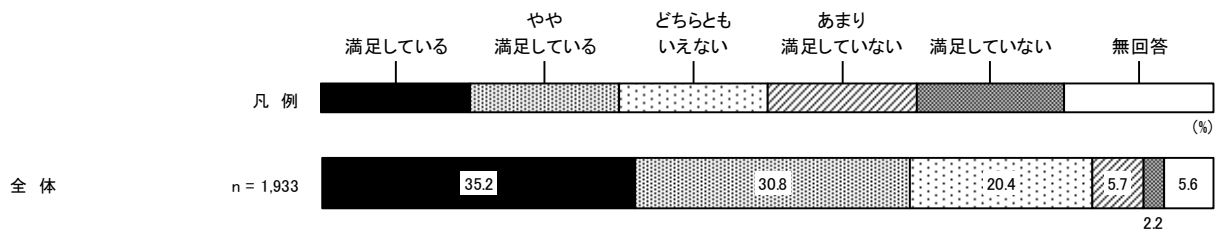
＜図表3-10-1 大熊町に関する情報の入手経路＞



3-10-2 大熊町役場からの情報提供の満足度

問23-2 大熊町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。（〇は1つ）

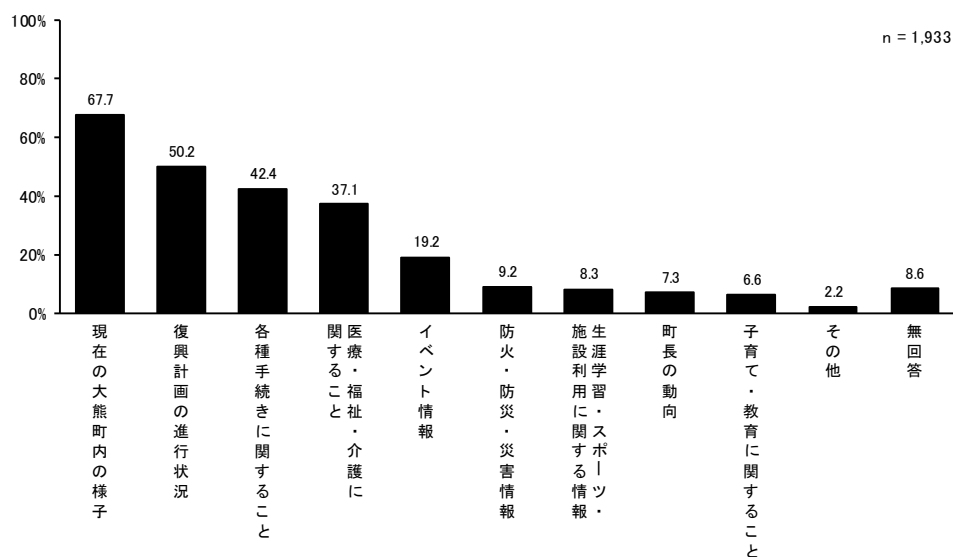
＜図表3-10-2 大熊町役場からの情報提供の満足度＞



3-10-3 関心のある情報

問23-3 大熊町からの情報で強い関心があるものは何ですか。（〇はいくつでも）

＜図表3-10-3 関心のある情報＞

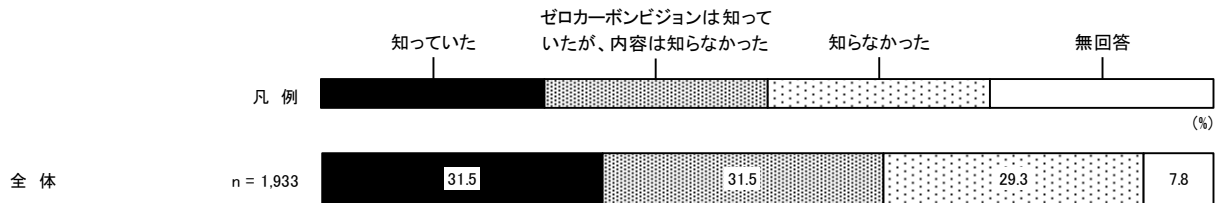


3-11 持続可能なまちづくりへの取り組み

3-11-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」の認知度

問24-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」をご存じでしたか。（○は1つ）

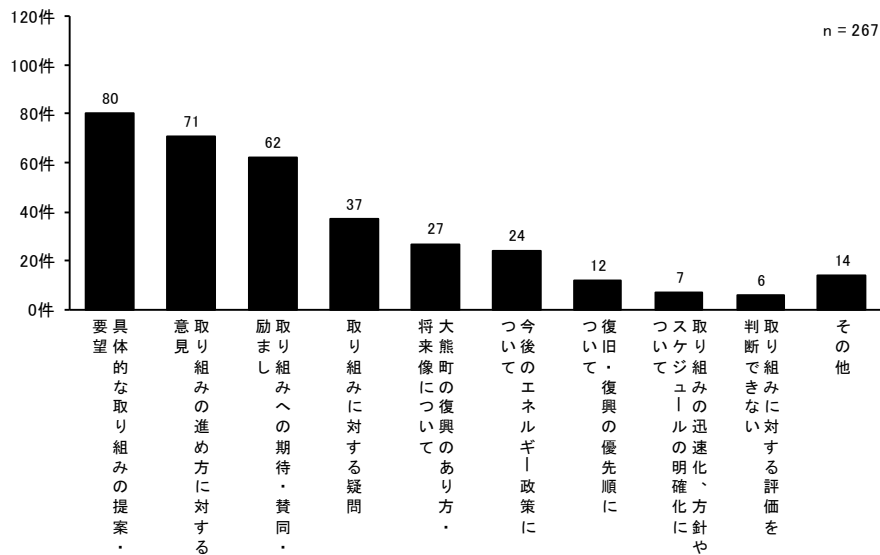
＜図表3-11-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」の認知度＞



3-11-2 持続可能なまちづくりへの取り組みへの意見

問24-2 大熊町の目指している持続可能なまちづくりへの取り組みについて、ご意見などをご自由にお書きください。

＜図表3-11-2 持続可能なまちづくりへの取り組みへの意見＞



Ⅲ 調査結果（全項目）

上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔具体的な取り組みの提案・要望〕

- ・理想ではあるが果たして現実的なのか、ソーラーパネルの廃棄問題はどうなっているのか、課題がたくさんある。ソーラーも最大限利用しつつ、ガス、灯油、ガソリンを併用していくことが現実的ではないか。（４０代・男性）
- ・町内のバスとして水素動力車両やソーラーカーなど使う。ペーパーレス（広報など）、マイパッドなどの活用。（５０代・女性）
- ・自然や景観を大きく変える造成は如何なものかと感じますので、太陽光発電以外でのゼロカーボンを考えることを望みます。処理困難な廃棄物を伴う政策は反対です。リサイクルとセットでお願いしたいです。（５０代・男性）
- ・持続可能という観点で言うと、最近は子供が少なくなって人口が減少して自治体がなくなるということが大変だ。そちらの対策も重要だと思う。（６０代・男性）
- ・大熊町小・中・高生を対象に毎月１回ずつ、継続的にゼロカーボンビジョンを教え育てるとよいのではないかなと思う。（７０代以上・女性）

〔取り組みの進め方に対する意見〕

- ・エネルギー面での持続可能への取り組みも大切だと思うが、震災前までに培われてきた伝統や文化を尊重し、次の世代に継承していくことも併せて必要だと思う。（１０～２０代・男性）
- ・持続可能(エコ)なまちづくりは賛同できるが、それだけでは町民の増加は見込めず、人的な持続は期待できなさそう。だからといって現実的な案も無く申し訳ないです。（３０代・女性）
- ・原発事故は東京に責任がある。放射能も東京で保管する義務がある。大熊町は自然と共生した町として、将来世界から注目される町であるべき。（４０代・女性）
- ・エネルギー源の種類にこだわらずに取組んだ方が良いと思う。（５０代・男性）
- ・原発事故を経験した町だからこそ、進むべき道があると思います。ゼロカーボンと同じように古いものを大切にすることも考えてほしいです。町が変わることは仕方がないことだけれど、すべてを壊して新しくするだけでいいのか。しっかり考えて進んでほしい。（６０代・女性）

〔取り組みへの期待・賛同・励まし〕

- ・震災前とは大きく異なる町の魅力づくりになると思う。なじみが無いので想像しにくい部分もあるが、他地域にとってのモデルになることを願う。（１０～２０代・女性）
- ・このような未曾有の災害の後でも色々な取り組みを考えていて素晴らしいと思いました。継続して環境の整備等頑張ってください。（４０代・女性）
- ・これから、進めようとしている下野上スマートコミュニティ整備事業が、町民をはじめ、多くの店から賛同・共感が得られるように祈念します。（５０代・男性）
- ・再生エネルギーの地産地消は良い事だと思う。ソーラー・風力と今後の維持管理が大変だと思いますが、うまくいく事を願います。（６０代・男性）
- ・太陽光発電と蓄電設備のおかげで、町営・復興住宅の住人は大変喜んでいます。一般家庭住宅にも補助金等の利用で安定した生活を送れる様に配慮願います。（７０代以上・男性）

3-12 意見・要望

問25 国や福島県、大熊町への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、490世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

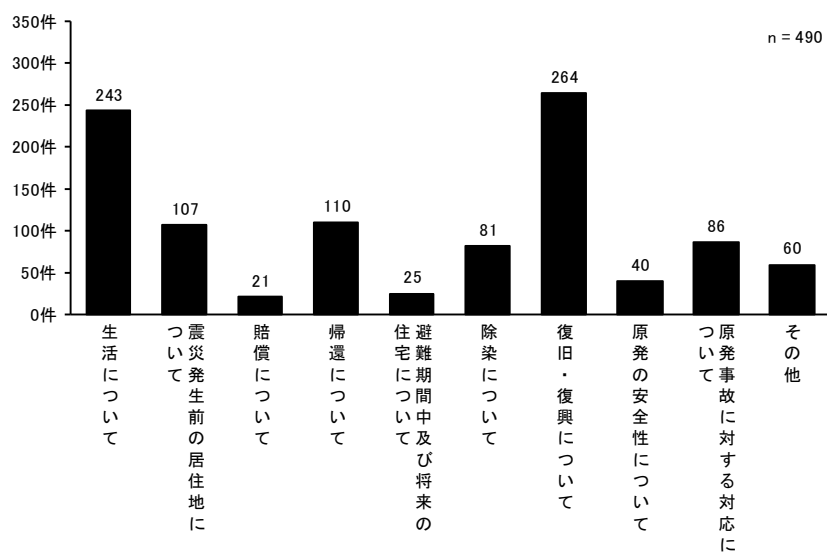
●生活について ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにについてのあきらめ ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について	●除染について ・除染作業の意識について ・除染作業の効果等について ・除染作業の実施箇所等について ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染産廃物の処理について ・処理水（ALPS処理水）について
●震災発生前の居住地について ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地等の管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・所有する墓地の維持・管理・移転について	●復旧・復興について ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について
●賠償について ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他	●原発の安全性について ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について
●帰還について ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他	●原発事故に対する対応について ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて
●避難期間中及び将来の住宅について ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借り上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他	●その他 ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

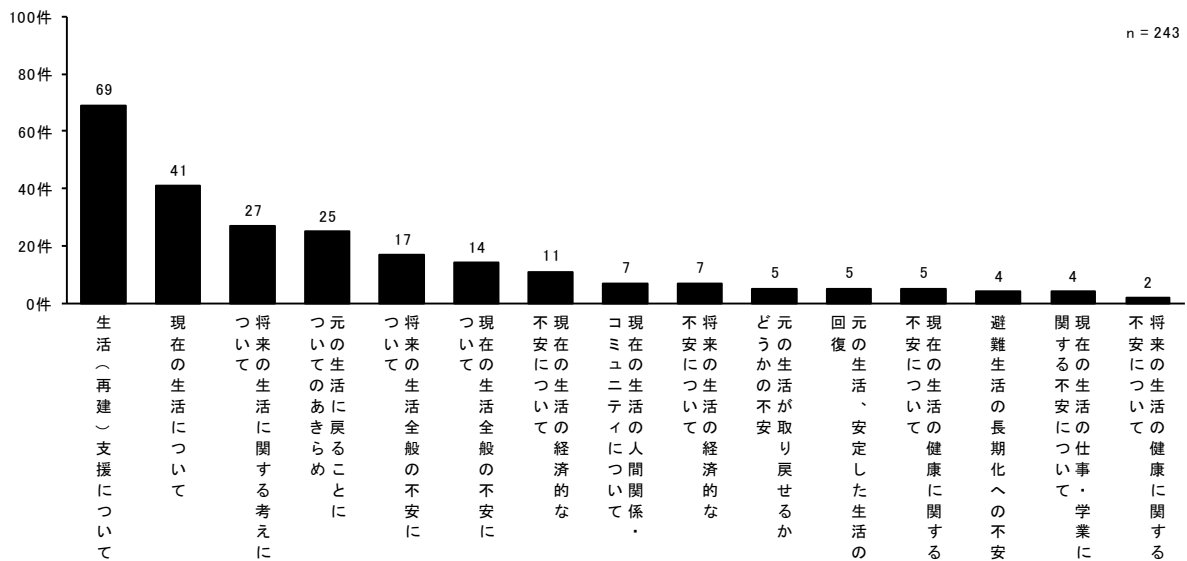
3-12-1 意見に係る記入内容の分類結果

＜図表3-12-1 意見に係る記入内容の分類結果＞



3-12-2 生活について

＜図表3-12-2 生活についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔生活（再建）支援について〕

- ・避難先での支援を忘れないで欲しいです。出張所で、「本庁でない」と言われることが多いです（特に福祉、子育て）。子育てについて、小学校の学童利用について助成を検討していただきたいです。震災がなければ放課後みてくれる人がいた環境でしたが、世帯分離で、自分たちのみでの子育てとなりました。金銭面での負担も大変です。お願いします。（30代・女性）
- ・人はいつまでも同じ年齢ではなく、50代だった親も70に届く年になり動けなくなっていく。子供達は成長し、大人になっていく。1人もとり残さないで、全員に同じ助け、支援をしてほしい。箱物ばかりを作るのではなく、震災の大変さを越えて頑張っている人達を守ってほしい。14年の年月は人を老人にかえています。（40代・男性）
- ・町に戻れるような補助金や助成金をもっと情報発信してほしい。（60代・女性）

〔現在の生活について〕

- ・福島県も大熊町も大変住み良い所でした。気候も人も温かく、安心して住める地域だと感じております。仕事の都合で離れざるを得なくなり、今は遠方で母親の介護をしながら生活しております。私のみやげ話から母も福島県や大熊町に大変興味を持っております。それくらい魅力のある地域だと思っています。今後も定住は難しいかと思いますが（母親の意向があるため）、近くへ行った際には、ぜひ立ち寄り、町の空気を感じておみやげとしたいと思います。（30代・男性）
- ・最近、一時帰宅しましたが、片付けをしないといけないと思いました。個人の感想ですが、住んでいなくても、きれいにしたい気持ちが芽生えました。（50代・男性）
- ・大熊以外の所に住んでいても、今まで通り、大熊町の町民でいたいと思ってます。国や福島県には、時が過ぎても災害、震災のことを忘れないでほしい。（60代・女性）

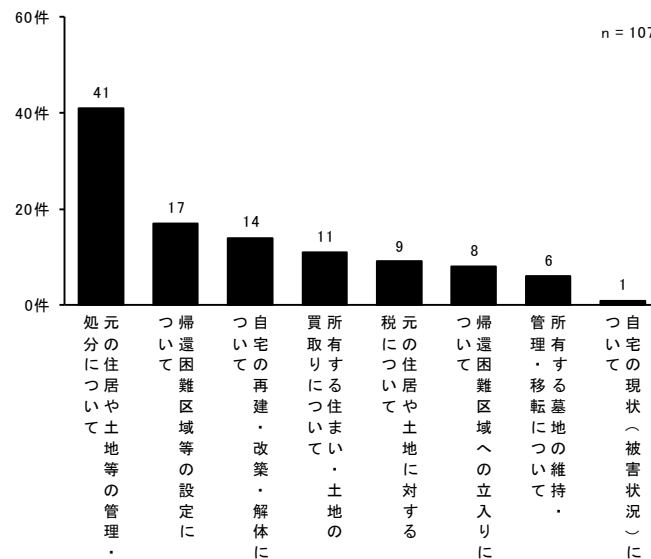
Ⅲ 調査結果（全項目）

〔将来の生活に関する考えについて〕

- 復興して活性化していく町の様子を見ていくのはとても嬉しい気持ちだが、図書館や中学校、ヨークベニマルやレインボーなど思い出のある場所が無くなってしまうのは悲しいです。そのため、大野小学校がインキュベーションセンターとして再利用されると知った時はとても嬉しく感動しました。今ある建物は、なるべく解体せずに再利用の方法をぜひご検討頂きたいです。実家も母校も馴染みのあるスーパーも商店街も無くなってしまいました。将来、子供ができた時に「ここがママが育った、思い出の詰まった町だよ」と紹介するのが夢です。（１０～２０代・女性）
- まだ決めかねているが、いつかは元の家があった所にまた住みたいという気持ちも少しあります。（５０代・女性）
- 原発事故まで暮らした故郷で最終的には公的特老施設でお世話になりたいと期待しています（大熊以外でも）。自立して生活できるのもあとせいぜい１０年位かと思います（女房も）。（７０代以上・男性）

3-12-3 震災発生前の居住地について

＜図表 3-12-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔元の住居や土地等の管理・処分について〕

- 宅地の売却を考えて登録しているが決まらない。（４０代・男性）
- 残っている土地（自宅だった宅地）の固定資産税はどうなるのか？使えない土地、売れない土地…気持的には、国に買い取って欲しい……。国や町の公共事業や建物になる人はいいいけど、なんにも対象にならない所は、売れもしないし貸す事も出来ない。今後はただただ固定資産税を払って土地を保有するのか？立地や条件が色々あるのは分かりますが、何か平等ではない気がします。好きで土地を離れた訳では無いのにね～！やれやれ…。（５０代・男性）
- 町民だれもが一番望んでいる事、心配な事は、残して来た土地、ではないかと思います。一人としてとり残される事ないように、大熊町発展に協力したいと思っているので国、県へ働きかけて下さい。自分の世代だけでなく、引き継ぐ子供達も大熊の土地に悩まないように！（７０代以上・女性）

〔帰還困難区域等の設定について〕

- 帰還困難区域の自宅に戻りたいと考えてはいるが、早く除染していただかないと（元気で身体が動くうちに）。家を健てるにも先へは進まないと思います。（５０代・女性）
- 復興庁の示す特定帰還居住区域等の区分や線引のあり方に対して、不条理であると疑念を抱かざるを得ない。廃炉・中間貯蔵施設とないがしろにして除染を後まわし、それも小分けに後出して被災町・郡民等の顔色をうかがい、帰還意思を示さなければ除染（予算確保）しないような執行に見えてくる。もう１３年経過し、古里大熊へ戻りたくても帰れずに他界した町内、郡内の先輩・知人・友人等を大勢みて、本当に悔しく悲しい限りである。また、この区分・線引きは、復興の妨げと同時に、町民・郡民等の分断や疲弊等に荷担しているように思える。これ以上分断や疲弊等をまねかないように、早期の面的な除染・避難指示解除と被災者への心の復興支援に寄与してほしい。残された時間はありません。（６０代・男性）
- 町内には帰還困難区域が多くあります。一日も早く避難指示解除をしないと、住民達が大熊町には戻ってこなくなります。（７０代以上・男性）

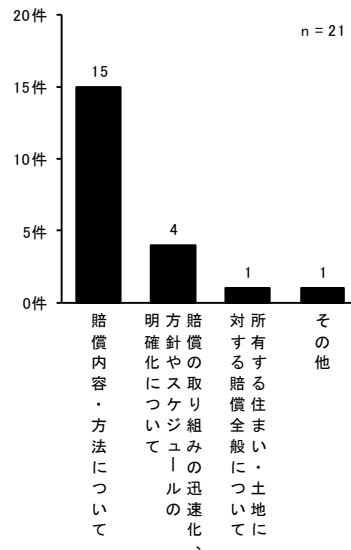
Ⅲ 調査結果（全項目）

〔自宅の再建・改築・解体について〕

- ・家屋解体に伴い、一時的に家屋内の所有物を保管（移転）する場所の確保に難儀しています。建て替えまでの保管場所確保に必要な経費について、助成金のような制度があると助かります。（５０代・男性）
- ・リフォームは、思ったよりも費用がかさむ！帰町者への支援をもっと増すべきである。移住者の支援も必要だが、今後１０年程度は、帰町促進をすべきである。（６０代・男性）
- ・以前から希望していた家屋（半壊状態）を解体する申請がやっと今年９月にできたが、解体作業はおそらく１年以上先になるとのこと。宅地も売却したいが、進展しない気がします。そのような状況において、ゆくゆく固定資産税などを徴収されることになったらと思うと、不安で仕方ないです。（７０代以上・女性）

3-12-4 賠償について

＜図表3-12-4 賠償についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔賠償内容・方法について〕

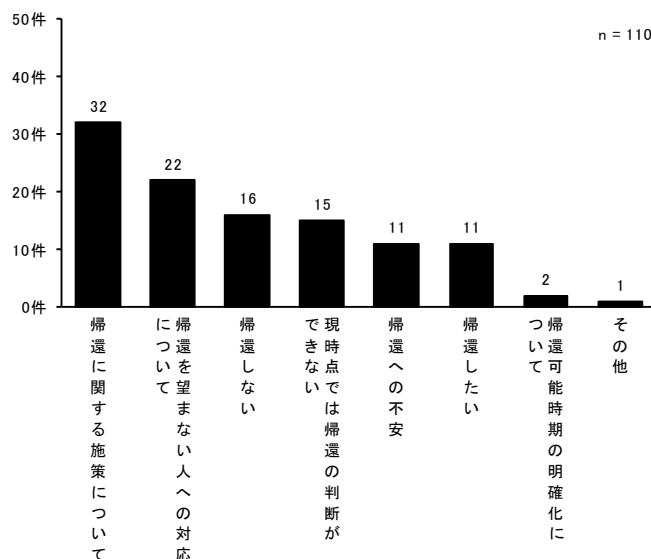
- ・賠償額はどうか？コロナ禍もあり、物価も高くなり、安定した暮らしをする事が出来ない。生活もままならない。早く諸々落ちついた生活を送れるように、いろいろ補償なども検討して欲しいです。（30代・女性）
- ・避難に伴う精神的な被害は大きいにも関わらず、賠償が少なすぎる。（40代・男性）
- ・賠償金の継続及び追加への働きかけと家賃支援における金額の見直し（現状の家賃に全く合っていない支援額）。家賃は毎年上がっていくのに支援金は据え置きか減額になっている。（50代・男性）

〔賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について〕

- ・東電賠償対応が遅すぎる。わざと面倒な手続きにしている。（50代・男性）
- ・東電の賠償金の支払いが停滞している。個人事業者であった者へ賠償額の増額を国会へ要望する。今一番期待していること。（60代・男性）
- ・口では被災者に寄り添うとしながら、些細な理由をこじつけて賠償に応じない東電の姿勢を改めて欲しい。（70代以上・男性）

3-12-5 帰還について

＜図表3-12-5 帰還についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還に関する施策について】

- ・地元民の帰郷、サポートを最優先してほしい。帰りたけど帰れない人は多いと思う。（30代・男性）
- ・町民の比率は非帰還者が帰還者の3倍超となっています。帰還者を増やすことを諦める必要はないと思いますが、新しい住民や企業等を集めていくことに、より注力していくのが早期の復興に寄与すると思います。（50代・男性）
- ・食材や医薬品を筆頭に、毎日を生きていくために必須の物たちを大熊町内ですべて入手できないのに、戻って来ようという気持ちが持てない。いわき市や南相馬市にそれらを依存している現状では、帰町しようと思える人が増えることは絶対にないと思います。商店や医療機関の拡充や誘致をもっと頑張ってください。（70代以上・男性）

【帰還を望まない人への対応について】

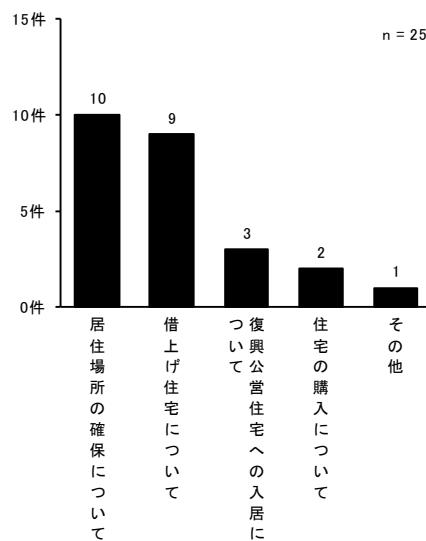
- ・戻らないと決めている世帯が所有している土地、建物の処分への支援を進めてもらいたい。負の遺産を子供たちに残したくない。（40代・男性）
- ・震災から10年以上もたっているのに帰還と言われても、生活基盤ができていて実際難しいのが現実です。帰る人も帰らない人も納得いくような復興の仕方を考えてください。（50代・男性）
- ・大熊町の復興の様子や取り組みが、メディアに取り上げられることはすごく励みになってよいことではある。しかし、あまりにもそればかりが取り上げられ、多くの避難している住民の現状についてはほとんど取り上げられていない。戻らない（戻れない）住民の気持ちや不安、精神的苦痛についてももっと各メディア等で取り上げてもらえるようにしてもらいたい。（60代・男性）

【帰還しない】

- 人生の半分以上を生まれ故郷以外で生活しているため、正直なところ大熊町へ戻りたいと強く思っているかと言われれば、私自身はそうでなくても問題はないと思っている。しかし、以前帰省したときに新しい学び舎を見たときに、かつてお世話になった方々や新しい生徒たちが非常に楽しく過ごしているのを見て、これからそこで暮らしていく人たちにとって更に良い町になれば良いと思った。（１０～２０代・女性）
- 自分は戻るつもりはないが、大熊町の住民であったことを誇りに思っている。双葉郡という、他地域に比べると発展していない中であっても、大熊町には多くの魅力があった。住みたいと思っていた人も多かったと思う。以前とは違うかもしれないが、様々な人が“住みたい”と思える町になってほしいと思う。（５０代・男性）
- 私はもう大熊へは戻れませんが、復興にはまず人口が増えなければならないと思います。人が増え震災前の大熊町に少しでも近くなっていく事を祈っております。（７０代以上・女性）

3-12-6 避難期間中及び将来の住宅について

＜図表 3-12-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- ・元からの大熊町住民なのに、住む家が無い。なぜ他県からの移住者ばかり優先させるのか疑問。町民のための町の公営住宅が必要。元の町民は2～3割だけでしょうか、知らない人ばかり。昔の良さが消えてしまうのではないかと心配である。（40代・女性）
- ・現在、他の町の復興公営住宅に入居中だが、数年経過した為、家賃が上昇。家族がアルバイト等で収入を得た為、まもなく収入超過で住めなくなる。双葉郡内は住居の家賃が高いため、最低家賃の安いいわき市への転居を検討している。以前のように大熊町の町営住宅等があれば、入居を考えるかもしれない。（40代・女性）
- ・仕事や住む場所があれば、戻りたい。（50代・男性）

【借上げ住宅について】

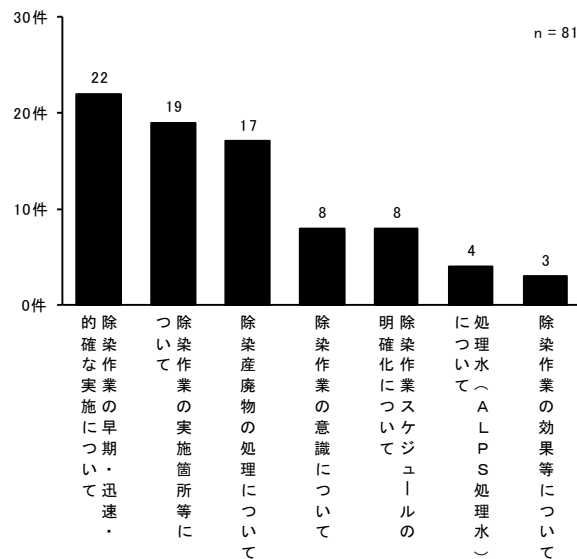
- ・借り上げ住宅の期限があと2年との事だが納得できない。なぜ避難させられたのか…！（30代・男性）
- ・借り上げ住宅が令和8年3月で終了となるため、今後の生活の場をどうしようかと、とても悩んでいる。（40代・女性）
- ・町の復興ばかりに力を入れておりますが、個人の生活再建に関しては二の次になっている。帰還ありきの一方的な対策ばかりで話になりません。13年が過ぎましたが、国はまるで実態調査を避けている様で、今回の借り上げ住宅終了には、呆れます。生活困窮者が出ますよ。色々とおかしな事です。（50代・男性）

【復興公営住宅への入居について】

- ・町の公営住宅に住みたい。（30代・女性）
- ・令和8年3月31日で借り上げ住宅（みなし仮設）の家賃等支援事業の終了となり、以降の住居確保に不安を感じています。現在生活している所、または近隣で生活をしたいと考えていますが、復興住宅には大熊町民が入居できる住宅が無いです。（50代・女性）
- ・私達は今、大熊以外の所に住んでいますが、2年後くらいには、大熊町の公営住宅に移住したいと思っています。今のところ空きがないので、募集が出るのを待っています。その時には高齢者夫婦になってしまいますが、若い人達を優先的に入居させるといったことにならない様に公正にお願いしたいです。（60代・女性）

3-12-7 除染について

＜図表3-12-7 除染についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- ・早く除染を終わらせて下さい。自宅に一刻も早く戻りたいです。（50代・男性）
- ・とにかく早く除染してくれることを望みます。（50代・女性）
- ・大熊町の農業の将来はどうなるのか。農地の除染を早く進めなければならないと思います。（60代・男性）

【除染作業の実施箇所等について】

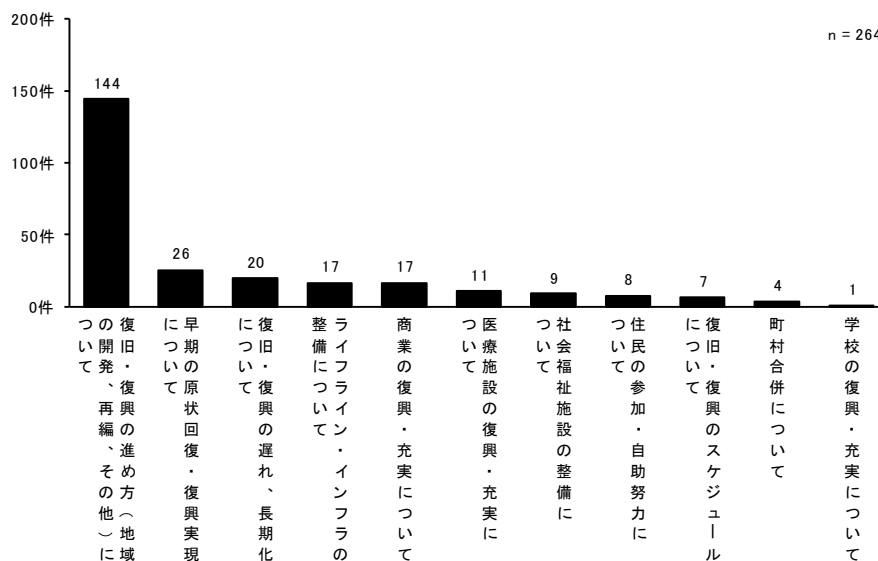
- ・大熊町においても、未だ全てのエリアの除染が行われず解除になっていない事について、プロセスや理由を公表すべき。（70代以上・女性）
- ・未除染エリアの除染の早期完了を。特に農地（田、畑）を早急に完了してほしい。（70代以上・男性）
- ・町内全ての土地を除染し安全、安心して住める環境を早急に整えてもらいたい。（70代以上・男性）

【除染産廃物の処理について】

- ・最終処分場がどこになるかは、避けて通れない重要な問題であります。福島県外の最終処分場への移設は出来ず、このまま大熊町と双葉町が最終処分場になるのではないかと、とても心配しています。中間貯蔵施設のものを県外に全て持ち出すことが法律で規定されています。最終処分場の場所探しに早く取り組んでほしいです。事業終了が2045年3月12日となっていますが、大熊町と双葉町の中間貯蔵施設が負の財産にならないようしてください。今回の政治介入により、福島第一の汚染水問題と同様に切羽詰まってから行動することはないようにしてください。よろしくお願いします。（60代・男性）
- ・大熊町を住める町にしてくださった方々、今後のために頑張っている方々に感謝いたします。中間貯蔵施設がなくなる日を待っています。（60代・女性）
- ・国は一日も早く核の廃棄物を処分して下さい。福島県に対しては、福島第一原発の核の廃棄物を福島県外の処分ではなく福島県内で処分するように要望します。（70代以上・男性）

3-12-8 復旧・復興について

＜図表 3-12-8 復旧・復興についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔復興・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について〕

- まだまだ震災前の活気を取り戻せていないと感じるので、町や、県や、国などで町民や企業と協力しながら町おこしの活動をして欲しい。もし、そのような活動があれば、私もそれにぜひ参加や協力がしたいです。（10～20代・女性）
- 復興を進めてもらうのはいいが、各町で同じ様な取り組み（学校の再開）をしても意味がないと思う。教育、スポーツ、商業施設など各町が特化したものに力を入れて、双葉郡を1つの市として考えては。子供が少ないのだから、学校に通うスクールバスを充実させるとか。ハコモノを作る費用を介護や福祉にまわすとか。携わっていただいている方々に感謝しています。（50代・女性）
- 復興が進んでいるのは大変結構です。しかし建物や施設ばかりが目立ちます。早く以前の人々により農業（とりわけ果物、米作りなど）・商業等が活発になればいいですね。（70代以上・男性）

〔早期の原状回復・復興実現について〕

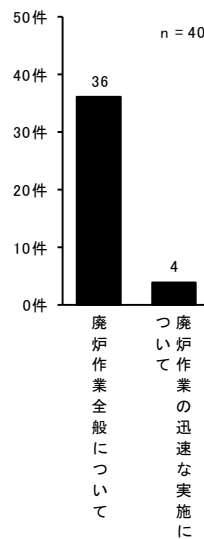
- 元の大熊町の姿に戻るのには難しいでしょうが、近付けることを願っています。故郷ですから。田畑が荒れ、雑草におおわれている姿から、美しい景観の大熊町へ。（50代・男性）
- 一日も早く、安全で安心して生活できる環境作りを希望します。（60代・女性）
- 一日も早く町に戻れる様になることを、確実に安全に、速やかに進める事。（70代以上・男性）

〔復興・復興の遅れ、長期化について〕

- 現在、いわき市に住んでいるが、避難が終わったとは思っていない。特に原子力賠償の考えとしては避難終了が一区切りの考えがあるが、気持ちとしては何も進んでいない。復興も着々と進み現状に慣れ、多少は安定した状況になっている様に見えるが、『終わりなき避難』はいつまで続くのかと考えると気が重くなる。（40代・男性）
- 工事に時間がかかりすぎている。道路の通行止めの期間も長期になっているので、工事期間短縮について検討してほしい。整備が遅れば遅れるほど、帰還や移住を希望する方が少なくなるような気がします。（60代・男性）
- 復興が遅い…。元の町に戻ることはない…。13年が過ぎても町への希望が多く持てない。「ふるさととは遠きにありて思うもの」になりつつある。支援が手厚い、とは思えないまま時が過ぎた。今後も同じ、いや、長い時をどう見て過ごすのか？思いは薄れるばかりだ！！（70代以上・女性）

3-12-9 原発の安全性について

＜図表3-12-9 原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔廃炉作業全般について〕

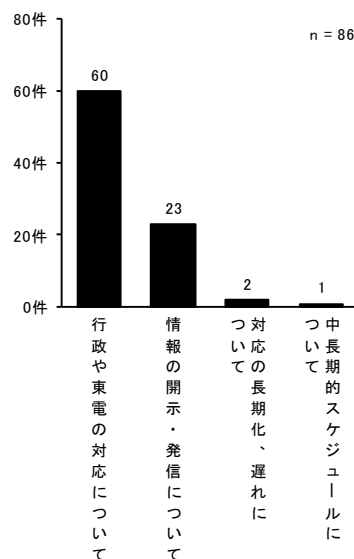
- 原発を廃炉にするまでに相当な時間がかかる事は予想されるが、廃炉無しには町の復興は無いものと考えている。厳しい作業であることは承知しているが、今後も安全に廃炉と復興を進めて頂きたい。（４０代・男性）
- 原発事故から十数年、廃炉は一向に進まず、時間だけが無意味に費やされていく感じです。この間に、友人を含め、多くのものを失いました。県や町は一生懸命に尽力していることは理解できます。この上は、さらに国が全面に出てほしいものです。（６０代・男性）
- デブリの取り出しについては、いろいろな知見者の方が携わってやっている事と思いますが、取り出しについてのニュースを見ていると、うまくいかないのはなんでだろうと思う事が多すぎます。こんな事では大熊町に戻れるようにする事は無理でしょう。大事な作業をする時は日曜・祝日など休んでなんかいられるでしょうか…。まして放射線が出ている状況くらいは素人だってわかっているものです。今少し心して仕事をしたいと思っています。頑張ってください。（７０代以上・女性）

〔廃炉作業の迅速な実施について〕

- 原子力発電は廃炉に向けて動いている様ですが、出来ないようでしたら早く判断してもらい、完全密封を目指してがんばってもらいたいと思います。安全、安心の町づくりをめざしてください。（６０代・男性）
- 震災原発事故から１４年近くたちますが除染がまだ進んでいない地区もあり、また、原発事故の収束がまだ進んでいない。「福島県の復興無くして、日本の復興はない」の言葉が嘘の様だ。何もかも遅れている。復興大臣の交代が早すぎて進まないのでは？（７０代以上・男性）
- 原発の作業も予定通りいかず復興が心配です。（７０代以上・男性）

3-12-10 原発事故に対する対応について

＜図表3-12-10 原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔行政や東電の対応について〕

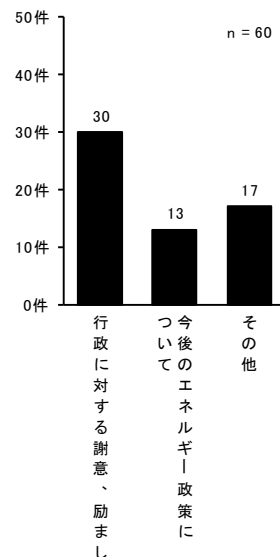
- ・東京電力の賠償について丁寧な対応をしてほしいです。何度も書類提出を求められている。大熊から東京電力に賠償金の受けとりを簡略化してほしいと、お願いしてほしい。手続きをしている途中で疲れてしまっている。知り合いは提出書類を集めるのが大変すぎて、あきらめている人がいる。大熊町から東京電力に強く訴えてほしいです。（４０代・男性）
- ・１３年以上がすぎ、大熊町だけで復興を進めるには、今以上の時間がかかるでしょう。今以上の国・県の手助けが必要と考えます。いつまで待てば良いのか？とため息しかでません。（６０代・女性）
- ・汚染させた責任は事業者にある言いながらも国が責任を持つのであれば、すべて除染して安全・安心に住める、戻れる環境にして欲しい。汚染させた地域や山林を残す事に不安は感じないのか。避難指示が解除され戻れる方もおれば、戻れない方もいる。何らかの術を講ずるのが国・県・町でないか。町は国の言うなりでなく、町民の声をもっと聞くべきではないか。（７０代以上・男性）

〔情報の開示・発信について〕

- ・放射能から町の宝である子どもたちを守ってください。学校周辺の放射能について詳細な測定と情報公開をお願いします。具体的には、土壌の放射線量を測り子ども達及び保護者へ知らせてください。そのためにも、町で土壌の放射線量を測る環境を整えてください。（４０代・女性）
- ・地元へ帰れない現状を、しっかり理解して欲しい。県外に出れば福島原発事故は全く知られていないが、住民はこれだけ苦しんでいる。このことをアナウンスして欲しい。借り上げ住宅が、住民の声も聞かずに勝手に終わるのはあり得ない。（５０代・男性）
- ・国、県、町、専門家、東電の５者により、復興の前提となるデブリ取り出し及び廃炉作業の完了の進捗状況を定期的に検証する場を設けて、適時適切に情報開示すべきと思う。（７０代以上・男性）

3-12-11 その他

＜図表3-12-11 その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政に対する謝意、励まし】

- ・少しずつ変化する町の様子を積極的に発信いただきたい。色々な考え方がある中で難しいこともあると思うが、「時間が止まった」「ゴーストタウン」等の表現に負けずに前進していく様子を、1人でも多くの人に伝えてほしい。大熊町で楽しく生活ができています。町の皆さんや県など携わってくれた全ての人に感謝しています。いつもありがとうございます。（10～20代・女性）
- ・役場で各種手続をする際、どなたもていねいで親切だといつも感じています。近隣他町においては、役場の対応に不満のある方がいたりするので、今後も人に優しい大熊町であって欲しいと思っています。多少不便な事がありますが、帰還して良かったと感じています。町職員の皆様にはご尽力感謝しております。浜通り、町のために少しでも役に立てたらと思い帰還いたしました。家賃補助は大変ありがたいですが、支給時期等見直していただければもう少し生活は楽になるかと思います。検討願いたいです。（50代・女性）
- ・戻らないと決めている者の身勝手な意見ですが、町を再興しようという高い志を持って、役場の仕事に取り組んでいることに心から感謝しています。どうか、町ににぎわいが戻る様、単身赴任でも良いと思うので、町内に住んで業務にあたれば、住民も帰りやすくなるのではないかと思います。（60代・男性）

【今後のエネルギー政策について】

- ・復興のためには、大熊町のランドマークとなるものが必要と思われる。最新鋭の陸上及び洋上の風力発電所の導入を進めて、新たな産業、雇用機会の創出に尽力していただきたい。風力発電所を導入することで、原子力事故のイメージを塗り変えて、町の活気を取り戻し、将来の希望となるようにしてもらいたい。（40代・男性）
- ・廃炉工事がしっかりと進まなければ原発稼働は反対です。（70代以上・女性）
- ・原発や化石エネルギーに頼らずに地域の再生エネルギーを活用して、持続可能エネルギーを是非実現して頂きたい。（70代以上・女性）

IV 參考資料

4-1 使用調査票

令和6年度 大熊町住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

震災発生時、大熊町に住民登録されていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。
世帯内でお話合いの上、ご回答は、**世帯の代表者の方**にお願いいたします。

現在、世帯が何か所かに分かれて避難されている場合には、**それぞれの場所に調査票を送付しておりますので、本調査票が送付されたお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

- ・ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ・「その他」に○をされた場合は、（ ）内に具体的な内容もご記入ください。
の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

● WEBでのご回答

- ・以下に記載のURL又はQRコードにパソコン、スマートフォン等でアクセスいただくことにより、オンラインで回答いただくことができます。

URL : https://src3.webcas.net/form/pub/src5/juuminikoutyousa_02

- ・ご回答の際は、下記調査IDでログインしてください。

調査ID : 20001



● 個人情報について

- ・回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● ご提出方法

- ・ご記入済みの調査票は、**10月20日（日）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

福島県

大熊町

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-990-917

〔設置期間：10月1日（火）～10月18日（金） 平日10時～17時〕

土・日・祝を除く

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
避難地域復興局 避難地域復興課
電話 024-521-8436

〒979-1306 福島県双葉郡大熊町大字大川原字南平1717番地
大熊町役場 企画調整課
電話 0240-23-7586

本調査については、世帯内でよくお話しの上、ご回答ください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 ご記入いただくあなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1. 男性 2. 女性 3. 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 2 ご記入いただくあなたの現在の年齢を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ～19歳 | 8. 50～54歳 |
| 2. 20～24歳 | 9. 55～59歳 |
| 3. 25～29歳 | 10. 60～64歳 |
| 4. 30～34歳 | 11. 65～69歳 |
| 5. 35～39歳 | 12. 70～74歳 |
| 6. 40～44歳 | 13. 75～79歳 |
| 7. 45～49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 3 現在のあなたの世帯の主な収入源となる方の職業を教えてください。
 仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、
 主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態)(○は1つ)

- | | | |
|---------------------------|-----------------|------------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 8. 学生 | } ⇒ <u>問 4-1</u>
(2 ページ)へ |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 9. 無職(職を探していない) | |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) | |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 11. その他 | 【具体的に: |
| 5. 団体職員 | | |
| 6. 公務員 | | |
| 7. パート・アルバイト | | |

【仕事に就いている方(問 3 (1) で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種(○は1つ)

- | | | |
|---------------|-------------------|--------|
| 1. 農業(畜産業を含む) | 8. 卸・小売り・飲食、サービス業 | |
| 2. 林業 | 9. 金融・保険業 | |
| 3. 漁業 | 10. 医療・福祉 | |
| 4. 建設業 | 11. 教育 | |
| 5. 製造業 | 12. 公務 | |
| 6. 電気・ガス・水道業 | 13. その他 | 【具体的に: |
| 7. 運輸業 | | |

【すべての方にうかがいます。】

問 4-1 震災発生当時のお住まいが、現在以下の各区域のどこに該当するかを教えてください。
(○は1つ)

1. 中屋敷・大川原地区(平成31年4月10日避難指示解除)
2. 特定復興再生拠点区域(令和4年6月30日避難指示解除)
3. 特定帰還居住区域(令和5年9月29日認定、令和6年2月2日区域追加)
4. 中間貯蔵施設区域
5. 「1」「2」「3」「4」以外の区域
6. わからない

【すべての方にうかがいます。】

問 4-2 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|----------|---------|------------------------------|
| 1. 中屋敷 | 7. 大野1 | 13. 熊3 | 19. 夫沢1 |
| 2. 野上1 | 8. 大野2 | 14. 町 | 20. 夫沢2 |
| 3. 野上2 | 9. 大川原1 | 15. 熊川 | 21. 夫沢3 |
| 4. 下野上1 | 10. 大川原2 | 16. 野馬形 | 22. その他(わからない場合は住所を記載してください) |
| 5. 下野上2 | 11. 熊1 | 17. 小入野 | 〔 〕 |
| 6. 下野上3 | 12. 熊2 | 18. 大和久 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 5 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような住居形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他〔具体的に: 〕 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | |
| 5. 公営住宅 | |
| 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) | |

【すべての方にうかがいます。】

問 6 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。震災発生時に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、当時の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。(性別ごとに人数で回答)

ア) 未就学児 (小学校入学前)	男性	人	エ) 15歳以上 18歳未満 (中学生を除く)	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
イ) 小学生	男性	人	オ) 18歳以上65歳未満	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
ウ) 中学生	男性	人	カ) 65歳以上の方	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人

現在の状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 7 現在お住まいの自治体を教えてください。(○は1つ)

【浜通り】

1. 大熊町
2. いわき市
3. 相馬市
4. 南相馬市
5. 広野町
6. 楡葉町
7. 富岡町
8. 川内村
9. 浪江町
10. 双葉町
11. 葛尾村
12. 新地町
13. 飯舘村

【中通り(県中)】

22. 郡山市
23. 須賀川市
24. 田村市
25. 鏡石町
26. 天栄村
27. 三春町
28. 小野町
29. 石川町
30. 玉川村
31. 平田村
32. 浅川町
33. 古殿町

【会 津】

43. 会津若松市
44. 喜多方市
45. 下郷町
46. 檜枝岐村
47. 只見町
48. 南会津町
49. 北塩原村
50. 西会津町
51. 磐梯町
52. 猪苗代町
53. 会津坂下町
54. 湯川村
55. 柳津町
56. 三島町
57. 金山町
58. 昭和村
59. 会津美里町

【中通り(県北)】

14. 福島市
15. 二本松市
16. 伊達市
17. 本宮市
18. 桑折町
19. 国見町
20. 川俣町
21. 大玉村

【中通り(県南)】

34. 白河市
35. 西郷村
36. 泉崎村
37. 中島村
38. 矢吹町
39. 棚倉町
40. 矢祭町
41. 塙町
42. 鮫川村

【福島県外】

60. 福島県外(具体的にご記入ください)

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

【すべての方にうかがいます。】

問 8 現在お住まいになっている住宅は、どのような住居形態ですか。(○は1つ)

1. 借上住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)
2. 大熊町営の災害公営住宅・再生賃貸住宅(大熊町内。有償)
3. 福島県営(本宮市営、桑折町営、大玉村営を含む)の復興公営住宅(大熊町外・有償)
4. その他の公営住宅(「2」と「3」は除く。有償)
5. 民間賃貸住宅(有償)
6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など)
7. 持ち家(ご本人またはご家族所有)
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に: _____)

【すべての方にうかがいます。】

問 9 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。（性別ごとに人数で回答）

ア) 未就学児 (小学校入学前)	男性	人	エ) 15歳以上 18 歳未満 (中学生を除く)	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
イ) 小学生	男性	人	オ) 18 歳以上65歳未満	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
ウ) 中学生	男性	人	カ) 65歳以上の方	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人

この1年（令和5年10月～令和6年9月）の大熊町内の活動について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 10 町内の施設、サービス等で利用したものがあれば教えてください。（○はいくつでも）

【町施設】

1. 大熊町役場 本庁舎
2. 大熊町診療所
3. 住民福祉センター
4. 移住定住センター
5. 大熊インキュベーションセンター

【交流ゾーン】

6. 商業施設 おおくまーと
7. 交流施設 Linkる大熊
8. 宿泊温泉施設 ほっと大熊
9. 大熊郵便局

【公共交通】

10. JR常磐線 大野駅
11. 大熊町生活循環バス
12. 新常磐交通バス(富岡駅～浪江FH2R線)
13. 東北アクセス高速バス(東京線)
14. デマンドタクシー(令和6年8月1日開始)

【その他】

15. JA福島さくら 大熊ガソリンスタンド
16. KUMA・PRE
17. その他

（具体的に:

【すべての方にうかがいます。】

問 11 参加した町内開催のイベントがあれば教えてください。（○はいくつでも）

【令和5年】

1. 10月 7日 ふたばワールド2023 in 大熊
2. 10月21日 ふるさとまつり
3. 10月28日 ゼロカーボンフェスティバル
4. 11月25日 紅葉の坂下ダムウォーキング

【令和6年】

5. 1月 7日 里がえりもちつき大会
6. 3月17日 おおくま学園祭
7. 4月 6日 春の坂下ダムウォーキング
8. 5月26日 相馬野馬追凱行列
9. 9月 7日 なつ祭りinおおくま

【上記以外】

10. その他

（具体的に:

将来に関するご意向についてお聞かせください。

大熊町は平成 31 年 4 月に大川原・中屋敷地区の避難指示が解除、令和 4 年 6 月に特定復興再生拠点の避難指示が解除されました。現在、町の総面積 78.71 km²のうち 38.67 km²（総面積の 49.1%）の避難指示が解除されています。震災前の人口は 11,505 人でしたが、令和 6 年 7 月 31 日現在の町内居住者は 1,296 人（うち帰還者 274 人）です。昨年 8 月 1 日時点より、町内居住者が 294 人（うち帰還者 41 人）増えています。

令和 5 年 4 月、大川原地区に開校した認定こども園・義務教育学校の「学び舎ゆめの森」には、57 人が在籍（令和 6 年 7 月 1 日現在）し、通学しています。

特定復興再生拠点では、大野地区、原地区に再生賃貸住宅が整備され、令和 6 年 4 月より入居を開始しています。令和 7 年 3 月には大野駅西地区に産業交流施設、商業施設がグランドオープン、令和 9 年度には原地区に整備する公設民営の商業施設にスーパーマーケットが出店予定です。休止中の県立大野病院は、現在の場所に建て替え令和 11 年度以降に開業する方針が福島県から示されています。

特定復興再生拠点区域外について、国は令和 3 年 8 月に「2020 年代（令和 11 年まで）をかけて、帰還意向のある住民が帰還できるよう、避難指示解除の取組を進めて行く」方針を示しました。令和 5 年 9 月 29 日付で、大熊町特定帰還居住区域復興再生計画が認定（令和 6 年 2 月 2 日に区域追加し、変更認定）され、同区域では除染・家屋解体や道路・上下水道等のインフラ復旧等を一体的に進め、避難指示解除に向けた取組を進めています。将来的には、町内全域の避難指示解除を目指しています。

【すべての方にうかがいます。】

問 12 今後、大熊町への帰町について、現時点でどのようにお考えですか。（○は1つ）

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. すでに大熊町で生活している | } ⇒ <u>問 13-1(6 ページ)へ</u> |
| 2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む) | |
| 3. まだ判断がつかない | ⇒ <u>問 15-1(8 ページ)へ</u> |
| 4. 戻らないと決めている | ⇒ <u>問 17-1(11 ページ)へ</u> |

問 13-1 からは、問 12 で「1. すでに大熊町で生活している」
「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。

問 13-1 大熊町内に戻ることを考えた理由は、どのようなことですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1. 自宅周辺の除染・避難指示解除が期待できること | 8. 認定こども園・義務教育学校が開校したこと |
| 2. 放射線量が低減されたこと | 9. 診療所が開所したこと |
| 3. 水道水等、生活用水の安全性が確認されたこと | 10. 高齢者グループホームが開所したこと |
| 4. 商店・飲食店が開業したこと | 11. 働く場・雇用機会があること |
| 5. 自宅や公営住宅等が整備されたこと | 12. 気持ちが安らぐこと |
| 6. 鉄道・生活循環バスなど公共交通機関が運行していること | 13. 家族・友人・知人が町内に居住していること |
| 7. 役場機能が再開したこと | 14. その他（具体的に：_____） |

問 13-2 大熊町内での今後の生活において必要だと感じていることについて教えてください。（○はいくつでも）

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1. 継続的な健康管理など、放射線に対する不安解消への取り組み | 9. 保育・教育環境の充実 |
| 2. フォローアップ除染（再除染）の実施 | 10. 運動施設の整備 |
| 3. 商業施設の再開・充実 | 11. 医療機関（診療科）の充実 |
| 4. 公営住宅・居住環境の整備 | 12. 介護・福祉施設の充実 |
| 5. 鉄道・バスなどの公共交通機関の充実 | 13. 雇用確保の支援 |
| 6. 見守り活動の継続 | 14. 町内コミュニティ活動（行政区などの活動も含む）の機会 |
| 7. 防犯体制の強化 | 15. 生涯学習の環境 |
| 8. 有害鳥獣対策の強化 | 16. その他（具体的に：_____） |

問 13-3 問 13-2 で選択した「必要だと感じていること」のうち、特に必要と考えることについて、選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きください。（最大3つまで）

問 13-2 の 選択肢番号	具体的なお考えや今後の期待、要望

→ 問 12 で「1. すでに大熊町で生活している」と回答した方は、問 19(14 ページ)へ

→ 問 12 で「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」を選んだ方は、問 14-1(7 ページ)へ

問 14-1 からは、問 12 で
「2. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。

問 14-1 今後大熊町へ何年以内に戻りたいと考えていますか。（○は1つ）

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 1年以内(令和7年・2025年) | 4. しばらく様子をみたい |
| 2. 3年以内(令和9年・2027年) | 5. その他 |
| 3. 5年以内(令和11年・2029年) | 【具体的に: |

問 14-2 大熊町へ戻る場合に、家族の全員か一部かについて教えてください。（○は1つ）

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 家族全員での帰町を考えている | } ⇒ 問 14-3 へ |
| 2. 家族一部での帰町を考えている | |
| 3. 現在検討しているところ | } ⇒ 問 15-1(8 ページ) へ |
| 4. まだわからない | |

【問 14-2 で「1. 家族全員での帰町を考えている」「2. 家族一部での帰町を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 14-3 帰町した場合にどのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて現在の年齢・学齢にあてはまる人数を、性別ごとにご回答ください。（性別ごとに人数で回答）

ア) 未就学児 (小学校入学前)	男性	人	エ) 15歳以上 18 歳未満 (中学生を除く)	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
イ) 小学生	男性	人	オ) 18 歳以上65歳未満	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人
ウ) 中学生	男性	人	カ) 65歳以上の方	男性	人
	女性	人		女性	人
	無回答	人		無回答	人

問 15-1 からは、問 12 で「2. 戻りたいと考えている
(将来的な希望も含む)」 「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。

問 15-1 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要・充実させるべきと考える施設を教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 医療施設 | 5. 商業施設 |
| 2. 介護・福祉施設 | 6. 金融機関・ATM |
| 3. 保育・教育施設 | 7. その他 |
| 4. 運動施設 | 具体的に: |

問 15-2 大熊町に戻る場合に、今後の生活において特に必要と考えるサービスを教えてください。(○はいくつでも)

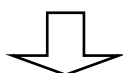
- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 住宅の修繕・建て替えの相談サービス | 7. 食事宅配サービス |
| 2. 雇用確保・就業支援の相談サービス | 8. 公共交通サービス |
| 3. 安否確認・見守りサービス | 9. 通信環境改善の相談サービス |
| 4. 健康相談・生活相談サービス | 10. 教育環境の充実・サービス |
| 5. 健康増進・介護予防サービス | 11. その他 |
| 6. 移動販売サービス | 具体的に: |

問 15-3 大熊町に戻る場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|--------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む) | 8. 給与住宅(社宅など) |
| 2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の
持ち家を建てたい | 9. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい | 10. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(一戸建) | 11. その他 |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 具体的に: |
| 6. 公営住宅(一戸建) | |
| 7. 公営住宅(集合住宅) | 12. 現時点では判断できない |

問 15-4 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住に関する意向について、もっとも近いものはどれですか。(○は1つ)

1. 大川原地区内の復興拠点に居住したい
2. 特定復興再生拠点区域に居住したい
3. 大川原地区内の復興拠点や特定復興再生拠点区域には居住しない
4. 判断ができない ⇒ 問 15-5(9 ページ)へ



問 15-4 で「1」から「3」のいずれかを選び、
問 12 で「2. 戻りたいと考えている
(将来的な希望も含む)」を選んだ方は
問 19(14 ページ)へ

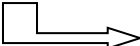


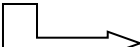
問 15-4 で「1」から「3」のいずれかを選び、
問 12 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は
問 16-1(10 ページ)へ

【問 15-4 で「4. 判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問 15-5 大川原地区内の「復興拠点」や、JR大野駅周辺や下野上地区を中心とした「特定復興再生拠点区域」への居住について、現時点で判断ができない理由はどのようなことですか。
(○はいくつでも)

1. 周辺環境がわからないから
2. 病院、道路、公共交通などの社会基盤(インフラ)がどの程度整備されるかわからないから
3. 生活関連施設がどの程度整備されるかわからないから
4. 生活の拠点にできるかわからないから
5. どのような人が住むかわからなく不安だから
6. 自身の生活の見通しがたっていないから
7. 帰還困難区域の自宅近辺の避難指示解除・復興の見通しによってはそちらに居住したいから
8. その他(具体的に:)

 問12で「2. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)」を選んだ方は、問19(14 ページ)へ

 問12で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問16-1(10 ページ)へ

問 16-1 からは、問 12 で「3. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。

問 16-1 大熊町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(○はいくつでも)

1. 帰還困難区域の避難指示解除となる時期の目安に関する情報
2. 病院、道路、公共交通などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
3. どの程度の住民が戻るかの状況
4. 放射線量の低下の目途、除染成果の状況
5. 中間貯蔵施設の情報
6. 原子力発電所の安全性に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
7. 放射線の人体への影響に関する情報
8. 働く場の確保の目途
9. 賠償額の確定
10. 住宅確保への支援に関する情報
11. 認定こども園、義務教育学校に関する情報
12. 小売店、飲食店等の営業情報
13. その他(具体的に:)

問 16-2 問 16-1 で選択した「必要なこと」のうち、特に必要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の期待、要望などがあればご自由にお書きください。(最大3つまで)

問 16-1 の 選択肢番号	具体的なお考えや今後の期待、要望

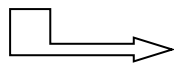
問 17-1 からは、問 12 で「3. まだ判断がつかない」
「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。

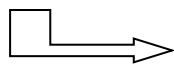
問 17-1 大熊町との“つながり”を保ちたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------|-----------|
| 1. そう思う | 2. そう思わない |
|---------|-----------|

問 17-2 今後、大熊町にどのぐらいの頻度で訪れたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. 1週間に1回以上 | 5. 1年に1回程度 |
| 2. 1か月に1回程度 | 6. 2～3年に1回程度 |
| 3. 2～3か月に1回程度 | 7. 訪れるつもりはない |
| 4. 半年に1回程度 | 8. 訪れたいが訪れることができない |

 問 12 で「3. まだ判断がつかない」を選んだ方は、問 19(14 ページ)へ

 問 12 で「4. 戻らないと決めている」を選んだ方は、問 18-1(12 ページ)へ

問 18-1 からは、問 12 で
「4. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。

問 18-1 現時点で戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

【帰町の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから
4. 中間貯蔵施設が整備されているから
5. 原子力発電所の廃炉作業が行われているから

【町内の復旧状況に関わるもの】

6. 特定復興再生拠点区域外であり解除の見通しが立っていないから
7. 大熊町に戻っても仕事がなさそうだから
8. 大熊町での事業の再開が難しいから
9. 営農再開に不安があるから
10. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
11. 大熊町外への移動交通が不便だから
12. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
13. 医療環境に不安があるから
14. 介護・福祉サービスに不安があるから
15. 教育環境に不安があるから
16. 生活に必要な商業施設などが不足しているから

【今後の生活に関わるもの】

17. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
18. 子供の遊び場(屋内・屋外)が無いから
19. 他の住民も戻りそうにないから
20. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
21. 帰町までに時間がかかるから
22. 避難先で仕事を見つけているから
23. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
24. 避難先の方が、生活利便性が高いから
25. すでに生活基盤ができているから
26. その他

【具体的に:

問 18-2 問 18-1 で選択した「戻らない理由」のうち、特に重要と考えることについて選択肢番号の欄に番号をご記入いただき、具体的なお考えや今後の要望などがあればご自由にお書きください。(最大3つまで)

問 18-1 の 選択肢番号	具体的なお考えや今後の要望

問 18-3 今後の生活においてどのような支援を求めますか。(○はいくつでも)

1. 継続的な健康管理の支援
2. 雇用確保の支援
3. 役場からの継続的な情報提供
4. イベントや交流の場の開催

5. 一時帰宅支援

6. その他

【具体的に:

問 18-4 今後の居住を検討している(既に居住している場合を含む)自治体はどの自治体になるかを教えてください。(○は1つ)

【浜通り】 1. いわき市 2. 相馬市 3. 南相馬市 4. 広野町 5. 檜葉町 6. 富岡町 7. 川内村 8. 浪江町 9. 双葉町 10. 葛尾村 11. 新地町 12. 飯舘村	【中通り(県中)】 21. 郡山市 22. 須賀川市 23. 田村市 24. 鏡石町 25. 天栄村 26. 三春町 27. 小野町 28. 石川町 29. 玉川村 30. 平田村 31. 浅川町 32. 古殿町	【会 津】 42. 会津若松市 43. 喜多方市 44. 下郷町 45. 檜枝岐村 46. 只見町 47. 南会津町 48. 北塩原村 49. 西会津町 50. 磐梯町 51. 猪苗代町 52. 会津坂下町 53. 湯川村 54. 柳津町 55. 三島町 56. 金山町 57. 昭和村 58. 会津美里町
【中通り(県北)】 13. 福島市 14. 二本松市 15. 伊達市 16. 本宮市 17. 桑折町 18. 国見町 19. 川俣町 20. 大玉村	【中通り(県南)】 33. 白河市 34. 西郷村 35. 泉崎村 36. 中島村 37. 矢吹町 38. 棚倉町 39. 矢祭町 40. 塙町 41. 鮫川村	【福島県外】 59. 福島県外(具体的にご記入ください) (都・道・府・県) (市・町・村・区)

問 18-5 今後のお住まいとして希望する(既に居住している場合を含む)住宅は、どのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建) 2. 持ち家(マンションなど) 3. 民間賃貸住宅(一戸建) 4. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど) 5. 公営住宅(一戸建) 6. 公営住宅(アパート・マンションなど)	7. 給与住宅(社宅など) 8. 家族のどなたかのお住まい 9. 親戚・知人宅 10. その他
	具体的に:

大熊町内での就労意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 19 町では町内への企業誘致を進めています。町内で働く場が整備された際、あなたを含めたご家族で就労を希望する方はいらっしゃいますか。(○は1つ)
町内で就労したい方は、就労を希望する人数を性別ごとにご回答ください。

1. 町内で就労したい
⇒〔就労を希望する方の人数：男性 人／女性 人／無回答 人〕
2. 条件が合えば町内で就労したい
3. 町内での就労希望者はいない

教育施設「学び舎ゆめの森」についてお聞かせください。

【中学生以下のお子様・お孫様がいらっしゃる世帯の方にうかがいます。】

問 20-1 町では令和5年春に、会津若松市から学校機能に移転し、町内の大川原地区に認定こども園・義務教育学校「学び舎ゆめの森」を開校しました。
お子様やお孫様の通園・通学のご意向について教えてください。(○は1つ)

1. すでに通園・通学している ⇒ 問 21-1(15 ページ)へ
2. 通園・通学をさせたい ⇒ 問 20-2 へ
3. 通園・通学の意向はない } ⇒ 問 21-1(15 ページ)へ
4. わからない

【問 20-1 で「2. 通園・通学をさせたい」と回答した方にうかがいます。】

問 20-2 お子様・お孫様を、通園・通学をさせたい校種について教えてください。(○はいくつでも)

1. 認定こども園(保育・幼稚)
2. 義務教育学校

【問 20-1 で「2. 通園・通学をさせたい」と回答した方にうかがいます。】

問 20-3 預かり保育、学童保育のご利用の意向について教えてください。(○は1つ)

1. 利用したい
2. 利用の意向はない

不動産（土地・家屋）の取り扱い意向についてお聞かせください。

問 21-1 町内に保有している宅地・建物の利用意向についてうかがいます。
現時点でのご意向に関して、もっとも近いものはどれですか。（○は1つ）
（複数所有している場合は自宅についてお答えください）

1. 世帯で保有している宅地・建物はない
2. 宅地・建物を自ら使いたい
3. 宅地・建物を親戚・親族・友人に使ってもらいたい
4. 宅地・建物の売却や賃貸を考えている ⇒ [問 21-2 へ](#)
5. 建物を解体して建替えたい
6. 建物を解体して更地にしたい
7. 宅地・建物除染後に判断したい
8. 帰還困難区域のため決められない
9. その他（具体的に： _____）

→ [問 21-1 で「4」以外を選んだ方は、問 22-1（16 ページ）へ](#)

【問 21-1 で「4. 宅地・建物の売却や賃貸を考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 21-2 現在おおくままちづくり公社では不動産利活用事業を行っています。あなたはこの事業に登録されていますか。（○は1つ）

1. 登録している ⇒ [問 22-1（16 ページ）へ](#)
2. 登録していない ⇒ [問 21-3 へ](#)

◆不動産利活用事業とは◆

町がおおくままちづくり公社に委託している事業で、不動産の売買や賃貸を希望する町民に土地や建物の情報を登録いただき、利用希望者とのマッチングを行い、町内不動産の利活用につなげることを目的としています。

問い合わせ先：一般社団法人 おおくままちづくり公社
電話番号：0240-23-7101
受付：平日 9 時～17 時 45 分

【問 21-2 で「2. 登録していない」と回答した方にうかがいます。】

問 21-3 おおくままちづくり公社の不動産利活用事業に登録されていない理由を教えてください。（○は1つ）

1. 不動産利活用事業を知らなかったから
2. 所有している宅地・建物が荒廃していて登録できるとは思わなかったから
3. おおくままちづくり公社以外の不動産業者に依頼を考えているから
4. その他（具体的に： _____）

復興公営住宅についてお聞かせください。

◆復興公営住宅とは◆

将来の帰町に向け、仮設住宅等から安定的な居住・生活環境に移っていただくためなど、原子力災害により避難の継続を余儀なくされている方々の居住の安定を確保するために、福島県が主体となり整備している公営住宅。

※大熊町が整備した町内の災害公営住宅とは異なりますのでご注意ください。

【すべての方にうかがいます。】

問 22-1 福島県営の復興公営住宅（大熊町外）への入居意向について教えてください。（○は1つ）

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1. すでに入居している、もしくは入居の
申し込み中である | 3. 入居を希望しない |
| 2. 今後、入居の申し込みをしたい
⇒ 問 22-2 へ | 4. 判断できない [判断できない理由:] |

→ 問 22-1 で「2」以外を選んだ方は、問 23-1(17 ページ)へ

【問 22-1 で「2. 今後、入居の申し込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 22-2 入居を希望する時期について教えてください。（○は1つ）

- | | | |
|----------|------------|------------------|
| 1. 令和6年度 | 3. 令和8年度 | 5. その他 [具体的に:] |
| 2. 令和7年度 | 4. 令和9年度以降 | |

【問 22-1 で「2. 今後、入居の申し込みをしたい」と回答した方にうかがいます。】

問 22-3 入居を希望する市町村について教えてください。（○は1つ）

- | | | |
|----------|---------|----------------------------------|
| 1. 福島市 | 6. 二本松市 | 10. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください |
| 2. 会津若松市 | 7. 田村市 | [] (市・町・村) |
| 3. 郡山市 | 8. 南相馬市 | |
| 4. いわき市 | 9. 本宮市 | |
| 5. 白河市 | | |

※この質問への回答により、入居申し込み等に影響があるものではありません

◆ 福島県の整備する復興公営住宅に関するお問い合わせはこちらへ ◆

福島県 生活拠点課 TEL : 024-521-8306

大熊町からの情報入手についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 23-1 大熊町に関する情報を、どこでお知りになりますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1. 広報おおくま | 8. テレビ |
| 2. 大熊町お知らせメール | 9. ラジオ |
| 3. 大熊町ホームページ | 10. 家族・友人・知人から |
| 4. 大熊町フェイスブック(おおくま広報室) | 11. その他 |
| 5. 大熊町インスタグラム | 【具体的に: |
| 6. 新聞(福島県内の地方紙) | 】 |
| 7. 新聞(全国紙、福島県以外の地方紙) | |

【すべての方にうかがいます。】

問 23-2 大熊町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 満足している | 4. あまり満足していない |
| 2. やや満足している | 5. 満足していない |
| 3. どちらともいえない | |

【すべての方にうかがいます。】

問 23-3 大熊町からの情報で強い関心があるものは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 現在の大熊町内の様子 | 7. 医療・福祉・介護に関すること |
| 2. 復興計画の進行状況 | 8. 子育て・教育に関すること |
| 3. 各種手続きに関すること | 9. 生涯学習・スポーツ・施設利用に関する情報 |
| 4. イベント情報 | 10. その他 |
| 5. 町長の動向 | 【具体的に: |
| 6. 防火・防災・災害情報 | 】 |

大熊町の持続可能なまちづくりへの取り組みについてお聞かせください。

大熊町は令和3年2月、ゼロカーボンビジョンを策定しました。

これは、二酸化炭素の排出を大幅に削減し、2040年には実質ゼロ、2050年にはマイナス達成とすることを目指すものです。

大熊町は、原発事故を経験した町だからこそ、原発や化石エネルギーに頼らず、地域の再生可能エネルギーを活用した持続可能なまちづくりに取り組み、私たちの子ども、孫たちが誇りをもって語れる町を目指します。

大熊町は「徹底した省エネの取り組み」、「再生可能エネルギーの地産地消」の先導的エリアとして、下野上スマートコミュニティの整備を行う等、ゼロカーボンの達成に向けた取り組みを推進しています。

【すべての方にうかがいます。】

問 24-1 「大熊町ゼロカーボンビジョン」をご存じでしたか。(○は1つ)

1. 知っていた
2. ゼロカーボンビジョンは知っていたが、内容は知らなかった
3. 知らなかった

【すべての方にうかがいます。】

問 24-2 大熊町の目指している持続可能なまちづくりへの取り組みについて、ご意見などをご自由にお書きください。

国や福島県、大熊町へのご意見などについてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 25 国や福島県、大熊町への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
10月20日(日)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**大熊町 住民意向調査
報告書**

令和7年3月

復興庁 福島県 大熊町

調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター